

環境レポート2016



ユニー株式会社



会社概要

本 社	〒492-8680 愛知県稲沢市天池五反田町1番地
設 立	2012年2月16日*
資 本 金	100億円 (2016年2月21日時点)
代 表 者	佐古 則男
事業内容	衣・食・住・余暇にわたる総合小売業のチェーンストア
売上構成	衣料品13.7%・食料品69.9%・住居関連品14.8%・その他1.6% (2016年2月期)
決 算 期	2月20日 (年1回)
店 舗 数	1府19県下に215店舗 (2016年9月1日時点)
従業員数	28,176名 (2016年2月期)
営業収益	7,579億円 (2016年2月期)
主要取引銀行	三菱東京UFJ銀行、住友信託銀行
HPアドレス	http://www.uny.co.jp
主なグループ企業	(株)ファミリーマート、(株)99イチバ、(株)モリエ、UNY (HK) CO.,LIMITED、 優友 (上海) 商貿有限公司、(株)UCS、(株)サン総合メンテナンス、(株)サンリフォーム、(株)ネクスコム、 (株)マイサポート、(株)ユニフード、(株)ナガイ、(株)ピアゴ関東

*純粋持株会社体制移行にあたり、準備会社としてユニグループ・ホールディングス (株) を設立した日です。

なお、2013年2月21日付けで (旧) ユニー (株) を事業会社と持株会社 (存続会社) に会社分割し、準備会社が事業会社を吸収するとともに両社の商号を入れ替えました。

事業所

※2016年9月1日時点

中京エリア

- 名古屋市 ポートウォークみなと (アビタ港店)、ヒルズウォーク徳重ガーデンズ (ピアゴラ フーズコア徳重店)、アビタ新守山店、アビタ千代田橋店、アビタ東海通店、アビタ名古屋北店、アビタ名古屋南店、アビタ鳴海店、アビタ緑店、ピアゴ味鋺店、ピアゴ植田店、ピアゴ西城店、ピアゴ鹿山店、ピアゴ清水山店、ピアゴ守山店、ピアゴ中村店、ピアゴ平針店、ピアゴラ フーズコア萱場店、ピアゴラ フーズコア正保店、ピアゴラ フーズコア柴田店、ピアゴラ フーズコア神野店、ピアゴラ フーズコア滝ノ水店、ピアゴラ フーズコア黒川店、ピアゴラ フーズコア今池店、ピアゴラ フーズコア桜山店、ピアゴラ フーズコアアラタマ店
- 愛知県 エアポートウォーク名古屋 (アビタ名古屋空港店)、リーフウォーク稲沢 (アビタ稲沢東店)、テラスウォーク一宮 (アビタ一宮店)、ウェルサウォーク西尾 (アビタ西尾店)、ラสบア太田川 (ピアゴ太田川店)、アビタ阿久比店、アビタ安城南店、アビタ稲沢店、アビタ岩倉店、アビタ大口店、アビタ大府店、アビタ岡崎北店、アビタ蒲郡店、アビタ刈谷店、アビタ木曽川店、アビタ高蔵寺店、アビタ江南西店、アビタ小牧店、アビタ瀬戸店、アビタ知立店、アビタ東海荒尾店、アビタ桃花台店、アビタ豊田元町店、アビタ長久手店、アビタ向山店、ピアゴラ フーズコア赤池店、ピアゴ阿久比北店、ピアゴ井ヶ谷店、ピアゴ印場店、ピアゴ大清水店、ピアゴ大治店、ピアゴ香久山店、ピアゴ上和田店、ピアゴ気喰店、ピアゴ清洲店、ピアゴ吉良店、ピアゴ国府店、ピアゴ幸田店、ピアゴ江南店、ピアゴ佐屋店、ピアゴ篠木店、ピアゴ甚目寺店、ピアゴ十四山店、ピアゴ勝幡店、ピアゴ新城店、ピアゴ武豊店、ピアゴ知立店、ピアゴ伝法寺店、ピアゴ東栄店、ピアゴ常滑店、ピアゴ豊明店、ピアゴ中切店、ピアゴ西春店、ピアゴ半田店、ピアゴ東刈谷店、ピアゴ菱野店、ピアゴ福釜店、ピアゴ碧南東店、ピアゴ洞店、ピアゴ布袋店、ピアゴ妙興寺店、ピアゴ八剣店、ピアゴ矢作店、ピアゴ大和店、ピアゴ豊川店、ピアゴ蟹江店、ピアゴ黒笹店、ピアゴ尾西店、ピアゴ碧南店、ピアゴラ フーズコア半田清城店、ピアゴラ フーズコア三河安城店、ピアゴラ フーズコア長久手南店
- 岐阜県 アクアウォーク大垣 (アビタ大垣店)、ラสบア御嵩 (アビタ御嵩店)、アビタ各務原店、アビタ北方店、アビタ岐阜店、アビタ中津川店、アビタ飛騨高山店、アビタ美濃加茂店、ピアゴ浅草店、ピアゴ鶴店、ピアゴ恵那店、ピアゴ各務原店、ピアゴ笠松店、ピアゴ川辺店、ピアゴ関店、ピアゴ多治見店、ピアゴ長良店、ピアゴ穂積店、ピアゴ瑞浪店、ピアゴ可児店
- 三重県 アビタ伊賀上野店、アビタ桑名店、アビタ鈴鹿店、アビタ名張店、アビタ松阪三雲店、アビタ四日市店、ピアゴ赤尾店、ピアゴ阿倉川店、ピアゴ嬉野店、ピアゴ上地店、ピアゴ久保田店、ピアゴ菟野店、ピアゴ多度店、ピアゴ東員店、ピアゴ星川店
- 長野県 レイクウォーク岡谷 (アビタ岡谷店)、アビタ飯田店、アビタ伊那店、アビタ高森店、アビタ飯田駅前店
- 滋賀県 ピアゴ一里山店、ピアゴ今崎店、ピアゴ近江八幡店、ピアゴ水口店
- 京都府 アビタ精華台店
- 奈良県 アビタ大和郡山店、アビタ西大和店

北陸エリア

- 石川県 ラสบア白山 (ピアゴ白山店)、アビタ金沢店、アビタ松任店、ピアゴ七尾店、ピアゴ金沢ベイ店
- 富山県 アビタ魚津店、アビタ黒部店、アビタ砺波店、アビタ富山店、アビタ富山東店、ピアゴ小矢部店、ピアゴ富山西町店
- 福井県 アビタ敦賀店、アビタ福井店、アビタ福井大和田店、ピアゴ丸岡店

関東エリア

- 神奈川県 アビタ戸塚店、アビタ長津田店、ピアゴ大口店、ピアゴ弘明寺店、ピアゴ座間店、ピアゴイセザキ店
- 埼玉県 ピオニウォーク東松山 (アビタ東松山店)、ベニバナウォーク桶川 (アビタ桶川店)、アビタ岩槻店、アビタ吹上店、アビタ本庄店、ピアゴ大桑店、ピアゴ川本店
- 群馬県 けやきウォーク前橋 (アビタ前橋店)、アビタ伊勢崎店、アビタ笠懸店、アビタ高崎店、アビタ館林店、ピアゴ藤岡店
- 茨城県 アビタ佐原東店
- 千葉県 アビタ市原店、アビタ木更津店、アビタ君津店
- 栃木県 アビタ足利店、アビタ宇都宮店
- 新潟県 リバーサイド千秋 (アビタ長岡店)、アビタ新潟亀田店、アビタ新潟西店
- 福島県 アビタ会津若松店

山静エリア

- 静岡県 プレ葉ウォーク浜北 (アビタ浜北店)、アビタ伊東店、アビタ磐田店、アビタ大仁店、アビタ掛川店、アビタ静岡店、アビタ島田店、アビタ初生店、アビタ富士吉原店、ピアゴ於呂店、ピアゴ香貫店、ピアゴ上岡田店、ピアゴ上島店、ピアゴ大覚寺店、ピアゴ中里店、ピアゴ浜松泉町店、ピアゴ榛原店、ピアゴ袋井店、ピアゴ富士中央店、ピアゴ富士宮店、ピアゴ森店、ピアゴラ フーズコア中田店
- 山梨県 ラサウォーク甲斐双葉 (アビタ双葉店)、アビタ石和店、アビタ田富店

店舗紹介

地域の中でライフスタイルを 多面的にカバーする、ユニーの各業態

ユニー株式会社は、衣・食・住・余暇にわたる総合小売業として、関東から北陸・東海エリアに215店舗（2016年9月1日時点）を展開するチェーンストアです。その代表であるモール型ショッピングセンターをはじめ、豊かで楽しい生活提案を取り入れた「日常生活向上店」を目指すアピタ、立地やマーケット特性にあわせたミニモール型ショッピングセンターのラスパ、毎日楽しく買い物ができる「日常生活便利店」を目指すピアゴなど、地域の中でライフスタイルを多面的にカバーできるよう、さまざまなタイプの店づくりに取り組んでいます。

■モール型ショッピングセンター

数多くの専門店とエンターテインメントを兼ね備えた
広域型複合ショッピングセンター



■アピタ



「日常生活向上店」として、お客様により豊かな生活を提案する総合スーパーマーケット



■ラスパ



日常からハレの日までお客様の生活を豊かにする、地域に根ざしたミニモール型ショッピングセンター



■ピアゴ



「日常生活便利店」として、ファッションから食料品まで地域密着型の品揃えを提供する総合スーパーマーケット



■ピアゴラ フーズコア



こだわりの高品質食材を取り揃える都市型小型スーパーマーケット



- 対象範囲** ユニー株式会社215店舗及び本社事務所（各エリア事務所含む）
対象読者 ユニーの各店舗をご利用いただくお客様のほか、店舗の近隣住民の方々・お取引先様・従業員など、当社にかかわる全ての皆様を対象とします。
対象期間 2015年度（2015年2月21日～2016年2月20日）
 ※一部上記対象期間以外の活動等を記載しています。
 ※掲載している従業員の所属は8月21日時点のものです。

CONTENTS

会社概要・事業所・店舗紹介	1
環境理念・環境方針	3
社長インタビュー	5
エコ・ファーストの約束	7
環境マネジメント	9
環境計画の概要	11



環境にイイこと、プラス。

低炭素社会

低炭素社会の構築	13
環境負荷	19

循環型社会

廃棄物を削減する取り組み	21
環境にやさしい容器包装	23
食品廃棄物リサイクルシステム	27

自然共生社会

生物多様性	31
子ども環境学習	33
環境教育	37



社会・地域にイイこと、プラス。

ピック・アップ・エコストア	38
店舗での取り組み	39
社会貢献・地域貢献	41
ユニーの食育について	49



従業員にイイこと、プラス。

働きやすい職場環境づくり	51
--------------	----



自然との調和を大切に

「未来の子ども達に美しい自然を残したい」ユニーは環境に優しい生活をお客様と一緒に進めています。



環境理念

地球規模での環境破壊が深刻化している今日、
低炭素社会・循環型社会・自然共生社会を実現させた持続可能な社会を構築するために、
ユニーは企業活動を通して貢献します。

環境方針

ユニー株式会社は

- 1 衣・食・住・余暇にわたる総合小売業として、環境負荷の少ない安全安心な商品及びサービスの提供と店舗開発の推進に努めます。
- 2 全従業員が環境問題に関心を持ち、環境マネジメントシステムを機能させ、運用することにより、汚染の予防及び環境保護に向けて持続的な改善に努めます。
- 3 法律、条例やエコ・ファーストの約束、地方自治体と締結した協定など、当社の遵守義務を満たし、お客様ならびに一般市民・行政機関とパートナーシップをとり、人と環境にやさしい持続可能な社会の実現に努めます。
- 4 持続可能な社会を目指した環境目標を設定し、営業活動を通じて環境パフォーマンスの向上に努めます。
 - 低炭素社会の実現のために、省エネ型店舗・サプライチェーン全体でのCO₂排出量の削減を目指します。
 - 循環型社会実現のために、廃棄物削減やリサイクル推進に努めます。
また、容器包装の削減とリサイクル及び環境負荷の少ない容器包装の使用を推進します。
 - 自然共生社会実現のために、食品リサイクルループの構築、生態系保全に配慮した商品を販売します。
 - 次世代を担う子どもたちに、持続可能な社会について学ぶ環境学習を実施します。
- 5 この環境方針を実行・維持し、また広く一般に開示して、お客様と一緒に、地域環境保全活動及び社会貢献活動を推進します。

2016年9月1日

ユニー株式会社
代表取締役社長

佐古 則男

「環境 人づくり企業大賞2014」奨励賞を受賞 (表彰式:2015年8月)

持続可能な社会を実現する担い手となる人材の育成に取り組むユニーでは、地域の小学校や市役所、児童館などで出張授業を行い、お買い物を通じたESD活動を実践しています。こうした活動が「従業員が地域に出張授業に出ており、教える立場、地域に役立つ経験をすることでモチベーションにつながり学習効果を高めている」と評価されました。



授賞式 左/環境人材育成コンソーシアム代表幹事 安井至氏
右/関東営業部 業務管理部長 澤井民樹

持続可能な社会を目指して

現在のことだけではなく未来に向かって地球環境を壊さずに、人間や地球の生き物が共存していく社会を構築していくこと、この未来に続く仕組みが持続可能な社会です。



エコストア、ステキな未来へはじめての一步

お買い物をする際の、ほんのちいさなエコゴコロが地球の未来を救います。

10年後、20年後の地球の未来を快適なものにするために、
ユニーと一緒に地球環境にやさしい生活をはじめませんか？



お客様とともに地域に根ざし、 ストーリーのある環境・地域貢献で エコ・ファースト企業であり続けます。

ユニー株式会社 代表取締役社長

佐古則男

ユニーが環境に関する業界のトップランナーとして継続して進める「エコ・ファーストの約束」。昨年度もさまざまな約束項目において、前年を上回る成果を上げることができました。今後もお客様とともに広く深く取り組むために、大きなポイントになってくるのは“伝える”“伝わる”ことにより力を注ぐこと。ユニーの環境・社会貢献活動の今を、佐古則男代表取締役社長と百瀬則子執行役員業務サポート本部CSR部長による対談をご紹介します。

(インタビュー：2016年6月27日)

ストーリーを大切に

■百瀬 ユニーの環境活動は、「法令順守」とともに、「地域を汚さない」を最重要課題としています。特に店舗からの廃棄物の発生抑制と資源循環に関しては、全店で分別・計量を実施しており、毎年発生量を削減し、リサイクル率を向上させています。2015年度は、まずエコ・ファーストで約束している食品廃棄物発生抑制において、総量で2014年度より357t削減し、前年比94.7%という結果を出すことができました。

■佐古 昨年稼働した瀬戸プロセスセンターに生鮮食品の店内加工業務の一部を移行することで、端肉などのムダを削減した成果でしょう。高性能機械の導入による業務の効率化と食品廃棄物削減の両方に効果が見られたということですね。

■百瀬 リサイクル率も大きく改善しました。年間61.6%で前年比1.6%の改善です。食品残さをリサイクル飼料に再生利用し、それで生産した鶏卵を仕入れ販売するといった16件目のリサイクルループが岐阜県でスタートしました。

■佐古 食品リサイクルだけでなく、使用済み容器包装などを再生利用し製品化するプロセスにお客様が参加する「リサイクルボックス」は、いまや取り立てて言うほどのこともないと思われるかもしれませんが、お客様とともにという私たちの環境活動の根幹となる重要なもので、とてもわかりやすい環境貢献です。

■百瀬 新しい取り組みに、ペットボトルのキャップを再生利用し、「自動車の部品にする」というものがあります。ユニーでは、6年前

から読売新聞販売店と共同でアピタ・ピアゴの店舗で集めたキャップを販売店が収集し、新聞の運搬車の帰り便で印刷工場に運び、リサイクル業者に売却。その売却益を世界の子どもたちにワクチンを届ける運動に寄付していました。しかし、その運動に問題が発生したため、見直しを図り、トヨタのハイブリッド車「SAI」や「新型プリウス」の部品に再生利用するプラスチックメーカーと連携し、新たなルートでワクチンへの寄付を継続することにしました。

■佐古 活動にしっかりとストーリーがあることが重要だと考えています。そのストーリーにお客様の行動が反映されることで、より参加へのモチベーションが上がりますね。

■百瀬 そのためには、成果を目に見える形でお客様に伝えることも大事ですね。ユニーの店舗全店で1年間にエコキャップが約100トン集まり、ワクチンの協会への寄付額は約360万円です。この金額は、協会への寄付団体の中で群を抜く数字になっています。

「楽しい学び」が行動を生む

■百瀬 「伝える」ということでは、ユニーは子どもを中心とした環境学習には特に力を入れています。リサイクル工場見学、夏休み自然探検隊、循環型農業体験、環境出前授業といった特別な催しだけでなく、店舗でお店探検隊やエコクイズラリーなどを実施し、年間約1万人の小学生が買い物を通して気軽に環境を学べる機会を設けています。

■佐古 子どもの行動は家庭内に必ず波及しますからね。参加者数を一つの指標として拡大していくことが重要だと思います。

■百瀬 店舗で楽しみながらエコライフを体験できる来店者参加型の環境イベント「エコ博」も長く継続している一つです。昨年1年間、計10回の開催で、延べ約5万人という数字になっています。

■佐古 今のお母さん世代は、例えば野菜の生え方、扱い方を知らない方が多くいます。食育を含めて、体験になる“気づき”を“行動”へと移らせる活動が必要ですね。楽しんで学んだことはやってみようと思うし、ついつい人にも伝えたい（笑）。実体験を話す説得力もあります。

■百瀬 5万人のお客様が口コミで10人に伝えて下さると、50万人が学んでいただけることになりませぬ。

クールチョイス「COOL CHOICE」を促す 買い物風景の創出

■百瀬 一方、日々のお買い物を通じて消費者の行動変革を促していける活動も重要ですね。それは、「ある商品を買うことで自然と環境貢献に参加できる」というメニューを用意することです。その一つとして、今年、環境配慮型商品「eco!on」において、「オーガニックコットンTシャツ」を販売したところ、目標売り上げの116%を達成しました。この商品は、3年間農業や化学肥料を使わない農地で生育したコットンを原料とし、地球環境や農地で働く人の健康や環境の改善に貢献しています。

■佐古 「環境にいいオーガニックコットン」と言われても、それだけではなかなか触手は伸びません。このTシャツの購入が遠い国の子ども達の笑顔につながるストーリーが伝わ

れば、もっとも共感を得ながら、「買い物を楽しむ」＝「環境に貢献する、誰かが喜ぶ」ことへと結びつくと思います。

■百瀬 今回のオーガニックコットンTシャツでは、2015年度に愛知県が立ち上げた大学生向けプログラム「かがやけ☆あいちサステイナ研究所」(*)との協力で制作したPR動画を売り場で放映したことが効果を発揮しました。もちろん、商品の背景をすべて伝えることは難しいですが、環境に関心や興味が生まれるきっかけを日常の買い物風景の中に配置していくことをどんどんやっていくべきですね。

■佐古 賢い選択というのは、いわば、環境問題に対する一人ひとりの自覚が問われる行動なのですが、ユニーが大事にしたいのは、エコ・ファースト企業だからということではなく、「お客様とともにやりましょう」という働きかけです。COOL CHOICE活動は、非常に領域が広い活動ですから、お客様からの提案も受けて継続していきたいですね。

(※) 持続可能な未来のあいちの担い手の育成を目的に、20名の大学生が研究員となり、パートナー企業から提示された環境課題について解決策を研究・提案。

「つなげる」という役割

■百瀬 お客様の共感を呼んで成功しているものとして、「ドネーション企画」がありますね。これは東日本大震災を機にスタートし、協賛企業の対象商品を購入すると、1点につき1円をユニーと協賛メーカーとで出し合い、寄付金にするというものです。多い時では700万を超える金額が集まり、2015年夏には宮城県七ヶ浜町の子どものミュージカル上演を12社のメーカー協賛で実現しました。また花王さんとの間では、保育園・幼稚園への100冊絵本プレゼントを4年前から続けています。昨年、この様子を見たハーゲンダッツさんが自ら手を上げてくれ、こちらは木琴、カスタネットなどの楽器プレゼントをスタートさせています。

■佐古 ドネーション企画の良いところは、1本1円であっても、100万本売れると100万円の寄付ができること。まさに一人ひとりの思いが大きな形になるわけです。また、お客様は1円余分に出すのではなく、「この商品を買う」というチョイスによってそのメーカーの応援をする。それに対してメーカーは「ありがとう」の思いを込めた寄付を行うわけです。非常にうれしいコミュニケーションが生まれているのです。環境や社会貢献活動は、つまり、「何かと何かをつなげる」という社会において非常に重要な役割も含まれている。そのことにしっかり視点を置いて取り組んでいきたいですね。

■百瀬 昨年秋にスタートさせた盲導犬育成支援のための「ドネーション」+「パトラッシュ



募金]がまさにそうですね。ペットフード商品のドネーション企画開催と同時に、パトラッシュ募金を連動企画として行いました。わかりやすさにも配慮し、パトラッシュの子犬に参加してもらい、盲導犬1頭あたり500万円かかることを訴えました。結果的に寄付金額は500万円には至りませんでした。お客様から大変好評でした。1回で結果を出すということではなく続けることが重要です。

■佐古 継続こそ、まさに大切です。この4月に発生した熊本地震への支援として、ユニーでも店頭での募金活動とともに、救援物資や従業員からのタオルを届けました。従業員からのタオルについては、避難所では車椅子用のトイレが少ないなどの理由で在宅にならないを得ない障がい者宅へ物資を配布するNPOにピンポイントで寄付しました。これは東日本大震災以降、より支援物資が渡りやすい方法を考え、継続して活動を行ってきたことが生きています。

安心・安全で 利用価値の高い“場”づくりを

■百瀬 社会貢献活動にはもう一つ、大切な視点として、「高齢者が安心して楽しくお買い物ができる支援活動」がありますが、これは毎年、従業員向けの講習会を開催するなど、継続して行っていることです。

■佐古 「リアルな店舗で買い物を楽しんでもいただく環境づくり」がより一層求められると考えています。「買い物に行く」というのは、単に購買行動だけが目的ではなく、人とのふれあいや運動につながるもの。店舗は、そういったことも含めて利用しやすい、足を運びやすい環境でなくてはならないと思います。課題として、段差解消がその代表例として言われますが、表示の見やすさや健康に関する表現方法、あるいは健康に導くアプローチを強めていかなければいけません。

■百瀬 これは高齢者をターゲットにしつつも、実はすべてのお客様にとって大切な視点です。ショッピングセンターを使っただけで、医院やリラクゼーション施設、美容室・床屋、そしてもっといえばコミュニティとしての喫茶機能も強めていき、地域のコミュニティセンターとして、安全安心に集う場所としてお買い物以外にも訪れていただきたいですね。

■佐古 高い信頼度と利用価値を維持できるよう取り組みつつ、近い将来的に、美容院やクリーニングなど高齢者宅へのさまざまな出張サービスも考えています。きれいになる、身ざれいであるというのは、いくつになっても喜びのある暮らしを送るのに欠かせないもの。リアルな店舗を看板として持つユニーが取り組むことで、安心して利用していただける仕組みをつくっていかないと考えています。

ダイバーシティを具体的に進めていく

■百瀬 そういった挑戦を展開していくために、ダイバーシティへの取り組みもますます重要になってきますね。ダイバーシティとは、男女や障がい、年齢、国籍などの垣根なく多様性のある人材活用ですが、その一つとして、働く女性を応援する商品開発プロジェクト「ダイジーラボ」では、豊田自動織機さんと共同でカーグッズの開発や女性ファッション誌「In Red」とコラボしたチョコレートの制作などもスタートさせています。

■佐古 店舗の来店顧客の8割が女性であるにもかかわらず、多くの場合、男性が中心の商品開発がまだに行われているという現実には否めません。もちろん、同じ女性がやれば成功するという単純な話ではなく、「女性としての感覚や視点と、消費者のニーズをどうつないでいくか」をポイントに進めています。例えば、カーシートを女性が選ぶ場合、その色目やデザインなどは、男性感覚ではありえないと思うものが好まれたりする。その開発プロジェクトに女性目線が注がれていないことはやはりおかしい。8割の顧客が女性であることを大前提に、男性だから、女性だからではなく、一つひとつの取り組みに対して、よりふさわしい人材活用を行っていくことが大切だと思います。

■百瀬 環境先進企業として「エコ・ファーストの約束」を実現してきたユニーだからこそ、ダイバーシティ推進においても、掛け声だけでなく、一つひとつ具体的に実現への道を歩んでいきたいですね。



代表取締役社長 佐古則男 (左)
執行役員 業務サポート本部 CSR部長 百瀬則子 (右)



エコ・ファーストの約束

ユニーは2008年に、環境への取り組みのトップランナーとして、環境大臣とエコ・ファーストの約束を交わしました。消費者と一緒に環境問題解決に取り組み、持続可能な社会構築を推進することを約束にしています。食品廃棄物に関わる問題や地球温暖化対策など、エコライフスタイルを提案し推進することがユニーのエコ・ファーストです。

エコ・ファーストの約束と環境活動

▶ 廃棄物の発生抑制と資源循環の推進

循環型社会を実現するためには、廃棄物を削減することと、排出してしまった廃棄物を再資源化する再生利用を推進しなければなりません。

今期は特に「食品廃棄物の不正処理」が本社と同じ稲沢市で起き、大きな問題になりました。ユニーはこうした問題が起きないように、国から認定された食品リサイクルループを構築しています。



循環型農業でできた野菜の売場

▶ 持続可能な社会構築のための環境教育を実施

ユニーは企業としての環境問題への取り組みを推進しています。また、地域に根差した小売事業者として消費者と一緒に地域環境貢献活動を実施し、さらに家庭でのエコライフスタイルを広げるために店舗や地域で啓発活動を行っています。特に未来を担う子ども達を対象に、環境学習を全店舗で実施しました。



店舗での環境学習

▶ 消費者の行動変革による持続可能な社会構築

2015年から環境省が進める「COOL CHOICE」を、お買い物を通して消費者に実践していただくために、店舗や社外での啓発活動に取り組みました。特に環境配慮商品やリサイクルボックス、電気自動車の充電スタンドには「COOL CHOICE」のロゴマークを表示して、消費者の認知度向上に努めています。



COOL CHOICEを展開

▶ エコ・ファースト企業とのコラボレーション

総合小売業として唯一エコ・ファースト企業に認定されているユニーは、メーカーと消費者をつないで環境貢献を推進する役割を果たすために、エコ・ファースト企業であるライオン・キリンと協働で体験型環境イベントを開催しました。また、エコ・ファースト推進協議会は大型ショッピングセンターで開催するエコ博にブースを出展し、消費者への認知度を高めました。



エコ博に出展（アピタ富山東店）キリン・ライオンとの共同企画

▶ エコ・ファースト推進協議会活動

さまざまな業界から選ばれたエコ・ファースト企業が集まり、業界を超えて持続可能な社会構築を目指して、2009年にエコ・ファースト推進協議会を発足させました。総会に出席した環境大臣は、COP21パリ協定で日本が提示したCO₂削減に対する取り組みを一緒に進めることを表明しました。また2015年秋には東日本大震災の被災地の子ども達への支援活動を会員企業が共同で実施しました。



エコ・ファースト推進協議会総会



エコとわごんコンクール表彰式



東日本大震災 子ども支援活動



情報交換会で発表

▶ エコ・ファーストの約束の進捗状況

1 循環型社会構築を目指し、 廃棄物の発生抑制と 資源循環を推進します。	● 食品リサイクルループを全店に拡大します。	▶ 食品リサイクルループ参加店舗 145店舗（食品取扱い215店舗中）	p30参照
	● 再生利用等実施率80%を2018年度までに達成します。	▶ 再生利用等実施率 72.9%（2015年度）	p28参照
	● 食品廃棄物発生抑制を図り、2018年度までに年間売上高（百万円） 当たりの発生量32kg以下を達成します。	▶ 年間売り上げ百万円当たり 31.3kg	p28参照
	● 2018年度までにレジ袋辞退率85%を達成します。	▶ レジ袋辞退率 86.1%	p23参照
2 持続可能な 社会構築のために、 環境教育を実施します。	● 小型家電のリサイクル回収を推進します。	▶ 小型家電リサイクル回収店舗 12店舗	p21参照
	● 全店で年間 1万人の子ども達に子ども環境学習を実施します。	▶ エコロお店探検 / 106回実施（850人参加） エコラリー / 121回実施（2,558人参加） 小中学校の見学 / 94回実施（6,339人参加）	p34参照
	● 消費者の行動変革による持続可能な社会実現のために、店舗において 5万人の消費者を対象に環境イベントによる啓発活動を実施します。	▶ エコ博 / 10回実施（5万人参加） エコエスタ、その他 / 12回実施（1万2,000人参加）	p47~48参照
	● 店舗での省エネ・地域での資源循環を目指し、年間3万人の従業員に 環境教育を実施します。（2015年2月21日~2016年2月20日）	▶ ISO14001取得のために 26店舗4,420人に教育実施	p9~10参照
3 消費者の行動変革による、 持続可能な社会を 構築します。	● 環境配慮商品を開発・販売、消費者にお買い物を通してエコライフスタイルを 啓発して地球温暖化防止を推進します。	▶ 環境配慮商品eco!onを大学生と コラボでプロモーション	p17~18参照
	● 環境配慮PB商品の容器包装を見直して、バイオマスプラスチックの活用や 軽量化を図ります。	▶ PB商品の容器包装削減実施 NPOごみじゃぱんと減装ショッピングで消費者に啓発	p17~18・p24 参照
	● 店舗開発において、スマートシティを研究し導入を図ります。	▶ 店舗業務副店長に省エネ教育実施	p20参照
	● 地球温暖化防止を目指したEV・PHV普及のため、電気自動車の充電スタンドを 大型店舗100店舗以上に設置します。	▶ 充電スタンド設置店舗 51店舗71台（うち急速充電器4台）	p16参照

▶ 新しい「エコ・ファーストの約束」



エコ・ファーストの約束



～環境先進企業として持続可能な社会構築の取組～

2014年6月18日

環境大臣 石原 伸晃 殿

ユニー株式会社 代表取締役社長 佐古 則男

「未来の子ども達に美しい自然を残したい」

ユニー株式会社は、食品循環資源の再生利用等を推進すべき食品等の小売業としての社会的責任を踏まえ、法令遵守を徹底するとともに、持続可能な社会構築を目指し、「お買い物」を通して消費者と一緒に地域に根ざした環境活動を推進します。

1 循環型社会構築を目指し、廃棄物の発生抑制と資源循環を推進します。

- 食品リサイクルを適正かつ積極的に推進します。
 - ・ 地域のリサイクル事業者・農業者と連携し、地産地消の取り組みとなる食品リサイクルループを2018年度までに全店舗に拡大し、再生利用等実施率80%を達成します。
 - ・ 食品廃棄物の発生抑制を推進し、2018年までに、年間売上高（百万円）当りの食品廃棄物発生量を32kg以下を達成します。
- 容器包装廃棄物の発生抑制の取り組みとして、2018年度までにレジ袋の辞退率85%を達成します。
- 循環小型家電のリサイクル回収を実施し、限りある資源を有効に循環させます。

2 持続可能な社会（低炭素社会・循環型社会・自然共生社会）構築のために、環境教育を実施します。

- 次世代を担う子ども達に対して、お買い物を通して持続可能な社会を実現するために、学び、考え、行動する環境学習を全店舗において年間1万人の子ども達に実施します。
- 消費者の行動変革により持続可能な社会を構築するために、店舗で環境イベントを開催し、年間5万人以上の消費者にエコライフスタイルを啓発します。
- 店舗での省エネ・再生資源地域循環を目指し、自社の従業員及びテナント従業員 年間3万人以上に環境教育を実施し、廃棄物削減・リサイクルを推進します。
- 当社と取引のある環境関連事業者（廃棄物・リサイクル関連等）に、法令遵守・循環型社会構築のための環境教育を実施します。

3 消費者の行動変革による、持続可能な社会を構築します。

- 環境配慮商品やサービスを、開発・提供することにより、お買い物を通して地球温暖化防止を目指したライフスタイルを推進します。
 - ・ 環境配慮PB商品の容器包装を環境設計し、バイオマスプラスチック製容器包装の拡大、また20%の商品の容器包装でトップクラスのリデュースを実施します。
- 地球温暖化防止を目指し、スマートシティを研究し導入を図ります。
- 電気自動車の普及推進のために、大型ショッピングセンター 100店舗以上に充電設備を設置します。



ユニー株式会社は、上記取組の進捗状況を確認し、その結果について定期的に公表するとともに、環境省へ報告します。

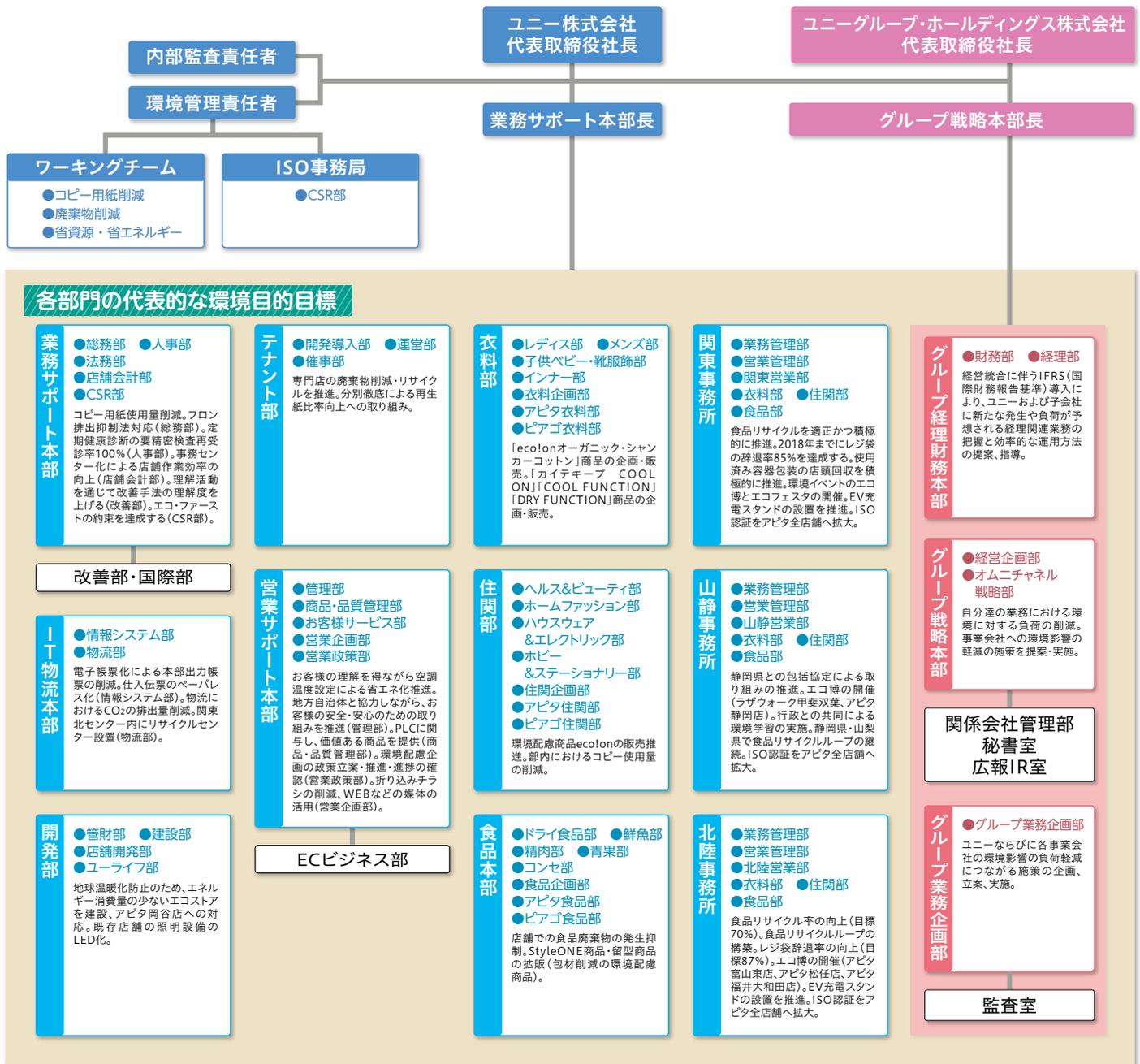


環境マネジメント

ユニーの環境方針に「持続可能な社会構築を企業活動を通して実現することが、企業責任である」と明記しています。持続可能な社会とは、現在のことだけでなく、未来に向かって地球環境を守り、人間が自然と共存し、誰もが平和で幸せに暮らせる社会です。この大きな目的を果たすために、ユニーはISO14001環境マネジメントシステムを用い、店舗や事業所の環境影響を調べて改善することに努めています。そして、お客様と一緒に「環境にやさしいお買い物」によって持続可能な社会実現を目指しています。

環境マネジメントシステム(EMS)の組織と活動

ユニーは営業活動の中で地球環境に対してさまざまな影響を及ぼしています。商品を生産者から仕入れ、運び、販売し、お客様に消費していただくバリューチェーンのそれぞれの過程で発生する環境に悪い影響（環境負荷）をできるだけ低減することを環境目的目標にしています。また、環境配慮商品の販売やエコストアの建設、容器包装の削減や廃棄物のリサイクルなど、環境をよくするための活動をさらに進めることも、環境マネジメントシステムで実践しています。このシステムは、Plan（計画）・Do（実行）・Check（検証）・Action（見直し、改善）のスパイラルで環境方針を実現し、持続可能な社会構築のために持続的に改善していくものです。



店舗 ※p10に店舗環境ISO推進体制の詳細を記載しています。

環境マネジメント(ISO14001)の取り組み

2004年1月に本社事務所がISO14001を認証取得し、その後関東事務所・山静事務所・北陸事務所がそれぞれ本部として認証取得しました。2008年2月、本社が各本部を統合、同年8月にはユーストアを合併し組織変更・拡大を図りました。2013年8月、ユニーグループ・ホールディングスが認証範囲に加わり、そして、2014年2月からモデル店舗（アピタ千代田橋店、アピタ長津田店、アピタ富士吉原店、アピタ松任店）が認証取得し、順次、店舗認証の拡大を進めています。



本社サーベイランス審査



本社サーベイランス部門審査



本社サーベイランス現場内審査



アピタ岐阜店 ISOバックヤード審査



アピタ各務原店 ISO審査



アピタ美濃加茂店 ISO売り場内審査



▶ 店舗でISO14001認証取得、40店舗に拡大

店舗での環境活動をより推進していくためにISO14001の認証取得を全店へと拡大していきます。モデル店舗の4店舗に加えて、2015年度は、ユニーが店舗展開する1府18県で各府県1店舗の19店舗にて認証の拡大を図りました。2016年7月には新たに17店舗が認証を取得、これで40店舗になりました。

2016年度中にアピタ全店舗、2017年度中には、ピアゴ全店舗にてISO14001の理解活動を拡大していきます。

ISOの環境目標には、従業員から提案された環境側面をテーマに取り組んでいます。

◆店舗におけるISOの環境・目標(2016年度)

① 環境関連法令の遵守	② 電気使用量の削減
③ 廃棄物の削減とリサイクルの推進	④ 排水水質の改善
⑤ 営業と一体となった地域貢献活動	



環境側面の特定



店舗でのISO14001理解活動

▶ ISO14001推進のための社員教育

環境方針・環境目標やマネジメントシステムの理解を深め、環境活動を実践していくために、適用範囲の全従業員と関係する人々に教育を実施しました。環境目標は、部門ごとに業務の環境影響調査を行い、環境側面を抽出して設定しました。「環境実施計画」策定についての教育を実施しました。

また、環境マネジメントシステムの内部監査の監査員教育を行い、認定取得は352名になりました。



内部監査員養成合宿



本社従業員集合教育

▶ 緊急事態への対応

環境影響で重大なものに災害があります。愛知県稲沢市の本社では2011年の東日本大震災レベルの災害が東海地方におこることを想定し、防災訓練を計画して実施しました。



本社合同消防訓練



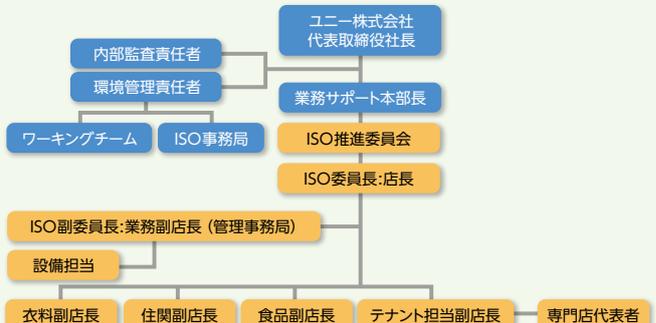
ISO14001認証取得に向けて

▶ 店舗環境ISO推進体制

店舗の環境ISO推進体制に基づくメンバーにより、月に1度、ISO推進委員会が開催されます。店舗で作成した環境実施計画書の具体的な数値を評価して、点検・見直しを実施し、具体的な施策を講じていきます。



ISO推進委員会



アピタ稲沢東店 2016年7月ISO14001認証取得

アピタ稲沢東店は、2016年3月からISO14001の理解活動を開始しました。従業員の環境への意識が向上し、これまで推進してきた環境保全活動の精度を上げて取り組みました。その効果として、活動開始の3月から6月までの環境目標は毎月すべての項目で目標を大きく上回って達成できました。



リーフワーク稲沢 支配人 朱宮 伸治

環境計画の概要

ユニーは持続可能な社会を目指し、低炭素企業活動を通して循環型社会・自然共生社会を実現するために、環境方針に基づき、さらにエコ・ファースト企業として、継続的な環境保全活動を行っています。そのために、ISO14001マネジメントシステムを用い、具体的な環境目的および数値的な環境目標を設定し、達成するために取り組んでいます。2014年度からは環境マネジメントシステムの範囲を店舗に拡大、2016年度には68店舗でPDCAの環を回す計画です。現在だけでなく、未来のことも考えて計画を立て、お客様と一緒に「環境にやさしいお買い物」で持続可能な社会を実現します。



環境計画

環境方針	取り組み項目	2015年度目標
環境マネジメントシステムの構築	■ ISO14001による全社における環境マネジメントシステムの構築	<ul style="list-style-type: none"> ■ エコ・ファーストの約束達成のための環境実施計画年度目標を達成する ■ 環境マネジメントシステムの範囲を店舗に拡大する今年度は、府県ごとに1店舗の登録認証範囲の拡大を目指す
	■ 省エネ設備によるエネルギー削減	<ul style="list-style-type: none"> ■ 新店、改築店舗に有効な環境機器を導入し、その効果を測定する
エコストアの実現	■ 環境配慮商品の販売による低炭素型ライフスタイルを提供	<ul style="list-style-type: none"> ■ 環境配慮商品eco:lonの容器包装の開発コンセプトを見直し、開発商品数および売り上げ拡大を図る ■ 環境配慮商品eco:lonのバリューチェーンの環境負荷低減効果を見る化し、お客様に訴求する
	■ 省エネへの取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ■ CO₂を原単位で1%削減する ■ 店舗エネルギー管理者に省エネ教育を実施する ■ 使用エネルギーを1%削減する
環境負荷の低減	■ 物流システムの見直し	<ul style="list-style-type: none"> ■ 物流の合理化による環境負荷低減を図る ■ 段ボール 2%削減 ■ PB商品の容器包装を見直し、包装資材の軽減化、バイオマスプラスチック製容器包装の拡大を図る
	■ 包装資材の使用削減	<ul style="list-style-type: none"> ■ 包装資材 3%削減 ■ レジ袋辞退率 80%目標（2018年までに85%達成を目指す）
	■ 廃棄物排出削減	<ul style="list-style-type: none"> ■ 廃棄物排出総量 前年比 2%削減
廃棄物の適正処理とリサイクル推進	■ 食品リサイクル推進	<ul style="list-style-type: none"> ■ リサイクルループに周辺店舗を組み入れ、規模の拡大を図る ■ リサイクルループ参加店舗145店舗実現 ■ リサイクル率 61.0% ■ 発生抑制 △25.0%（2007年度比） ■ 売り上げ100万円あたりの発生量 33kg ■ 再生利用等実施率 70.0%
	■ 店頭容器包装回収の推進	<ul style="list-style-type: none"> ■ リサイクルボックスの回収品目を増やす ■ 全店4品目を回収する ■ リサイクル回収量を増やす ■ 一部店舗で透明プラ容器を回収しリサイクルする ■ 使用品目を増やす
	■ バイオマスプラ製容器包装	<ul style="list-style-type: none"> ■ 回収店頭を拡大する
	■ 環境情報の開示	<ul style="list-style-type: none"> ■ 環境学習DVDの作成 ■ チラシ・POPなどで環境配慮商品eco:lonを紹介し、拡販する ■ 新しいポスターを作成し、さらに情報提供を進める
環境情報の開示と環境保全活動	■ 環境保全活動	<ul style="list-style-type: none"> ■ クリーンアップキャンペーンを全店で年2回実施 ■ 店舗の省エネ教育を実施 ■ 子ども環境学習120回、農業体験8回
	■ 環境教育、啓発活動の拡大	<ul style="list-style-type: none"> ■ エコ博を10回開催、エコフェスタを4回実施 ■ 環境関連事業者連絡会セミナーの開催
環境汚染防止	■ 環境汚染物質の排出抑制と監視	<ul style="list-style-type: none"> ■ 全店舗での排水水質監視を実施 ■ 低濃度PCBの適正管理を実施 ■ フロン排出抑制法対応を実施



2015年度結果	評価	2016年度目標
<ul style="list-style-type: none"> ■エコ・ファーストの約束をISO14001の環境マネジメントに組み込み、達成する ■茨城県（水害の影響）を除き1府18県下23店舗で認証取得 ■エネルギー、廃棄物排出状況、レジ袋削減、排水質管理、リサイクルなどの管理システムで目標管理を実施 ■68店舗の照明器具にLEDを設置、食品売り場の冷凍ケースに扉付き（リーチン）を導入した ■環境配慮商品ecolonの開発、販売を拡大した ■ecolon開発数 148件 ■売上 約5億円（62.5%）※主力商品リニューアル中で売上減少 	○	<ul style="list-style-type: none"> ■エコ・ファーストの約束のフォローアップを環境大臣と行う ■環境マネジメントシステムの範囲を店舗に拡大する今年度は、アビタ全店舗で導入、68店舗の登録認証範囲の拡大を目指す
<ul style="list-style-type: none"> ■環境配慮商品ecolonの容器包装の開発コンセプトの見直しを実施する ■開発商品数および売り上げ拡大を図る（前年比 110%） 	○	<ul style="list-style-type: none"> ■既設店舗のLED照明付け替え効果および新店、改築店舗に有効な環境機器を導入し、その効果を測定する
<ul style="list-style-type: none"> ■カーボンフットプリントの算出ができなかった 	×	<ul style="list-style-type: none"> ■環境配慮商品ecolonのバリューチェーンの環境負荷低減効果を見える化し、お客様に訴求する（CO₂換算など）
<ul style="list-style-type: none"> ■2014年度比4.8%削減 	○	<ul style="list-style-type: none"> ■CO₂を原単位で1%削減する ■COOL CHOICE活動をお客様と一緒に取り組む
<ul style="list-style-type: none"> ■業務副店長会議で省エネ講習を開催（2回） ■電気使用量932,416kWh（99.0%）△1.0% ■ガス使用量 21,228千m³（95.7%）△4.3% ■石油使用量 5,956千ℓ（93.5%）△6.5% ■輸送距離・量・エネルギー使用量とも増加したが、CO₂発生源単位は98.2% ■デジタルコ・ドライブレコーダー導入、エコ運転啓発 ■段ボール 1.6%削減 ※通いかゴ（青果など）の利用拡大のため 	○	<ul style="list-style-type: none"> ■店舗エネルギー管理者に省エネ教育を実施し、検証する ■使用エネルギーを1%削減する
<ul style="list-style-type: none"> ■バイオマスプラスチック製容器の店頭回収で再生製品を作製した 	△	<ul style="list-style-type: none"> ■物流の合理化による環境負荷低減を図る ■エコドライブ啓発を推進する
<ul style="list-style-type: none"> ■レジ袋 587 t（95.3%）△4.7% ■包装紙 137 t（99.3%）△0.7% ■紙袋 146 t（96.0%）△4.0% ■合計で前年比△3.97% ■全店有料化店舗 100%達成 ■全社換算 86.1% ■廃棄物総排出量 1%削減 ■廃棄物処理場、リサイクル現場を確認 	△	<ul style="list-style-type: none"> ■PB商品の容器包装を見直し、包装資材の軽減化、バイオマスプラスチック製容器包装の拡大を図る
<ul style="list-style-type: none"> ■営業店舗所在地1府18県でリサイクルループ15件を運用。（福島県を除く） ■岐阜県でエコフィードを製造し鶏卵を生産する「橋本」が食品リサイクルループに認定された ■リサイクルループ参加店舗 145店舗 ■リサイクル率 61.6% ■発生抑制 △28.9%（2007年度比） ■売り上げ100万円あたりの発生量 31.3kg ■再生利用等実施率 72.9% ■牛乳パック 530,667kg（97.8%） ■トレイ 274,643kg（97.9%） ■アルミ缶 647,981kg（107.1%） ■ペットボトル 2,200,183kg（103.5%） ■リサイクルボックス回収実績 2.8%向上 ■透明プラスチック容器回収は未実施 ■PB商品の容器包装の見直しを検討中 ■リサイクル製品（道路工事資材）作製 ■店頭回収140店舗で実施 	○	<ul style="list-style-type: none"> ■事業継続のために、既存のリサイクルループの運用状況を確認し、生産品の流通ルートの確保、販売拡大を図る ■既存のリサイクルループに周辺店舗を組み入れ、規模の拡大を図る ■リサイクルループ参加店舗150店舗で実施 ■リサイクル率 63.0% ■発生抑制 △25.0% ■売り上げ100万円あたりの発生量 31.0kg ■再生利用等実施率 72.0%
<ul style="list-style-type: none"> ■ISO店舗導入教育用DVDを作成した ■ecolonなどの情報を掲載、HPのリニューアル ■環境掲示板の設置を標準化 ■全店実施 ■テナントの廃棄物分別教育を実施 ■子ども環境学習106回、農業体験8回を実施 ■エコ博を10店舗で10回開催、エコフェスタを5店舗で開催 ■メッセナゴヤ、EPOCに参加 ■講演会、リサイクル施設見学会を2回実施 ■水質検査の実施と排水管理マニュアル（DVD作成）の徹底 ■排水水質検査の全店実施、基準値以内に法令遵守 ■適正管理の実施 	○	<ul style="list-style-type: none"> ■リサイクルボックスの回収品目を増やす ■全店4品目を回収する ■リサイクル回収量を増やす ■回収した商品トレイをケミカルリサイクルで再資源化する ■使用品目を増やす ■回収店舗を拡大する ■環境学習DVDの作成 ■チラシ・POP・HPなどで環境配慮商品ecolonを紹介し、拡販する ■新しいポスターを作成し、さらに情報提供を進める ■グリーンアップキャンペーンを全店で年2回実施 ■店舗の省エネ教育を実施 ■子ども環境学習120回、農業体験8回 ■エコ博を10回開催、エコフェスタを8回実施 ■環境関連事業者連絡会セミナーの開催 ■教育用資料作成（iPad全対応）店舗での排水水質監視を実施 ■低濃度PCBの適正管理を実施 ■フロン排出抑制法対応を実施
	×	
	△	

低炭素社会の構築

地球温暖化はCO₂など温室効果ガスの増加が原因であるとされています。最近では地球温暖化によると推測される気候変動が各地で観測され、日常生活にも影響を与えています。こうしたなかで、昨年暮れのCOP21で採択されたパリ協定で、日本は「2030年までに2013年度の温室効果ガス排出量と比べ26%を削減する」という目標を掲げました。この目標を達成するために、国民への普及活動強化が盛り込まれた地球温暖化対策推進法が2016年5月に改正されました。

地球温暖化とは

地球環境の現状

CO₂などの温室効果ガス（GHG：Green House Gases）の増加により、地球表面から出てくる赤外線が吸収・再放出され大気中に熱が溜まり、地球温暖化が進んでいるといわれています。本来自然界で発生したCO₂は、森林や海洋による吸収によりバランスが取れていたのですが、人間が化石燃料（石油や石炭、天然ガスなど）を消費するようになり、吸収しきれなくなっていました。

地球温暖化は、化石燃料をエネルギーとして電気を起こしたり、自動車を走らせたり、冷暖房に使用することにより温室効果ガスを排出し、また熱を放出していることが原因といわれています。このまま地球温暖化が進むと、100年後には大気中の温室効果ガスがさらに増加し、平均気温が上昇し、多くの生き物が生存できなくなるといわれています。

地球温暖化の一番の原因は二酸化炭素!!



家庭部門のCO₂排出状況

国が2030年度までに目標を達成するには、家庭やオフィスから排出される民生部門の温室効果ガスを2013年度と比べて40%削減する必要がありますが、これまで行ってきた国民運動「環のくらし」「チームマイナス6%」「チャレンジ25」では効果が出ず、反対に排出量は増加していました。

◆家庭部門のCO₂排出量



国民運動 旗印はCOOL CHOICE

▶ COOL CHOICEとは

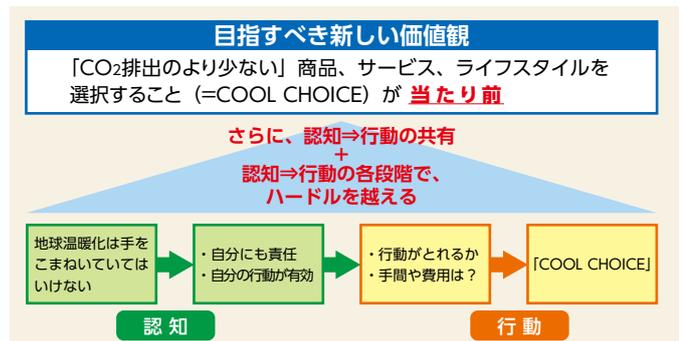
国は地球温暖化対策を国民へ普及啓発するために「COOL CHOICE（クールチョイス）」活動を2015年より展開しています。COOL CHOICEは「賢い選択」という意味で、地球温暖化への危機感を共有し、一人ひとりの意識を変え、ライフスタイルを賢く選ぶことを目指しています。

▶ 毎日の生活でCOOL CHOICE

2030年までに2013年度比40%の温室効果ガス排出量を家庭部門で削減するためには、家や自動車、家電製品などのエコ商品への買い替えに加え、毎日の生活を見直すことが必要です。一生に一度、50年に一回の家の購入や建て替えはCO₂削減効果がとても大きいと見込めます。また、自動車や家電製品をエコカーや省エネ型に買い替えることも即刻効果が出る行動です。しかし、これらは大きな出費が伴い、機会はたびたびありません。

そこで、毎日の生活を見直し、一人ひとりが地球温暖化防止に貢献できる活動「エコショッピング」「エコドライブ」「クールビズ」などに取り組むことが重要なCOOL CHOICEにつながります。

◆COOL CHOICE目指すべき新しい価値観 (環境省資料より)



◆COOL CHOICEの活動例



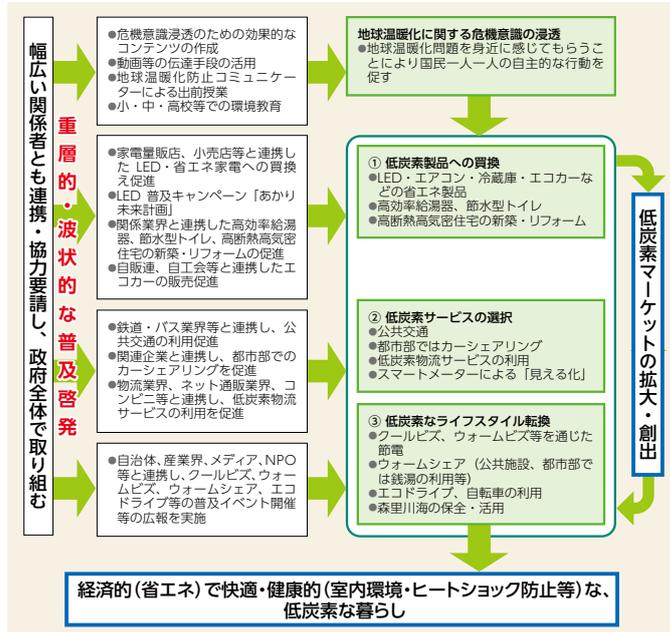
未来のために、いま選ぼう。
COOL CHOICEのロゴマーク

買い替えでCOOL CHOICE
LED照明・エコカー・低炭素商品

低炭素型サービスでCOOL CHOICE
カーシェアリング・公共交通利用

エコライフスタイルでCOOL CHOICE
クールビズ・エコショッピング

◆COOL CHOICEを旗印とするムーブメントづくり (環境省資料より)



▶ COOL CHOICE推進チーム

環境省は2016年5月、環境大臣をチームリーダーとした「COOL CHOICE推進チーム」を立ち上げました。COOL CHOICE推進チームのメンバーには、ユニーをはじめ大手流通や経済団体、自治体、テレビの放送作家、雑誌の編集長などもあります。COOL CHOICEは強制されるものではなく、「省エネでお得」「楽しく参加」「手軽で便利」など普段の暮らしのなかで実施してもらえる行動を普及・啓発することを期待されています。



COOL CHOICE推進チーム



ユニーの「お買い物でクールチョイス」を説明する百瀬部長



さまざまな業界からクールチョイスへの提言

▶ ユニーのCOOL CHOICEの取り組み

ユニーでは、お客様・地域社会・お取引先様とともに、持続可能な社会構築に向けたさまざまな環境活動を進めてきました。自社の省エネや廃棄物の発生抑制・リサイクルの促進、環境配慮商品eco!onの販売など、企業としての環境活動だけでは持続可能な社会を構築することはできません。お客様の生活をエコライフスタイルに変えていただくことが、ユニーの目指すCOOL CHOICEです。

▶ 「お買い物でCOOL CHOICE」を推進

ユニーの店舗では、環境配慮商品eco!onの販売、容器包装の削減や使い終わった容器を再生利用するために回収するリサイクルボックスの設置、できるだけ環境負荷の少ない来店方法を推進するための電気自動車充電スタンドの設置など、お客様に「お買い物でCOOL CHOICE」を実践していただくために取り組んでいます。また、既存店舗の照明をLEDに換えたり、新規開店店舗の空調施設を省エネ型にするなど、環境配慮型店舗設備導入の推進、ユニーに来店してお買い物することがCOOL CHOICEになるように努めています。



使い終わった容器包装はリサイクルボックスでCOOL CHOICE



スーパーへは電気自動車でCOOL CHOICE



環境配慮商品eco!onを買って使えばCOOL CHOICE



LED電球の導入でCOOL CHOICE

▶ お客様にCOOL CHOICEを普及・啓発

体験型環境イベント「エコ博」「エコフェア」の2015年のテーマは「お買い物でCOOL CHOICE」。ユニーと地域の環境啓発団体、メーカーや環境関連事業者、自治体と一緒に、お客様に楽しくCOOL CHOICEなライフスタイルを体験していただくイベントを各地の大型ショッピングセンターで開催しています。



▶ 夏休み自由研究でCOOL CHOICEを普及・啓発

ユニーでは毎年夏に、子ども達に夏休み自由研究の参考にしていただくため、店舗に「お買い物を通して環境活動」につながる内容の展示を行っています。2016年の夏休みは「お買い物でCOOL CHOICE」をテーマに実施しました。



ユニーのCOOL CHOICEをお客様にアピール



会場を子ども達と一緒に回るエコロキッズツアー



地元NPOの取組みを紹介



COOL CHOICEをテーマにした展示



積水ハウスの取組みを紹介



山崎製パンのブースでは容器包装の減装ショッピングを紹介



キリンブースではビールの容器包装の削減を紹介

▶ 地域のイベントでもCOOL CHOICE



とよあけ市民大学 1day summer school

フロン排出抑制法への対応

地球温暖化とオゾン層破壊の原因になるフロンの排出抑制を目的に、フロン排出抑制法が2015年4月1日に施行されました。業務用エアコン、冷凍冷蔵機器の管理者に、機器およびフロン類の適切な管理が義務付けられました。

ユニーでは、総務部を中心にCSR部、建設部、サン総合メンテナンスから部署横断のタスクフォースを結成して対応に当たることとし、「フロン排出抑制法 対応マニュアル」を策定して店舗での管理運用を実施しています。

▶ フロン排出抑制法の概要

～所有者・使用者による排出の抑制義務～

- 1 簡易点検・定期点検の実施
- 2 漏洩を発見した場合、速やかに漏洩箇所を特定し修理
- 3 機器整備に関する履歴の記録・保存
- 4 算定漏洩量の報告

▶ ノンフロン冷蔵ケース

テラスウォークウ宮の青果売場にフロンガスを使用しないCO₂冷媒を用いたノンフロン冷蔵ケースを導入しました。地球温暖化の原因物質の排出を抑える狙いがあります。



ノンフロン冷蔵ケース



フロン排出抑制法 対応マニュアル

低GWP・ノンフロン製品への転換

古い機器の多くに特定フロンのR22が使用されています。オゾン層保護法によって2020年には生産が廃止されるため、低GWP・ノンフロン製品への転換を迫られています。



ユニー本社 室外機

◆フロン類と自然冷媒

種別 (冷媒番号)	性質		フロン排出 抑制法	規制概要
	オゾン破壊係数	地球温暖化係数		
CFC (R12 ほか)	大 0.8～1.0	大 4000～10000	該当	1995年末に製造中止
HCFC (R22 ほか)	中 0.02～0.11	大 100～2000	該当	2020年までに原則全廃
HFC (R134a、R410A ほか)	小	大 1000～4000	該当	
CO ₂ (自然冷媒)	—	—	非	

◆フロン類算定漏洩量(2015年度)

フロン類の種類	R22	R404A	R410A	R407C	合計
算定漏洩量(t-CO ₂)	13,931	1,930	1,967	62	17,890
算定漏洩量(kg)	7,696	492	942	35	—

容器包装削減活動とリサイクルによるCO₂削減効果(環境省「3R行動見える化ツール」プロジェクトによる)

ユニーでは循環型社会構築のための活動として、お客様と一緒に「容器包装の3R」を行っています。使用済みの容器包装をリサイクルボックスで回収する、購入したレジ袋は繰り返し使う、マイバッグやマイバスケット持参でレジ袋を使用しない、といったことが容器包装の3R活動です。これらの活動は資源循環だけでなく、CO₂の発生の抑制に貢献し地球温暖化防止につながることで、環境省のプロジェクトに参加し数値化することで確認できました。



リサイクルボックス

◆2015年度リサイクル回収によるCO₂削減量

	回収実績 (kg)	CO ₂ 削減量 (kg)
アルミ缶	647,981	5,572,637
牛乳パック	530,667	265,334
食品トレイ	274,643	1,730,251
ペットボトル	2,200,183	7,920,659
合計	3,653,474	15,488,881

●リサイクルボックスで回収すると
アルミ缶1kgで8.6kgのCO₂削減
牛乳パック1kgで0.5kgのCO₂削減
食品トレイ1kgで6.3kgのCO₂削減
ペットボトル1kgで3.6kgのCO₂削減

●レジ袋を辞退すると、1枚につき30.8gのCO₂が削減できます。

ユニーが2006年に使用したレジ袋 …… 3億3,363万枚

ユニーが2015年に使用したレジ袋 …… 6,328万枚

差引 2億7,035万枚削減 (CO₂は2006年度対比8,327tの削減)



低炭素社会を目指すエコストア

▶ エコマーク小売店舗認定第1号のアピタ千代田橋店

名古屋市のアピタ千代田橋店は、日本環境協会が新たに認定基準を制定したエコマーク小売店舗第1号として2012年1月27日に認定されました。その後2016年までエコマーク認定期間が継続しています。ユニーは持続可能な社会を目指し、店舗で具体的に実践しています。その活動と成果がエコマーク小売店舗の認定基準に達していると認定されたのです。特に評価された項目は次のとおりです。



エコマーク認定証



日本環境協会がアピタ千代田橋店の環境展に出展



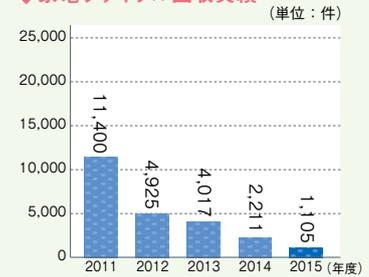
グリーン購入啓発イベント

- 食品リサイクルを実践し生産した野菜などを販売、さらにその工程を見学や農業体験を通して消費者に伝えていること。
- 容器包装廃棄物削減とリサイクル推進の取り組み。
 - ・ レジ袋辞退率
 - ・ 青果、鶏卵のパックにバイオマスプラスチックを使用。使用後は回収してリサイクルしている。
 - ・ ばら売りの推進やトレイを使わない販売など。
 - ・ 店頭回収の実施および再生品化の推進（回収した牛乳パックから製造したトイレトペーパーの販売など）。
- 消費者交流などによる環境啓発活動の実施。
 - ・ 地域の消費者と一緒に「環境にやさしいお買い物」をテーマにした交流会を開催している。
 - ・ 子ども達のお店探検など、次世代に環境教育を行っている。

家電リサイクル

家電リサイクル法に定められた冷蔵庫・洗濯機・エアコン・テレビの4品目をお客様の家庭から回収しています。しかし、家電製品を取り扱う店舗が年々縮小しているため、回収量は減少しています。

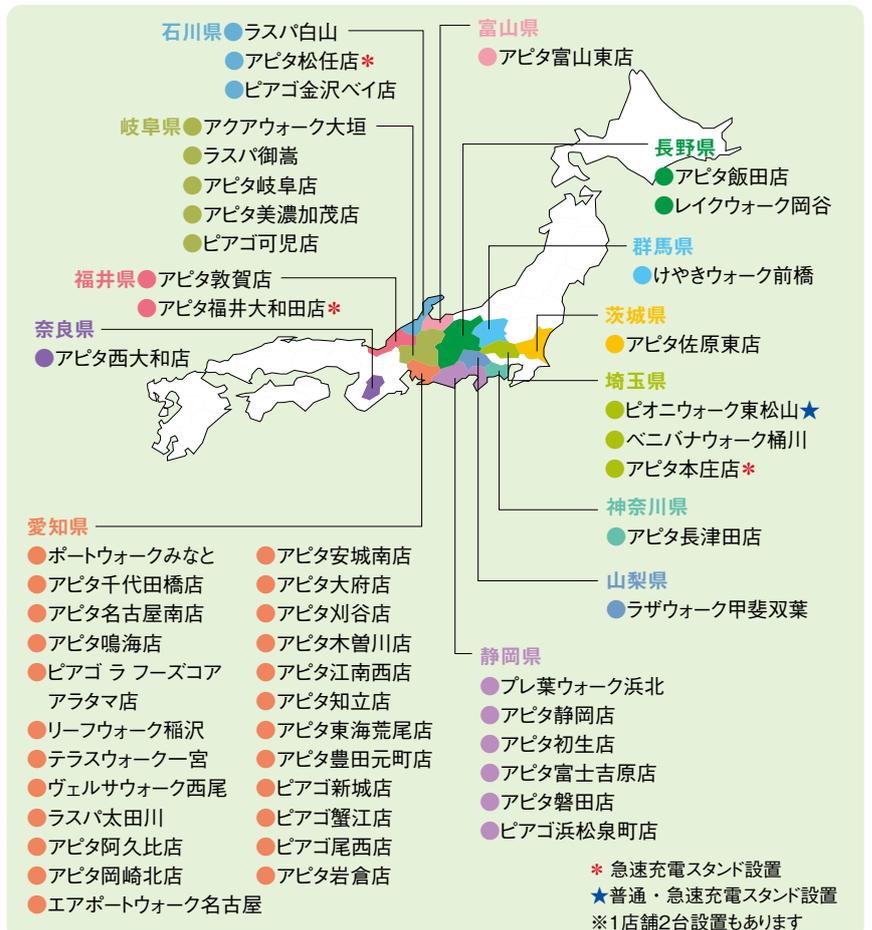
◆家電リサイクル回収実績



電気自動車の充電スタンドを設置

ユニーの大型店舗やモールには1,000台以上の駐車場があります。お客様が自動車で来店されると、CO₂やその他の排気ガスが排出されます。そこで、環境にやさしい来店方法として電気自動車を使っていただくために、充電スタンドの設置を推進しています。お客様がお買い物中に充電していただくことができ、遠方からも安心して来ていただけます。ユニーでは、2016年7月時点で、充電スタンド設置店舗数は51店舗、普通充電スタンド67台、急速充電スタンド4台です。また、充電スタンド本体に、日本政府が推進する新国民運動「COOL CHOICE」の旗印となるロゴマークを掲示して利用を促しています。

◆電気自動車充電スタンド設置店舗



あいち充電スポットマップ



全国EV・PHV充電マップ



電気自動車充電スタンド2台設置 (レイクウォーク岡谷)

環境配慮商品eco!on

▶環境にやさしいお買い物でエコライフスタイル

私達の普段の生活を省エネ・省資源、3R(リデュース・リユース・リサイクル)といったエコライフスタイルにすれば、持続可能な社会構築に貢献できます。お買い物は価格やデザインのほかに「環境にやさしい」という視点で商品を選ぶことも、エコライフスタイルにつながります。

ユニーでは環境配慮商品eco!onを開発・販売しています。原料や製造過程、容器包装、使用時の省エネ・節水、使用後の再資源化など「環境にやさしい」商品を開発し販売しています。商品をお客様に選んでいただくことで地球環境保全に貢献しています。

▶環境に配慮したオリジナル商品「eco!on」(エコオン)

ユニーではPB(プライベートブランド)商品を開発するうえで、特に環境に配慮した商品をeco!on(エコオン)としてロゴをあしらったパッケージで販売しています。



eco!onは、商品開発担当者の申請書と添付資料をもとに、環境配慮商品としてお客様に提供できる商品であることを審査して決まります。

▶eco!onの考え方

環境配慮商品とは、原料・製造・容器包装・販売・使用時・使用後といった生産者から販売者、購入者、再生利用事業者などの「バリューチェーン」で環境負荷を低減させた商品といえます。

ユニーの環境配慮商品eco!onは、こうした環境負荷の少ない安全・安心な商品として開発・販売しています。商品を購入していただくことで、お客様の健康で快適なエコライフを支援し持続可能な社会構築を、生産者やお客様と一緒に推進していくことを目的としています。

- 1 お客様と一緒に育てていく環境配慮型商品です
- 2 ユニーが定める品質基準を満たしています
- 3 ユニーが定める環境に配慮した生産条件を満たしています
- 4 「eco!on開発プロジェクト」で審査し、第三者審査委員会で評価されます

◆eco!on商品に認定されるプロセス



毎月開かれるeco!on開発プロジェクト

eco!onの考え方



環境配慮商品eco!onをもっと魅力的に…若者とコラボ

環境配慮商品は、「地球環境保全に役立つ」と認識されていますが、購入にはなかなか結びつきません。どうしたらもっとたくさんの方に購入していただき、お買い物で地球環境に貢献していただけるか。長年の大きな課題です。

▶かがやけ☆あいちサスティナ研究所(愛知県環境部と協働プロジェクト)

環境問題に関心のある学生と若者に力を借りたい企業を結び、企業にとっては魅力あ



る商品作りや環境活動、学生には地域の担い手としてグローバルな視点で環境配慮行動を実践するための「人づくり」プロジェクトです。

※2015年設立 5企業 20名の学生参加

▶「チームユニー」のミッション

eco!onをもっと消費者に知ってもらい「お買い物で環境貢献」を推進するために、「魅力的な環境配慮商品を作り、販売拡大を図ること」を研究員に提示しました。研究員は店頭インタビューなどで「消費者どころか従業員にも認知度が低い」と課題を明らかにし、提案を出しました。

- ①従業員のキャッチコピーコンペ
- ②学生のパッケージデザインコンペ
- ③PR動画によるプロモーション



研究員メンバー



ユニー社員とディスカッション

▶PR動画制作

「学生視点でPR動画を制作し、店頭モニターで放映」という研究員からの提案にユニーと大学生が協働で取り組み、eco!onシリーズとして初めて発売する環境にやさしい良質綿のTシャツ「オーガニックコットンTシャツ」のPR動画(各15秒)4本を制作しました。PR動画は、大学生ならではの視点とセンス、アイデアを取り入れ、4つのテーマをもとに環境意識の向上だけでなく、商品の持つ魅力を伝える内容となっています。また、撮影は学生の手で行われ、若々しい斬新な出来栄となっています。



アビタ売り場で動画の放映

◆動画テーマ

オーガニックコットン編	オーガニックコットンのイメージが伝わり、触れてみたくなる映像
ターゲット編	ユニー従業員をモデルに男女・世代を問わず着てみたくなる映像
ユニー100年の誇り編	ユニーは衣料品から事業がスタートしたことを明示した歴史映像
LOVE編	学生とユニー従業員が協働で「eco!on」をPRし普及させることで持続可能な社会を目指す映像

▶「オーガニックコットンTシャツ」をプロモーション

研究員に依頼したのは「オーガニックコットンTシャツのプロモーション」。研究員は、学生ならではのセンスとアイデアでPR動画を作成し、ユニーは店頭でプロモーションに使用しました。環境意識の向上だけでなく、商品本来の魅力も打ち出し、難しかった若者層にも購買拡大し売上にも貢献しました。



オーガニックコットンTシャツ

地球環境にやさしく、何にでも合わせやすいベーシックアイテム

eco!on「オーガニックコットンTシャツ」は、地球環境や生産者にやさしいインド産の良質な「オーガニック・シャンカー綿」を使用して柔らかな肌触りの生地仕上げた良質なベーシックアイテムです。

環境面の配慮だけでなく紡績から縫製まで厳しい基準で生産管理されていますので品質にも自信を持ってオススメできるユニーオリジナル商品です。

eco!on「オーガニックコットンTシャツ」は、何にでも合わせやすい便利なベーシックアイテムを心がけて企画しました。

お客様に、日頃着用していただける機会が多い商品にオーガニックコットンを使用することで、オーガニックコットンが普及し地球環境の改善にお役に立てたらうれしいですね。



衣料部 チーフバイヤー
樺山 偉晴



衣料部 マネジャー
貝塚 直子

PR動画制作を監修して

次世代を担う学生さんと共に仕事できたことは名誉なことでした。今回の動画はほぼ彼らの制作によるもので、私は監修したに過ぎませんが彼らの視点にはオリジナリティがありました。eco!onのコンセプトがお客様に訴求できたと思っています。



営業企画部
チーフマネジャー
浅井 崇

オーガニックコットン商品開発について

衣料部が環境配慮商品eco!onとして取り組んでおります「オーガニックコットンTシャツ」は環境にやさしいことはもちろんですが、「綿花の質」にもこだわった良質な生地を使用したベーシックアイテムです。今後は、トレンドを取り入れたファッション衣料から実用的なインナーウェアまで、幅広い商品で良質なオーガニックコットンを使った商品開発を進めていきます。



取締役執行役員
衣料・住関本部長
彦坂 慶太

大学生の協力でお客様の行動変革による効果測定にアンケート調査を実施

「説明を聞き、実際に使用してみると、eco!on商品は良い。でもなぜ売れないのか？」チームユニー4名全員一致のこの「素朴な疑問」から話し合いが始まりました。何度もお店に足を運び、インタビュー調査で買手の生の声を把握し、ユニーの皆さんに臆せず意見や疑問をぶつけることで、現状と課題をしっかりとつかむプロセスに時間をかけました。初めは受け身だったメンバーも、白熱した時間を過ごすにつれ、私も含め、あなたもユニーの商品開発部門の一チームのような4か月を過ごしました。今回の提案の肝は「従業員の巻き込み」。まずは売り手であるユニーのみなさんが、eco!on商品を支持していることが重要だと考えました。加えて未来の顧客である大学生も巻き込み、「コンペティション」を実施しながら既存商品のブラッシュアップをするという仕掛けを提案しました。ユニーの皆さんからは期待以上の評価をいただき、メンバーの成長ぶりも素晴らしいです。これがどのような形で実現に向かうか、今からとても楽しみです。



ファシリテーター
木村 まい

◆オーガニックコットンTシャツ インタビュー調査結果(単純集計グラフ)

●この動画をアビタ・ピアゴの売り場で見たことはありますか。



●ユニーのオーガニックコットンTシャツを買いたいと思いますか。



環境学習で学ぶ環境配慮商品eco!on

環境配慮商品eco!onは購入していただいて初めて地球環境に貢献できます。ユニーでは環境配慮商品eco!onを知って購入していただくために、さまざまなイベントや展示、環境学習を行っています。



インタープリター講座でeco!onの「コトPOP」を作成



エコイベントでeco!onを紹介



お店探検隊で店長が説明



夏休み自由研究応援隊の展示

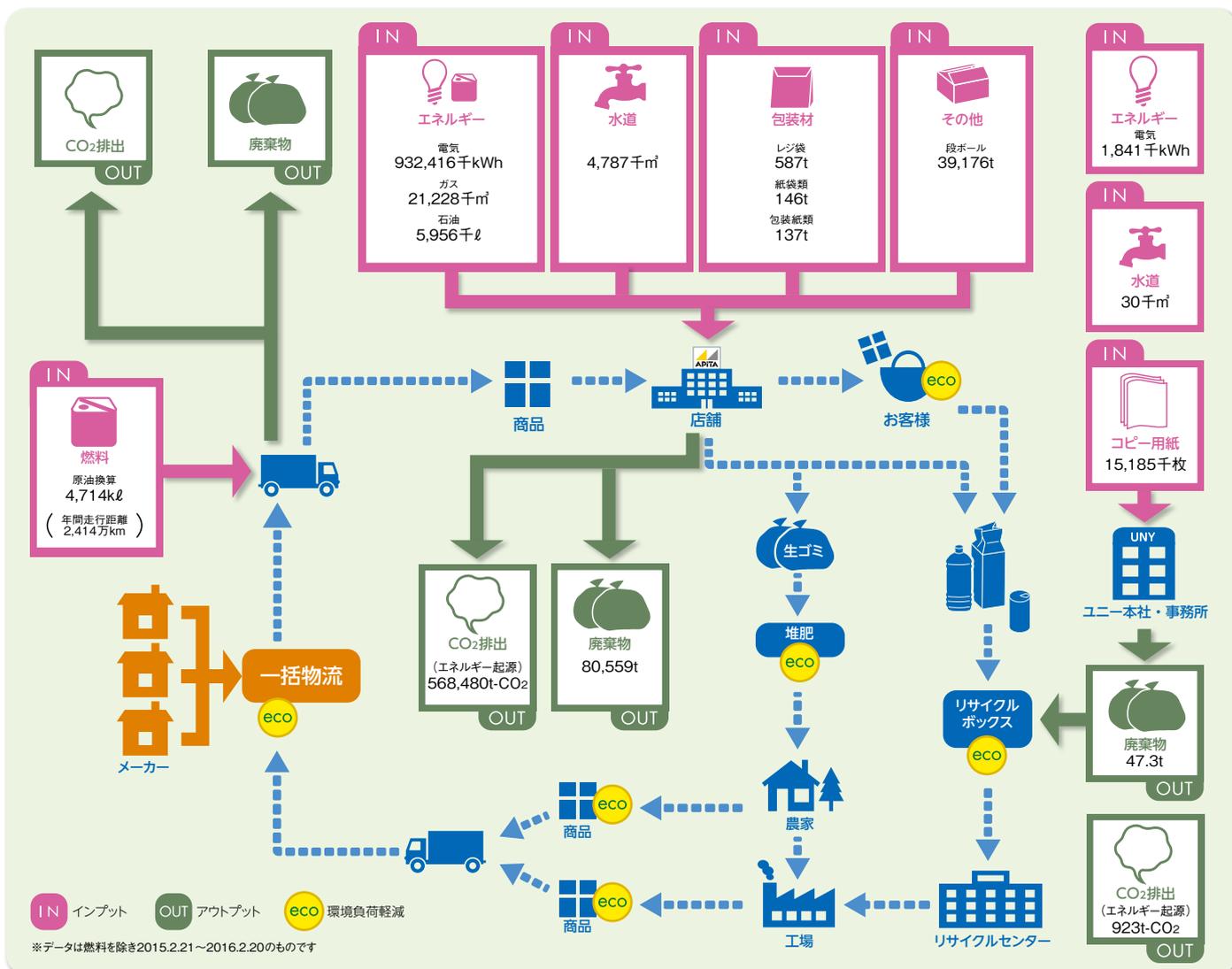
環境負荷

地球温暖化・大気汚染の問題が深刻化する中、温室効果ガスの主な部分を占めるCO₂の大気中濃度は年々上昇しており、その排出量の削減は、事業活動(事業所の維持・商品の輸送など)をしている企業にとって、責務であり急務であります。ユニーは地球環境にマイナスの影響を及ぼす環境負荷をできるだけ出さないよう、継続的に軽減していくよう、その原因を調べ対策を考え行動していくことを、従業員や関係者がそれぞれの役割の中で実践しています。

事業活動における環境負荷

ユニーの事業活動の中で環境負荷の大きな原因は、店舗でのエネルギー使用です。店舗では、照明や空調・食品の冷蔵・冷凍の陳列ケースなどに電気やガスなどのエネルギーを使います。また、商品の輸送や冷蔵・冷凍保管の倉庫などでも多くのエネルギーを使用しています。これらのエネルギーは化石燃料(石油、石炭、天然ガスなど)から得ているため、地球温暖化の原因といわれているCO₂などを排出しています。それ以外にも、店舗から排出する廃棄物やお客様が商品と一緒に持ち帰る容器包装も大きな環境負荷の原因になります。

ユニーでは、これらの原因を明らかにし、環境負荷の低減に努め、エコ・ファースト企業として持続可能な社会を目指します。



環境負荷削減に向けての取り組み

私達物流部は、環境負荷削減に向けて「一括配送」、「混載推進」等で輸送の合理化を図り、CO₂の発生抑制に取り組んでいます。その結果、以下のとおりになりました。

- エネルギー使用量は、原油換算で4,714kℓ、前年比100.5%
- エネルギーの使用に伴って発生するCO₂排出量は、12,528t-CO₂、前年比100.5%、原単位では、98.2% (CO₂の発生量の増加より、輸送量が増えたため改善しました。)
- 輸送量は、4,500万tkm、前年比102.3% (輸送距離 2,414万km)
- ダンボール購入金額(弥富センター購入分)は、3,500万円、前年比95.8%

各センターにもデジタコ、ドライブレコーダー等を導入し「エコ運転の啓蒙」に努めています。2015年から2016年にかけて、北陸・山静・関東北で統合センターが稼働しました。

今年は統合センターをフル稼働させ、さらなる物流の効率化に取り組めます。



IT物流本部 物流部長 浅井 盛希



省エネルギー・省資源活動

省エネ活動

店舗では、照明や空調、冷蔵・冷凍ケースに多くのエネルギーが使われています。そのため、可能な限りの節電に取り組んでいるほか、LED照明やリーチイン冷凍ケース等の省電力型機器を導入し、省エネルギーに努めています。空調の基本温度を管理し、電力のピークカットに取り組んでいます。また、店舗バックヤードや本部の蛍光灯にプルスイッチを取り付け、必要に応じた電力使用を心がけています。

省エネルギー推進委員会

店舗では、エネルギー使用量の削減を目的に、月に1度、省エネルギー推進委員会を開催しています。メンバーは、店長や各副店長の管理職と設備担当や専門店代表者などで構成され、毎月の電気、ガス、水道などの使用量の推移を確認し、削減の施策を検討し具体的に実施しています。ISOの導入店舗は、省エネルギー推進委員会がISO推進委員会として施策を講じています。



LED照明の導入

従来の白熱灯や蛍光灯に比べ消費電力の少ないLED照明の導入を推進しています。2016年7月までに76店舗に導入が完了し、今後全店に導入していきます。LED照明の導入により1店舗あたり消費電力が最大30%削減の効果が期待できます。また売場・及び冷蔵・冷凍ケース照明を一部消灯したりするなど、明るさ感を損なうことなく節電に努めています。



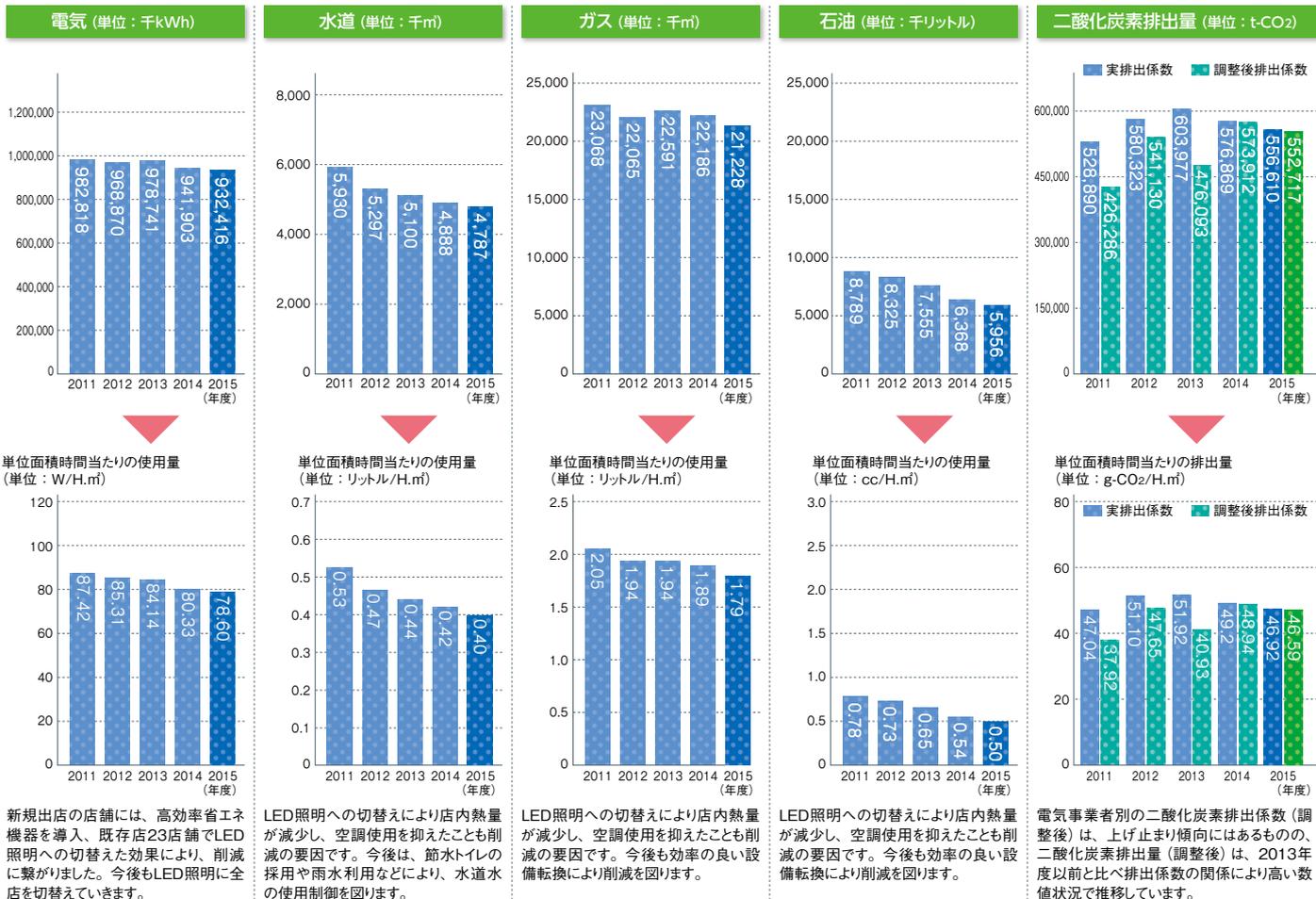
ライトダウンキャンペーンに参加

環境省主導のライトダウンキャンペーンに参加しました。これは、「CO₂削減/ライトダウンキャンペーン」の一環で、6月21日(夏至)と7月7日(ワール・アースデー、七夕) 両日には、夜8時から10時までの2時間程度、商業施設や家庭での一斉消灯を呼びかけたものです。



◆エネルギー使用量の推移

※データは、各年度とも当年2月21日～翌年2月20日までのものです。



2015年度のCO₂換算係数は下記より換算しました。

- 電気…環境省ホームページ温室効果ガス排出量 算定・報告・公表制度について 電気事業者別のCO₂排出係数(2014年度実績)(平成27年11月30日公表)
- 水道…独立行政法人国立環境研究所「水道に関するCO₂排出原単位の算定根拠」(環境省推奨)
- ガス・石油…環境省ホームページ温室効果ガス排出量 算定・報告・公表制度について 算定・報告・公表制度における算定方法・排出係数一覧(平成22年3月改訂後)
- ※二酸化炭素排出量: ●調整後排出係数…電気事業者の調整後排出係数(京都メカニズムクレジット・国内認証排出削減量を加味している)
- 単位面積時間当たりの使用量…CO₂排出量/営業面積×営業時間

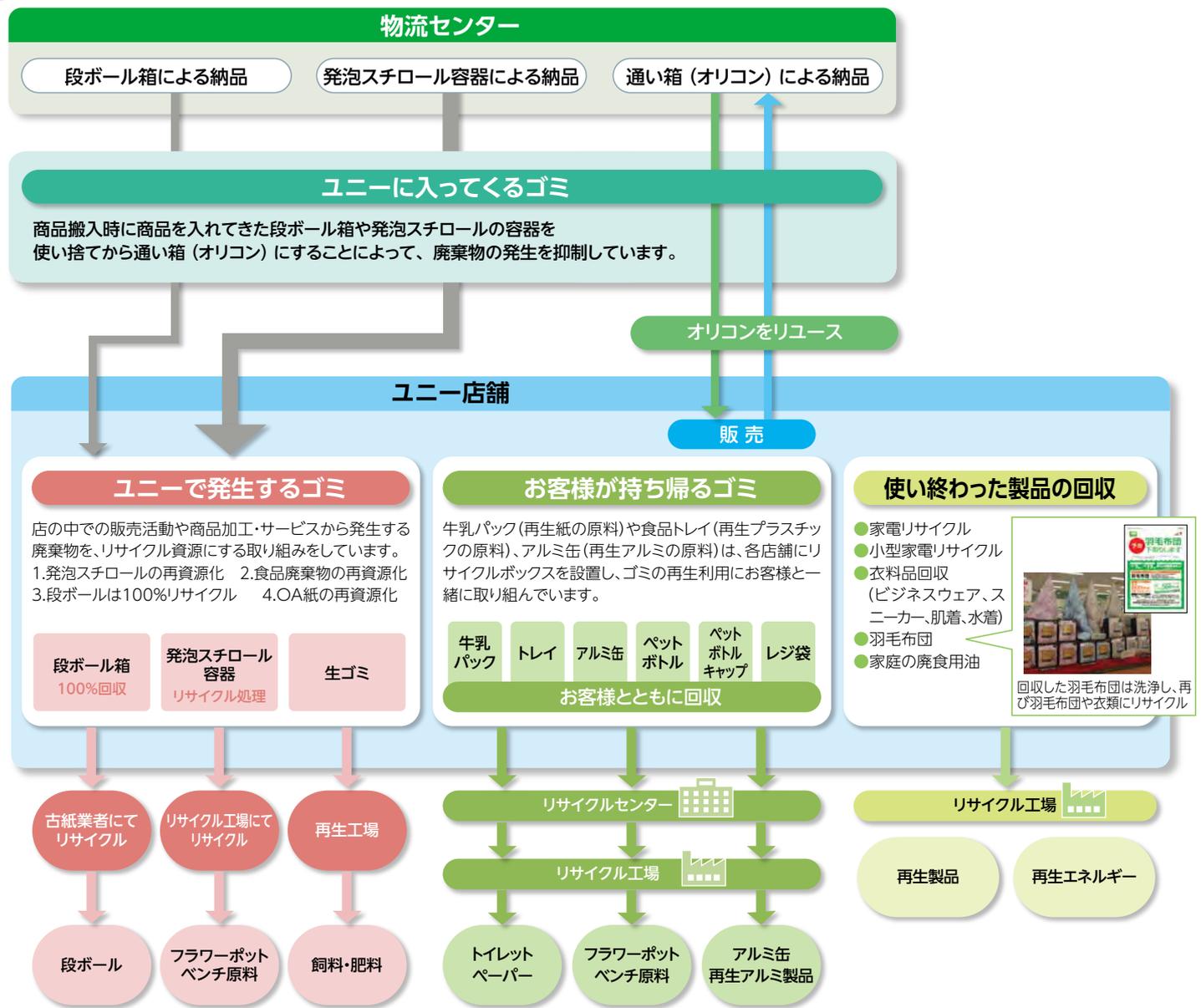
◆5社の電気使用に伴う二酸化炭素の調整後排出係数

電気供給事業者	平成26年度 (tCO ₂ /kWh)	平成27年度 (tCO ₂ /kWh)
東北電力株式会社	0.000589	0.000573
東京電力株式会社	0.000521	0.000496
中部電力株式会社	0.000509	0.000494
北陸電力株式会社	0.000628	0.000640
関西電力株式会社	0.000516	0.000523

廃棄物を削減する取り組み

企業活動から発生する廃棄物をできるだけ削減するには、廃棄物の発生場所や原因、種類などを正確に調べることが必要です。また発生した廃棄物を再生資源としてリサイクルするためには、適正な分別と保管が大切です。ユニーでは全店舗に廃棄物計量システムを導入し、直営売り場だけでなく専門店や共有部分から排出される廃棄物ごとに、排出場所・19種類に分別し計量しています。この活動により廃棄物の発生抑制やリサイクルを推進しています。廃棄物を削減するために家庭に持ち帰るとゴミになる容器包装を削減したり、使用済み容器包装を店頭回収してリサイクルしています。今後はお客様から使い終わった製品の回収に取り組みお客様とともにリサイクルに取り組んでいきます。

廃棄物削減のための取り組み



廃棄物分別を徹底するために

ユニーの廃棄物分別・計量は直営売り場だけでなく、入店されているコンセッションナリーや専門店、お客様ゴミ箱などの共有部分での廃棄物など店舗から排出されるすべての廃棄物で行っています。廃棄物を正しく分別して計量してもらうために直営従業員・専門店従業員など関連している人たちに定期的に教育を行っています。



「ユニーのゴミ図鑑」と教育用DVD



専門店店長会議での分別教育



バックヤードの廃棄物分別「ゴミステーション」



環境省が実施するPLA-PLUSプロジェクトでプラスチック製品の回収



ユニーで発生するゴミ

ユニーでは2003年度から順次店舗に廃棄物計量器を設置し、店舗から排出される全ての廃棄物を排出場所ごとに分別計量しています。排出場所(売り場、専門店、その他)ごとに管理することで排出責任を明確にし、廃棄物の発生原因を追求し発生抑制に努めています。排出された廃棄物は分別を徹底することで再生資源としての価値が上がり、リサイクルが進みます。

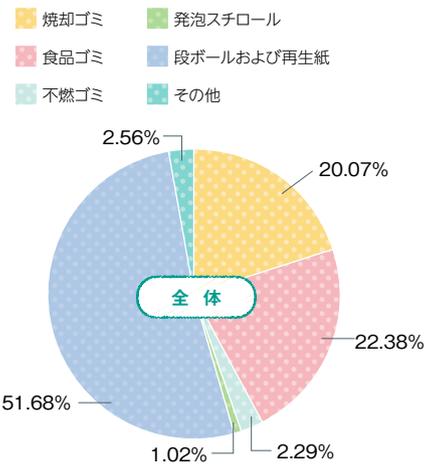
2015年度の廃棄物排出量は2014年度対比99.0%で1%削減しました。多くの種類の廃棄物を削減しましたが食品の売り上げが増加したため、一般可燃ゴミとビニール(食品系)が微増しました。食品ゴミに関しては商品廃棄を削減することによって生ゴミを削減しました。また、魚あらに関しては一部商品をプロセスセンターで加工することにより、歩留まりが高まり廃棄量を削減しました。納品時にオリコンやクレートを使用して排出量の多い段ボールを削減し、今後は容器包装自体を簡素化したり軽量化して廃棄物の排出量を削減していきます。そして排出された廃棄物は正しい分別によって再生資源としてリサイクルを進めていきます。

◆廃棄物排出量

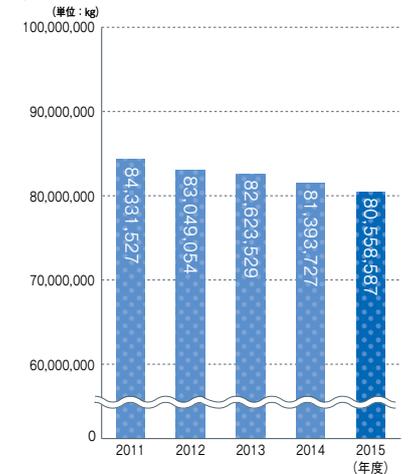
(単位:kg)

区分	種類	2013年度	2014年度	2015年度	前年比[%]	
可燃ゴミ	焼却ゴミ	一般可燃ゴミ	11,994,522	11,900,222	12,086,549	100.8%
		ビニール(食品系)	4,177,479	4,053,758	4,084,461	100.8%
		小計	16,172,001	16,043,980	16,171,010	100.8%
	食品ゴミ	生ゴミ	14,035,060	13,981,999	13,722,833	98.1%
		魚のアラ	2,322,053	2,236,762	2,088,226	93.4%
		てんかす	964,936	964,119	981,157	101.8%
		廃食用油	1,327,618	1,249,435	1,233,678	98.7%
		小計	18,649,667	18,432,315	18,025,894	97.8%
不燃ゴミ	ビン	1,129,825	1,223,503	1,395,634	114.1%	
	缶	482,476	470,864	446,920	94.9%	
	小計	1,612,301	1,694,367	1,842,554	108.7%	
発泡スチロール		903,002	829,406	823,188	99.3%	
段ボールおよび再生紙	段ボール	40,681,559	39,826,230	39,175,684	98.4%	
	紙類(再生可)	2,472,695	2,507,907	2,459,340	98.1%	
	小計	43,154,254	42,334,137	41,635,024	98.3%	
その他	プラスチック	440,255	439,724	428,814	97.5%	
	ビニール(衣住系)	951,686	888,302	866,917	97.6%	
	ペットボトル	380,054	378,632	415,764	109.8%	
	陶器・ガラス	114,404	107,877	107,794	99.9%	
	金属カス	133,654	138,154	145,619	105.4%	
	その他	112,251	106,833	96,008	89.9%	
	小計	2,132,304	2,059,522	2,060,916	100.1%	
合計		82,623,529	81,393,727	80,558,586	99.0%	

◆廃棄物構成比率



◆廃棄物総排出量の推移



廃棄物計量システム



売り場では廃棄物を種類ごとに別々の容器に分けて入れます。混ぜてしまうとリサイクルできないので、容器に入れる時にきちんと分別します。



廃棄物は排出場所・種類ごとにバーコードで管理し、計量器に載せ、重量を計ります。



シールを発行します。同時にデータは事務所の端末に記録、集計され、本社の端末に送信されます。テナントや売場には毎月集計された結果が告知されます。



計量した廃棄物は、それぞれ温度管理された廃棄物庫で保管されます。腐敗しやすい食品廃棄物などは冷蔵保管されます。

環境にやさしい容器包装

容器包装の本来の目的は、商品の品質や衛生安全を保全し、手軽に安全に持ち運びできることです。

ユニーはセルフサービスで商品を販売しているため、お客様が自分で商品を選び精算します。

そのためほとんどの商品は容器包装に入れて販売しています。

ところが使い終わった容器包装が家庭ゴミの50%（容積比）を占め、

廃棄されたものを焼却処分するには大量のCO₂を排出し地球温暖化の一因になるともいわれています。

ユニーではお客様とメーカーが協働で容器包装の簡素化や軽量化に取り組み3Rを実践し環境負荷低減に取り組んでいます。

1 容器包装をできるだけ使わない販売への取り組み

レジ袋のように、お客様と一緒に「使わなくてもよい容器包装」を削減する。

- ◆ノーレジ袋キャンペーン
- ◆レジ袋無料配布の中止
- ◆ばら売りなど、容器包装を使わない販売
- ◆どうしても使用する容器包装の小型化・薄肉化
- ◆トレイを使わない販売の検討
- ◆贈答品などの簡易包装
- ◆マイボトルやマグカップなどの利用促進

2 使った後の容器包装を廃棄物にしない取り組み

お客様が商品と一緒に持ち帰った容器包装を回収し、再生資源にする。

- ◆リサイクルによる店頭回収
- ◆再生資源として製品（トイレトーパーなど）やベンチなどにリサイクル
- ◆使用済みレジ袋を再びレジ袋にリサイクルする
- ◆ペットボトルキャップを店頭回収し、自動車部品や換気扇部品などへのアップサイクルを推進

3 サステナブル（持続可能な）原料を使った容器包装への取り組み

限りある化石資源（石油）を使用せず、繰り返し栽培可能な植物資源を原料にする。

- ◆環境配慮商品eco!onの容器にバイオマスプラスチックを使用
- ◆有料レジ袋にバイオポリエチレンを使用
- ◆生鮮食品の販売に生分解性バイオマスプラスチック、ポリ乳酸製容器包装を使用

1 容器包装をできるだけ使わない販売への取り組み

レジ袋削減への取り組み

レジ袋の歴史は古く、1970年代にスーパーで商品の持ち帰り用に使われ始めました。薄くて丈夫、水にも強く便利なことから瞬く間に社会に浸透しました。ところが一度使えば廃棄され、自然には分解しないことから、ゴミの増加や自然破壊につながる大きな問題になり、消費者団体などによる「お買い物袋持参運動」が1980年代に始まりました。ユニーでは1989年からレジ袋削減に取り組んでいます。

2001年からはマイバッグを配布したり、2006年には「ノーレジ袋キャンペーン」を展開したり、さらに啓発活動を進めましたが効果が出ず、2007年からは「レジ袋無料配布中止（有料化）」を始めました。廃棄されたレジ袋を焼却することでCO₂が発生すること、原料である化石燃料（石油）の枯渇なども問題にされ、持続可能な社会の妨げになることから、ユニーでは2014年2月に全店の食品売り場でレジ袋無料配布の中止に踏み切りました。

レジ袋削減のための取り組み

▶ お買い物袋持参運動開始

1989年に愛知県一宮市で「レジ袋をもう一度使いましょう」という、お買い物袋持参運動を開始しました。



お買い物袋持参運動の説明を受ける従業員（1989年11月、サンテラス一宮店）

▶ マイバッグキャンペーン

2001年からは「何度も使えるレジ袋代わりのマイバッグ」をスタンプカードと交換で差し上げるマイバッグキャンペーンを始めました。



▶ ノーレジ袋キャンペーン

2006年から「レジ袋を使わないお買い物」をお客様と一緒に進めるために、ポスターや館内放送でアピールし、レジ袋の辞退率を高めることができました。



▶ レジ袋の無料配布中止

全店の食品売り場でレジ袋無料配布を中止にしました。

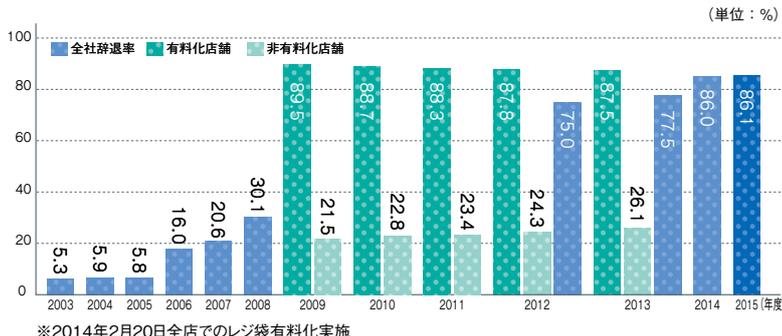


群馬県 アピタ高崎店

▶ レジ袋辞退率の推移とレジ袋使用量の推移について

ユニーでは2007年からレジ袋無料配布中止（有料化）を開始しました。当初はユニー全体で年間3億枚を超えるレジ袋を使用していましたが、無料配布中止店舗を拡大することによって2013年には1億枚近くまで削減しました。レジ袋辞退率も年々向上し90%近くまで向上しました。2014年に全店での無料配布中止を実現し2015年にはレジ袋は6,328万枚まで削減しました。この結果、容器包装リサイクル法の再商品化委託金額も減り環境負荷軽減と経費の削減にもつながりました。

◆ レジ袋辞退率の推移



◆レジ袋使用量の推移※1

年度	枚数(単位:千枚)	重量(単位:t)	備考
2007	310,559	1,818	レジ袋無料配布の中止
2008	309,222	1,851	96店舗で無料配布中止
2009	134,678	1,029	170店舗で無料配布中止
2010	116,749	964	約73%の店舗で無料配布中止
2011	111,632	851	四日市市・弥富市などの店舗が加わる
2012	110,743	839	約80%の店舗で無料配布中止
2013	109,528	821	滋賀県、長野県、愛知県全域で無料配布中止
2014	68,454	616	関東8県、関西2県含め全店舗で無料配布中止
2015	63,288	587	全店舗での無料配布中止を継続

※1 2008年にユースタアと合併し80店舗増える
 ※2 容器包装リサイクル法に基づき、公益財団法人日本容器包装リサイクル協会へ支払った委託金額
 ※3 全店舗でのレジ袋有料化を実施したためプラスチック容器包装が大きく削減された

◆容器包装リサイクル法への対応※2

年度	委託金額(税込)
2007	2億9,729万円
2008	2億7,978万円
2009	2億2,272万円
2010	1億6,655万円
2011	1億6,154万円
2012	1億4,868万円
2013	1億5,866万円
2014	1億6,104万円
2015	1億3,557万円※3

レジ袋無料配布中止(有料化)

ユニーは、2007年6月に、横浜市のピアゴ中山店(旧ユニー中山店)で初めて有料化を開始しましたが、単独での実施だったため、自治体や消費者・同業者との連携が取れず、またお客様からのご理解がいただけず来店客が減少、売り上げも一時低迷するといった厳しいスタートでした。

店舗での啓発活動の結果、売り上げは持ち直せましたが反省することがたくさんありました。これ以降、ユニーは自治体や市民との合意のうえ、地域の近隣の同業他社とも連携し、地域全体で取り組みました。その後は大きな問題もなく地域を拡大、2014年2月20日には全店舗レジ袋無料配布中止(有料化)を実現しました。

- 1 自治体が、レジ袋削減は「廃棄物削減および地球温暖化防止」のためであることを広く市民に知らせ、主体的に取り組むこと。
- 2 地域の市民団体が支援して下さること。
- 3 地域の小売り事業者などが皆で参加すること。

自治体・市民団体・事業者の三者がそれぞれの役割を果たすために、協議会を設立し十分に話し合い、協定書を締結するよう努める。

地球環境活動に寄付

有料レジ袋を購入していただくと、ユニーは1枚につき1円を、地域の自治体の環境活動に寄付します。
 ◆2015年度実績
3,396万6,383円



群馬県より感謝状を受け取る
 けやきウォーク前橋の衣笠拓也支配人

減装(へらそう)ショッピング

家庭から排出されるごみの約60%が商品の容器包装だといわれています。容器包装には商品の品質や衛生安全を保全し、持ち運びやすいなどの機能がありますが、さらに軽量化や簡素化を図り、廃棄物の発生抑制を促進しなければなりません。そこで、中身に対して容器包装の軽い商品に「減装マーク」をつけ、消費者に紹介して購入を促す実験をNPOごみじゃぱん(神戸大学)と一緒に実施しています。エコ博では、賛同したメーカーが減装商品を消費者にアピールしました。

容器包装ゴミを減らしたPB商品

◆スタイルワンマーガリン入りバターロール



日本ハム、容器包装削減を子ども達に説明



エコ博、減装戦隊「へらすんじゃー」が子ども達とクイズ



山崎製パンの減装商品を紹介するごみじゃぱんの学生

東海三県一市グリーン購入キャンペーン

2002年より、愛知県・三重県・岐阜県の東海三県と名古屋市の小売店が共催して「環境にやさしいお買い物」を消費者に啓発する活動を行っています。容器包装が軽量なものの、容器詰め買え商品、容器包装資材が再生資源やバイオマスプラスチックなどの環境への負荷ができるだけ小さいものを優先的に購入することで、廃棄物削減やリサイクル資源の利活用、資源の保全などの環境貢献ができることを紹介し、消費者に環境について関心をもってもらい、商品選びに役立ててもらおうことが目的です。ユニーでは独自企画として、環境に配慮したオリジナル商品「ecolon」やバイオマスプラスチック製容器包装の普及啓発活動を行っています。また、県や市と協力して店内でイベントを開催し、より多くの消費者に知ってもらい、買っていただくように努めています。



キャンペーンポスター



愛知県と協働でイベント開催
 ヴェルサウォーク西尾



三重県 アビタ松阪三雲店



岐阜県 アビタ美濃加茂店



名古屋
 ヒルスウォーク徳重ガーデンズ



紙バックで手すきハガキ作り
 ヴェルサウォーク西尾



愛知県AELネットも出展
 (環境施設のスタンブラー)

2 使った後の容器包装を廃棄物にしない取り組み

リサイクルボックスによる容器の店頭回収

ユニーでは家庭ごみの削減と再資源化を図るために、使用済み容器包装を店頭回収しています。回収した容器包装は店舗ごとに重量を計りその結果をポスターで公表し、再資源として国内循環ルートで運用しています。2015年度は総回収量が前年度比2.8%増加しました。お客様と進める「循環型社会構築」の取り組みです。



◆リサイクルボックスでの店頭回収実績

	アルミ缶	牛乳パック	発泡トレイ	ペットボトル	店舗総合計
回収店舗数	208店舗	223店舗	223店舗	205店舗	—
回収店舗	93.3%	100.0%	100.0%	91.9%	—
全社合計(45期)(kg)	647,981	530,667	274,643	2,200,183	3,653,474
全社合計(44期)(kg)	605,198	542,743	280,492	2,126,669	3,555,103
前年比	107.1%	97.8%	97.9%	103.5%	102.8%

回収した容器はリサイクルセンターに集約

リサイクル回収の輸送にかかるエネルギーやCO₂の排出などが問題にされることがあります。ユニーでは店舗から物流センター内にあるリサイクルセンターに搬送するときに商品配送便の帰り便を使うことにより、無駄な燃料やCO₂の排出削減に努めています(現在中京地区・山静地区・北陸地区の物流センターにリサイクルセンターを設置。その他の地区は店舗から直接リサイクル工場に搬送しています)。リサイクルセンターでは、各店舗から回収した使用済み容器包装を計量し効率的に搬送しやすいように圧縮し、それぞれのリサイクル工場に搬出します。



弥富物流センター内のリサイクルセンター

▶容器包装リサイクルの仕組み



使用済み容器包装のリサイクルループ

牛乳パックのリサイクル

牛乳パックは店舗で回収され、リサイクルセンターで計量されます。リサイクル工場では、パルパーで液化しスクリーン工程で原料を精製し、抄紙機で原紙を作り、リワインダーで巻きなおして裁断し、自動包装機でトイレットペーパーを包装して出荷されます。

アルミ缶のリサイクル

アルミ缶は店舗で回収され、リサイクルセンターで計量・圧縮されます。リサイクル工場では、薄い板にしてアルミ缶に加工し、溶かしたアルミニウムを塊(再生地金)にする。高温でアルミ缶を溶かす。アルミ缶のリサイクル工場では、アルミの製造には膨大な電気が必要ですが、アルミ缶の再利用によってエネルギーが節約できます。

リサイクル量の推移 (単位: kg)

年度	参加店舗	食品取扱店舗	参加率 (%)	回収量 (kg)
2011	217	217	100.0	598,709
2012	217	217	100.0	575,332
2013	220	220	100.0	581,646
2014	223	223	100.0	542,743
2015	223	223	100.0	530,667

参加店舗数と参加率の推移

年度	参加店舗	食品取扱店舗	参加率 (%)	回収量 (kg)
2011	173	217	79.7	534,081
2012	177	217	81.6	555,663
2013	193	220	87.7	596,767
2014	196	223	87.9	605,198
2015	208	223	93.3	647,981

ペットボトルのリサイクル

ペットボトルは店舗で回収され、リサイクルセンターで計量・圧縮されます。リサイクル工場では、フレークを溶かして透明なPET樹脂に戻す。粉砕処理をして細かくする。

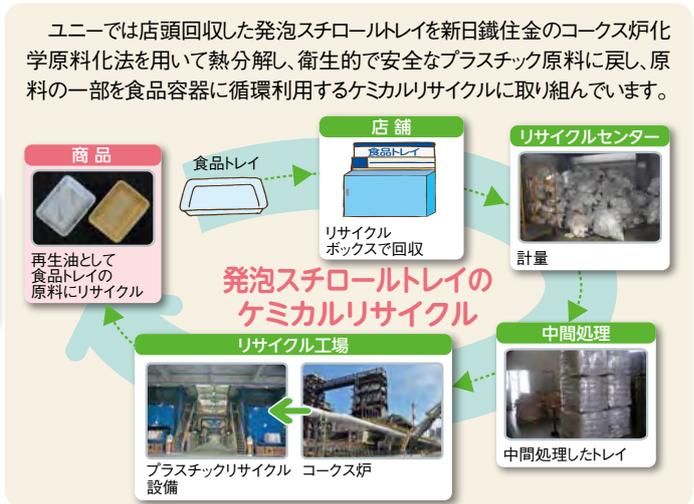
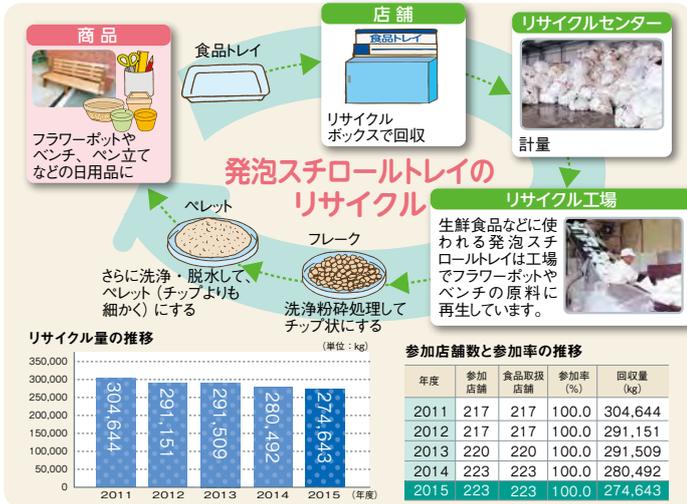
リサイクル量の推移 (単位: kg)

年度	参加店舗	食品取扱店舗	参加率 (%)	回収量 (kg)
2011	178	217	82.0	1,760,944
2012	184	217	84.8	1,865,920
2013	193	220	87.7	2,146,522
2014	205	223	91.9	2,126,669
2015	205	223	91.9	2,200,183

参加店舗数と参加率の推移

年度	参加店舗	食品取扱店舗	参加率 (%)	回収量 (kg)
2011	178	217	82.0	1,760,944
2012	184	217	84.8	1,865,920
2013	193	220	87.7	2,146,522
2014	205	223	91.9	2,126,669
2015	205	223	91.9	2,200,183





ボトルキャップ運動

ユニーでは回収したペットボトルキャップを、再生プラスチックの専門企業いその株式会社に売却し、NPO「世界の子どもにワクチンを日本委員会」に寄付しています。また、再生プラスチックは自動車部品の原料としてリサイクルしています。ユニーはこうした使用済み容器包装の「アップサイクル」を目指しています。



3 サステナブル(持続可能な)原料を使った容器包装への取り組み

バイオマスプラスチック製容器包装

容器包装はプラスチック製のものが多く、ほとんど石油製品です。石油など化石燃料は限りある資源であり、使い捨ての容器包装に枯渇が心配される貴重な資源を使ってよいのでしょうか。また、石油を産出する時、焼却処分する時にはCO₂を排出し、地球温暖化の一因とされています。そこで、ユニーは2006年から植物由来のバイオマスプラスチック製容器包装を使用しています。



バイオスマーク

動植物を原料としたプラスチック使用後は水と二酸化炭素に分解され、自然に戻ります。

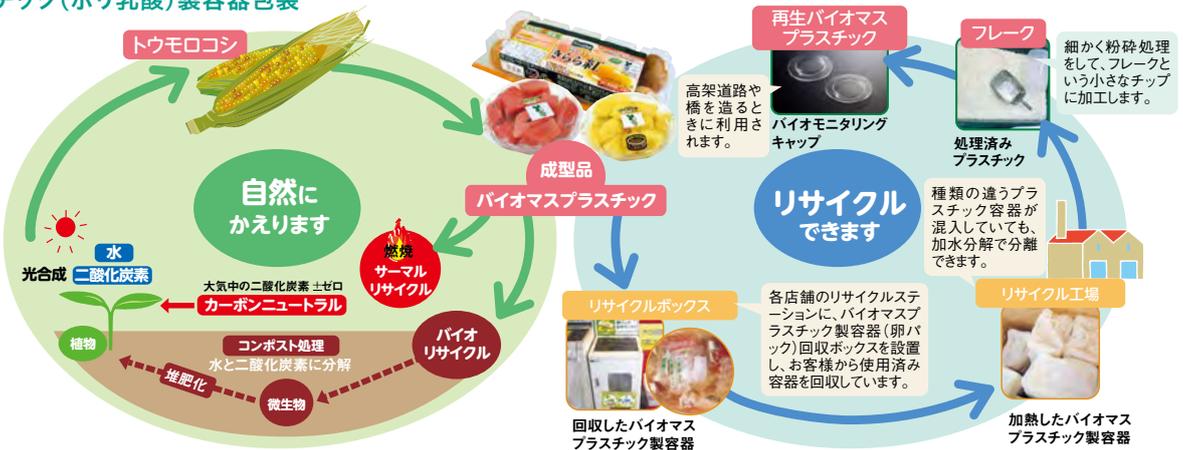
▶ バイオマスプラスチック(バイオポリエチレン)製容器包装

ユニーの有料レジ袋は植物由来のバイオポリエチレンを25%含有品です。サトウキビの廃材から作られたバイオポリエチレンは石油製品に比べ、17%CO₂を削減しています。



▶ バイオマスプラスチック(ポリ乳酸)製容器包装

ユニーではサステナブル(持続可能)な資源であり、CO₂を増やさないバイオマスプラスチック(ポリ乳酸)を青果売場と鶏卵パックに使用しています。使用済みの容器は回収しリサイクルしています。



食品廃棄物 リサイクルシステム

エコ・ファーストの約束

日本の食料自給率が40%に満たず、多くの食料を海外から輸入するなかで、毎日たくさんの食料を廃棄しています。ユニーは食品リサイクル法を遵守し、食品をできるだけ廃棄しない、また食品リサイクルループを各地で展開し、地域循環農業を進めています。そして消費者と生産者を結び地産地消にも取り組んでいます。

日本の食品廃棄物等の利用状況

2013年度に、日本で排出された食品由来廃棄物は2,797万tで、そのうち食品リサイクル法の対象である食品関連事業者（食品製造業・卸売業・小売業・外食産業）が排出する事業系食品廃棄物は806万tにのぼります。そのうち330万tがまだ食べられる食品ロスでした。一方で、家庭系廃棄物は870万tであり、そのうち302万tがまだ食べられる食品でした。こういった食品ロスを発生させないためには、食品関連事業者だけではなく消費者も一緒に取り組むことが必要であり、フードチェーン全体で取り組む最重要課題です。

▶ 概念図(平成25年度推計)



食品リサイクル法改正

環境省と農林水産省の合同委員会で、2007年の食品リサイクル法改正から5年が経過したことで見直しを行いました。従来の食品関連事業者だけではなく、国民や自治体の役割も重要になっています。

1 食品廃棄物等の発生抑制(リデュース)の推進

- 発生抑制の目標値を26業種に加え菓子製造業や給食事業など5業種を追加
 - 食品ロス削減のためにフードチェーン全体で国民運動を展開
- [食品ロス削減国民運動の取り組み]**
- 消費期限の延長と消費者の過度な鮮度意識の改善
 - 小売における食品廃棄物の継続的な計量
 - 外食時のドギーバッグ利用や食品関連事業者のフードバンクの活用
 - 省庁・自治体・関係団体が連携した普及啓発活動 など



2 食品循環資源の再生利用(リサイクル)の促進

- 再生利用手法の優先順位 ①飼料化 ②堆肥化 ③メタン化など(飼料・堆肥以外)
- 再生利用等実施率の目標値の引き上げ
- リサイクルループの認定制度の促進
- 登録再生利用事業者制度の登録要件の強化、指導・監督の強化
- 食品関連事業者からの報告による都道府県の再生利用等実施の現状把握

3 再生利用等実施率の新たな目標値

	食品製造業	食品卸売業	食品小売業	外食産業
新たな目標値(2015年から2019年)	95%	70%	55%	50%
前回の目標値(2007年から2012年)	85%	70%	45%	40%
2013年度実績	95%	58%	45%	25%

食品廃棄物不正転売再発防止について(環境省から)

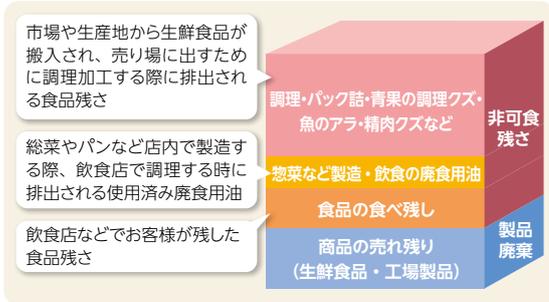
2016年1月、愛知県で登録再生利用事業者(ダイコー)が、堆肥化目的でメーカーなどから搬入された食品廃棄物を、不正流通させてしまったことが発覚しました。そこで再発防止のための対策が立てられました。

[廃棄食品の不正流通に関する今後の対策]

- 食品廃棄物の排出から処理にいたるフローの管理強化
- マニフェストの機能強化
- 廃棄物処理事業者に係る対策:透明性と信頼性の強化
- 排出事業者に係る対策:食品廃棄物の転売防止対策の強化

ユニーの店舗から排出される未利用食品(食品残さ)

ユニーの店舗で排出される食品残さは、店内加工時に発生するキャベツの外葉や魚のアラなどの非可食部分と「消費期限切れ・賞味期限切れ」「飲食の食材廃棄」などの可食部分があります。特に後者は「食品ロス」とされ、消費者の行動と密接に関連しています。店舗での食品廃棄物の発生抑制を進めるためには、消費者と連携した取り組みが必要です。



ユニーの食品リサイクル方針

2001年にユニー環境部が発足した時点で食品リサイクル法はすでに施行されており、食品関連事業者は業種の区別なく、食品廃棄物の20%以上の発生抑制・減量・リサイクルをすることが義務付けられていました。ユニーは環境負荷が少なく、経済的負担が重くなく、かつ持続可能な方法を検討しました。そこで、食品残さを再生利用した循環型農業「食品リサイクルループ」を構築し、地元生産者との取り組みで「地産地消」を実現しました。2014年の法改正でリサイクル率55%が新たな目標値に設定され、ユニーではさらに取り組みの強化を図っています。

- 1 安全であり環境負荷が少ないこと。(大気汚染・水質汚染を予防し、省エネであること)
- 2 再生資源として有効であること。(有価資源になり再廃棄しない)
- 3 経費が抑えられること。(公共処理料金との比較)
- 4 継続できる方法であること。(リサイクルルートが確立していること)

食品リサイクルの実績

▶ リサイクル実績

2015年度は、岐阜県で飼料化のリサイクルループが構築でき、調理クズや売れ残り食品のリサイクル量が増加し、リサイクル率が1.6%向上しました。また廃食用油は調理方法の改善(スチームコンベクション)やろ過器による再利用等で廃棄量を削減し、発生抑制に貢献しました。

店舗から発生する食品廃棄物(未利用食品)	2014年度			2015年度		
	排出量(t)	リサイクル量(t)	リサイクル率(%)	排出量(t)	リサイクル量(t)	リサイクル率(%)
生鮮食品の調理クズ(野菜、果物など)、賞味期限切れや飲食の食べ残し	13,982	7,330	52.4%	13,756	7,503	54.5%
魚のアラ(魚介類の調理クズや内臓・骨)	2,237	1,993	89.1%	2,104	1,880	89.4%
廃食用油(使用済み揚げ油)	1,249	1,249	100.0%	1,234	1,234	100.0%
てんかす(フライやテンブラなどの揚げカス)	964	493	51.1%	981	509	51.9%
合計	18,432	11,066	60.0%	18,075	11,126	61.6%

※端数を四捨五入しているため、合計数値と一致しない場合があります

▶ 食品リサイクルの推移

食品ロス(売れ残り食品)の発生抑制に取り組んできた結果、食品廃棄物排出量は年々減少しています。また、リサイクル率に発生抑制(2007年度比)を加味した国への報告数値「再生利用等実施率」は72.9%と昨年より3.2%上昇しました。さらに2014年度から国が設定した売上に対する食品廃棄物の発生原単位も31.3kgと食料品小売業の目標65.6kgを大きくクリアしています。今後はさらに発生抑制とリサイクル促進に努めます。

	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
食品廃棄物発生量(t)	19,605	21,436	22,908	21,210	19,944	19,089	18,650	18,432	18,075
リサイクル量(t)	6,656	7,561	9,444	10,378	10,812	10,874	11,099	11,066	11,126
リサイクル率(%)	34.0	35.3	41.2	48.9	54.2	57.0	59.5	60.0	61.6
再生利用等実施率(%)*	34.0	47.3	48.9	59.0	64.1	66.5	69.6	69.7	72.9
食品廃棄物等の発生原単位(発生量:kg/売上高:百万円)	44.00000	35.83000	38.99000	35.64000	34.67696	34.15311	32.80502	33.03063	31.29166
発生原単位の対前年度比(%)	-	81.4	108.8	91.4	97.3	98.5	96.1	100.7	94.7

※当該年度の単純実施率に2007年度比の発生抑制を加味した値

食品廃棄物発生抑制への取り組み

▶ 食品ロス削減に向けた納品期限の見直し

食品製造業~卸売業~小売業のフードチェーンでは、商習慣を見直して食品ロスを削減する取り組みが試験的に行われています。スーパーなどへの納品期限を賞味期限の1/3以内とするいわゆる「1/3ルール」が食品ロスの一因と考えられ、これを1/2にして、食品廃棄抑制につながるかどうかというものです。ユニーでは今後、製造業者や物流センターでの過剰在庫や店舗での廃棄を削減できるような成果を期待して、飲料や菓子を対象に実証試験を実施する予定です。

◆ 納品期限見直しの例(賞味期間が6カ月の場合)

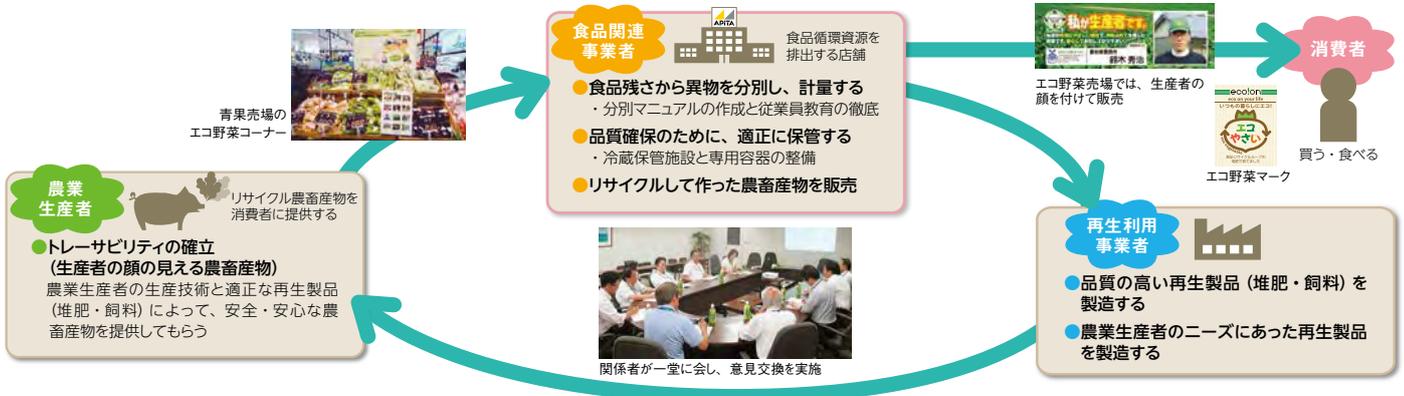


食品リサイクルループの構築

2005年にユニーが再生利用事業者ヒラテ産業・農業生産者JAあいち経済連と食品リサイクルループを構築してから10年経ちました。2007年には全国初の再生利用事業計画を国から認定され、参加店舗は2店舗から17店舗に規模を拡大しながら継続しています。

▶ リサイクルループを構成するパートナーシップ

食品残さを排出するユニーと、堆肥や飼料を製造する再生利用事業者、それを使って農畜産物を生産する農業生産者、そしてそれを販売して消費者に届ける「食品リサイクルループ=命をつなぐ環」を回し続けることが、地域循環型農業です。ユニーはこれからもパートナーシップを大切に、安心・安全で生産者の顔の見えるリサイクルループを回し続けます。



▶ リサイクルループを有効に運用するために

ユニーのリサイクルループは、地域の再生利用事業者・農業生産者とパートナーシップを組み、農業生産物を店舗で販売しています。社内では再生利用事業者を選び、食品残さで堆肥や飼料を作ることまでは環境担当者の役割、生産物の品質確保と販売は仕入れ担当者の役割です。

環境担当者の役割

食品残さをリサイクルするためにパートナーを探す

リサイクルループで生産した農作物を販売することを目的としてパートナーを探す

再生利用事業者の製造する堆肥・飼料の品質確認。

再生製品(堆肥や飼料)を利用する農業者を探す

地産地消を前提に生産技術の高い農業者と組む。

仕入れ担当者・販売担当者の役割

リサイクル農作物を販売

生産された農作物を販売するために、社内で検討する

農畜産物の生産履歴・品質が社内基準を満たす。

農業生産者と食品関連事業者がパートナーシップを固める

販売計画を基に生産計画を立て購入契約を結ぶ。

売場ではリサイクル作物の特徴を消費者へ十分にアピールする

売場に、「安全・安心な農作物」であることを明示。

リサイクルループを継続する取り組み

▶ グループ会社と回すリサイクルループ

ユニーグループ・ホールディングスの一員であるサークルKサンクスも同じ地域で店舗展開しており、ユニーのリサイクルループに組み入れています。食品残さを同じ再生利用事業者へ搬入し、2014年からは農業生産物を販売しています。食品残さの回収はコンビニ分だけを運搬するよりも、大型スーパーや食品スーパーと同じルートで運搬するほうがエネルギーの節減とCO₂の削減、そして作業の効率化が実現します。

また、生産品はコンビニのお弁当などに活用することで、付加価値商品として販売することができます。



食品リサイクルの歩み

2001年に食品リサイクル法が施行されて以来、ユニーでは各地でさまざまな方法でリサイクルに努めてきました。現在は「地域循環」を推進し、食品リサイクルループの構築による、環境負荷の少ないリサイクルを拡大しています。

2000年

- ◆ 福井市で地域循環の堆肥化事業に参加
- ◆ アビタ新守山店で熱乾燥処理機を導入

2001年

- ◆ アビタ福井大和田店が地域循環堆肥化事業に参加

2002年

- ◆ 茨城県で堆肥化リサイクルに取り組む
- ◆ アビタ岡崎北店、アビタ東海荒尾店に真空乾燥機導入

2003年

- ◆ 富山市内店舗が富山エコタウン(バイオガス発電)に参加

2004年

- ◆ アビタ伊那店、アビタ大和郡山店に真空乾燥機導入
- ◆ 愛知県内でJA愛知経済連の協力により堆肥化事業開始
- ◆ アビタ鈴鹿店が堆肥化リサイクルに参加

2005年

- ◆ アビタ松阪三雲店で堆肥で育った野菜の販売を開始
- ◆ アビタ瀬戸店、アビタ江南西店に真空乾燥機導入

2006年

- ◆ 横浜市内3店舗が、飼料化リサイクルに参加

2007年

- ◆ 愛知県で構築した「食品リサイクルループ」が、全国で初めて食品リサイクル法再生利用事業計画に認定される
- ◆ 第1回食品リサイクル推進環境大臣賞最優秀賞を受賞
- ◆ アビタ前橋店、アビタ大垣店に真空乾燥機を導入

2008年

- ◆ 愛知県尾張地域のリサイクルループが認定される
- ◆ アビタ御嵩店に真空乾燥機を導入

2009年

- ◆ 名古屋市と周辺部の店舗が飼料化リサイクルに参加
- ◆ 千葉県、埼玉県、山梨県、石川県でリサイクルループの取り組み開始

2010年

- ◆ 神奈川県のリサイクルループが認定される
- ◆ 千葉県でサークルKサンクス、ファミリーマートとともにリサイクルループを構築。「エコフィード」で育てた豚肉使用の惣菜パン」を販売

2011年

- ◆ 千葉県、愛知県・岐阜県、京都府の飼料化リサイクルと三重県の堆肥化リサイクルのリサイクルループが認定される

2012年

- ◆ 京都府のリサイクルループに奈良県・滋賀県の店舗を加える
- ◆ 福井県、新潟県、長野県のリサイクルループが認定される

2013年

- ◆ 静岡県・山梨県、埼玉県・群馬県、茨城県・栃木県、石川県のリサイクルループが認定され、1府18県下で15件のリサイクルループを構築する
- ◆ 第34回食品産業優良企業等表彰「環境部門」において、農林水産大臣賞を受賞

2014年

- ◆ 2014愛知環境賞において銀賞を受賞
- ◆ 愛知県三河地域のリサイクルループで生産された精米を使用したおにぎり、弁当をサークルKサンクスが限定販売

2015年

- ◆ 納品期限パイロットプロジェクトの功績で農林水産省より感謝状を受ける
- ◆ 神奈川県横浜有機リサイクルが廃業、再生利用事業者を武松商事に変更
- ◆ 岐阜県で飼料化のリサイクルループを構築

2016年

- ◆ 神奈川県、岐阜県のリサイクルループが認定される
- ◆ 福井県のリサイクルループを新たに構築



各地で広がる食品リサイクルループ

ユニーは店舗を営業している各地域で食品リサイクルループを構築し、地域循環を目指しています。

2007年1月に全国で初めて、環境大臣・農林水産大臣・経済産業大臣から「再生利用事業計画」の認定を受けて以来、各地で再生利用事業者・農業生産者とのパートナーシップを基に、食品リサイクルループの構築を進めています。ユニーの食品リサイクルループは、単に食品廃棄物をリサイクル処理することが目的ではなく、地域循環・地産地消などで生産者と消費者を結び、安全・安心な農作物を提供する小売業の役割を果たすことでもあります。

食品リサイクルループの初認定から10年、この間にはパートナーである再生利用事業者の都合や農業生産者との調整不和などで、パートナーの変更や事業の停滞など、継続が難しくなることもありました。こうした困難にもめげずに、現在1府18県で15件のリサイクルループを回し、145店舗が参加しています。



茨城県・栃木県
●むかしの堆肥、レインボー・フューチャー

新潟県
●不二産業、JA新潟みらい

長野県
●いいだ有機、JAみなみ信州

富山県
●富山グリーンフードリサイクル、JAなのはな

石川県
●トスマク・アイ、JA松任

福井県
●長谷川造園、JA花咲ふくい

京都府・滋賀県・奈良県
●京都有機質資源 鶏卵

三重県
●三功、酵素の里



千葉県
●ブライトビック、プリマハム、山崎製パン

神奈川県
●武松商事、アリタホックサイエンス

埼玉県・群馬県
●アイル・クリーンテック、角屋商店

静岡県・山梨県
●静岡油化工業、地元の農業生産者

愛知県
●ヒラテ産業・JAあいち経済連
●ディーアイディー・JAあいち経済連
●中部有機リサイクル PBブランド豚

岐阜県
●橋本、鶏卵



食品リサイクル普及に向けての取り組み

食品リサイクルループのパートナー

JAあいち海部ではエコ部会を平成18年に設立し、現在では17名の生産者が、ユニー店舗から排出された食品残さを原料にした堆肥を使用して野菜を生産しています。野菜はユニーの14店舗の特設コーナーで、生産者の顔写真付きのPOPを掲げて販売しています。これはとても生産者のやりがいに繋がっています。今後は生産者数を増やし、販売店も拡大したいと考えています。



JAあいち海部 村山 靖さん

消費者の農業体験と生産者との交流

食品リサイクルループの生産者と協働で、農業体験・交流事業を開催しました。消費者は田畑の土に触れ、農作業を体験することで、食べ物の大切さ、安全・安心な農作物生産にかかる生産者の努力を知ることができました。



消費者の農業体験と生産者との交流

JAあいち海部 エコ部会

2005年、最初にエコ堆肥を使ってリサイクルループのパートナーになったJAあいち海部エコ部会では、毎年総会を開き、前年度の総括と次年度の計画を承認しています。



JAあいち海部 エコ部会総会

生物多様性

自然共生社会を構築するために

私たちの生活は、さまざまな自然や生き物のもたらす恵みによって成り立っています。ユニーではこうした生物多様性からの恵みを、商品を通してお客様にお届けしています。また、次世代を担う子ども達に、自然の中や生き物との触れ合い、農業体験などを通して「いろいろな生き物と一緒に生きていること」を学ぶ環境学習を行っています。

命と暮らしを支える生物多様性

地球が誕生して以来、長い時間をかけて私たち人間を含めたさまざまな生き物が生まれ、つながり合って生きてきました。その生物多様性がもたらす恵み「生態系サービス」によって、私たちの命や暮らしは支えられています。生物多様性条約では、この生き物のつながりを3つのレベルに分類しています。

▶ 生物多様性の危機

地球上に3,000万種の生き物がお互いにつながり合っている生物多様性ですが、人間の活動が原因で毎年4万種が絶滅していると推定されています。その要因は、①開発・乱獲により自然を破壊している、②里地里山などに人間が手を入れなくなった、③外来種の持ち込み、化学物質の排出などで生態系を攪乱した、④地球温暖化の影響、が挙げられています。

生態系の多様性

海や川、森、里、さまざまな自然があること

種の多様性

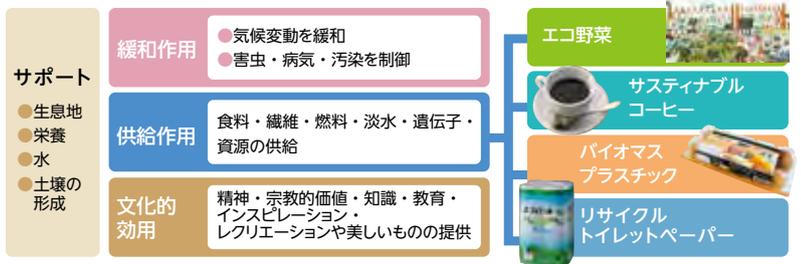
いろいろな生き物がいること

遺伝子の多様性

同じ種でも個体差があること

生物多様性を守る取り組み(供給作用)

私達が生きるために必要な酸素は植物によって作られ、汚れた水は微生物などによって浄化されています。このように私達人間はいろいろな生き物からさまざまな「恵み」をもらって生きています。こうした恵みを与えてくれる生物多様性を守って作られた食べ物や製品を選んで購入することが生物多様性を守ることに繋がります。ユニーはこうした「供給作用」をお客様のお買い物を通して行っています。



テーブル上の生物多様性

ユニーの売り場に並んでいる食品は「生物多様性の恵み」です。生物多様性を身近なことに感じ、「私達は生き物の命をいただいて生きている」こと、自然環境やそこで生きる生き物を大切に守ったうえで生産された食べ物を選ぶことで、生物多様性に貢献することを伝えることが私達の務めです。

アトランティックサーモン

ノルウェーのきれいな海を守るために、養殖場から加工工場まで汚水を外に出さないシステムを構築、加工工場の汚水は魚油としてリサイクルしています。



サーモン

みそ汁



愛知県の伝統発酵食品 (ハ丁味噌)

ハ丁味噌は、愛知県の伝統的な発酵食品で、大豆と塩を原料に木製の樽に仕込む、昔ながらの製法で生産されています。



食品リサイクル～命をつなぐ環～

店舗から排出される食品残さ(野菜クズや魚アラなど)を原料にした堆肥を使うと、土壌を健康に豊かにする微生物やミミズが生きている畑や田んぼになります。こうした畑や田んぼで野菜や米が育てられています。

津市の生ごみ堆肥化処理場(三功)



2011年に食品リサイクル法再生利用事業計画に認定されました
三功グループと進める
“食品リサイクル”

生産



堆肥を使うことで土の中の微生物の働きを活発にし、畑を豊かにします

店舗



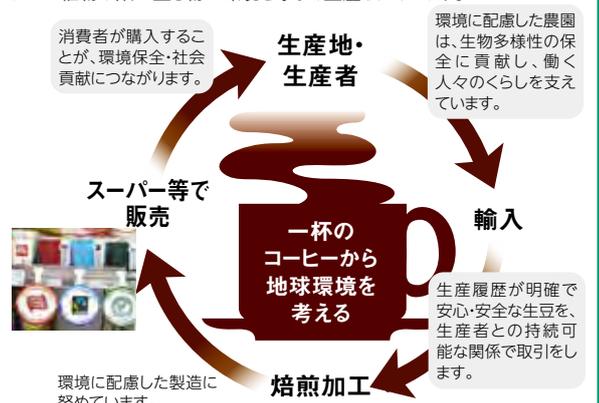
店舗から出る食品残さを分別

商品



サステイナブルコーヒー

熱帯雨林の下でシェイドグロウン農法有機栽培で生産したコーヒーは、ジャングルの植物や畑の生き物の環境を守って生産されています。



生物多様性に配慮した商品の販売

自然を守ることが生き物を守ることになり、そうして作られた食物や製品をユニーが販売して、お客様が選んで購入してくださる、こうした生物多様性への応援がお買い物でできることを、消費者の方にもっと知っていただけるよう努力しています。



FSC認証のeco!on学習帳

FSC森林組合が定めた「正しく管理された森林」の基準を満たした木材や製品に認定されるとFSC認証マークが付きます。このマークの付いた原料紙で小学生の使う学習帳を作りました。FSC認証マークの付いた商品を購入することで、森林保全に貢献できることを、環境学習で子ども達に伝えています。



FSCマーク付



ホビー&ステーショナリー部
チーフバイヤー 佐藤 雄一



バイオマス素材の詰め替えボトル

ユニーではバイオマス原料を使用した「詰め替えボトル」を販売しています。バイオマス原料を使用することで化石原料の使用を抑制し、CO2削減に貢献します。また詰め替えボトルの使用を推奨し、詰め替え用品の購買を促進していくことで家庭から出るゴミの削減にも貢献しています。



ヘルス&ビューティ部
部長 千葉 哲志



サステナブルコーヒーに寄せて

コーヒーの木は、熱帯・亜熱帯の豊かな森で育てられています。例えば、パナマのコーヒー農園には、絶滅危惧種に指定されている動植物の30%が存在しています。この生き物たちと共存できるコーヒーの栽培をしている農園や働く人々の生活の安定や向上につながる取り組みをしている農園のコーヒーを応援しています。コーヒーを通じ、地球の未来と誰かの笑顔につながることを願っています。



珈琲工房ひぐち
樋口 美枝子さん

いろんな生き物と一緒に生きる

次世代を担う子ども達に、身近な生き物と触れ合うことで命を育む食べ物のことや、いろんな生き物と一緒に生きていることを体感する環境学習を行っています。

▶ 農業体験

食品リサイクルグループによる循環型農業を行っている畑や田んぼで、農業体験を実施しました。食品残さの堆肥は発酵するときにガスや熱を出すことを臭いや熱さで体感したり、カエルの住む田んぼで田植えをしました。



田んぼの感触は初めての体験

▶ 川の水生生物を観察

大垣市の郊外にある牧田川で、川に住む生き物を観察しました。石の下に住む水生昆虫や魚を捕らえ、名前を調べ形や動きを観察してから川に戻しました。



山の近くの清流で魚や昆虫を見つけました

▶ 森の探検

名古屋市郊外の定光寺や犬山市の森の中で、いろんな植物や生き物を見つけました。専門のインタープリターに森や生き物の話を聞きました。また、森の中で生き物が繰り広げる循環や私達が森から恵みを受けていることを学びました。



名古屋市近郊の森で生き物探し

お店で生き物と触れ合いました

子ども達がお買い物に訪れるアピタの店でエコ博を開催し、生き物の命に触れ、「みんな大切な命」について学びました。

▶ 名古屋港水族館

移動水族館でアカウミガメと触れ合いました。また名古屋港水族館を訪れる子ども達の観察ノートを作成し、海の生き物について学ぶための支援をしています。



水族館生まれのアカウミガメの赤ちゃん

▶ 日本モンキーセンター キッズゾーン

公益財団法人日本モンキーセンターと協働で、子ども達が生き物と触れ合うキッズゾーンを開催しました。また講師のキュレーターによる生き物クイズで楽しく学びました。



不思議な形の生き物も地球の仲間

▶ 愛知県三河湾再生プロジェクト

愛知県との協働で、子ども達に三河湾に親しんでもらうために水生生物との触れ合い、名産のアサリのつかみ取りなどを実施しました。



三河湾の生き物と触れ合う

森を守る活動

▶ 森の町内会

森を守るために間伐し、その費用を環境評価として価格に反映させた紙を選んで使うことで、森林保全に貢献する活動です。ユニーは2015年の環境レポートに4,500kgの森の町内会「間伐に寄与する紙」を使用したことで、長野県の森0.39haの間伐に貢献しました。



森の町内会

▶ 森の命を守る活動(キリン水源の森保全活動)

キリン水源の森を保全する活動に、お客様と一緒に参加しました。森を整備するために間伐作業を森林保全協会の指導で行いました。



キリン・ライオン共同企画



キリン水源の森保全活動

▶ 森を守るドネーション企画

商品を買っていただくことで森を守る活動エコとお買い物券(家庭で不要になった衣料を回収し、配布したクーポン券)の使用枚数1枚に3円を寄付。森林再生のために「公益財団法人Save Earth Foundation」に74万円寄付しました。



エコ特お買い物券でSEFの森林活動に寄付

子ども環境学習

環境について学ぶための取り組み

ユニーはESD(持続可能な開発のための教育)の考え方を取り入れた環境学習に取り組んでいます。現在のことだけではなく未来のことも考え、未来の子ども達そして地球の生き物達のために、美しい自然を残していくこと、それが持続可能な環境学習の目的です。これからの持続可能な社会の主演は今の子ども達になります。地球温暖化を防止して循環型社会をつくるために子ども達に毎日の暮らしの中でどう行動していくべきかを環境学習を通じて伝えます。

ESDとは

地球の温暖化、資源の浪費と枯渇、生態系サービスの劣化など、私達人間が生きていくための基盤である地球環境が持続不可能な状況になりつつあります。また、世界中の人が私達日本人と同じ生活をする、地球2.3個分の食料や資源が必要だといわれています。このような状況であることを意識せずに食料や資源を使い続けると、未来の子ども達は生きていくことが困難になるかもしれません。誰もが幸せに生きていくことができる社会、つまり持続可能な社会を構築するためには、今と未来に想いを馳せ、地球の限りある資源を大切に使う暮らしや社会、そして一人ひとりが行動を変えていかないとはいけません。

私たちは応援します



原案 ESD-J

ユニーのESD

ESDは一人ひとりが世界の人々や世代、環境との関係性の中で生きていることを認識し、行動を変革するための教育です。ユニーでは環境活動・社会貢献活動において、お客様、地域の方々、お取引先様、従業員などが一緒になって持続可能な社会をつくることを目指しています。そして、お店に多くの方が集う地域のコミュニケーションスペースとしての機能づくりにも取り組んでいます。この普段の取り組みが知らず知らずのうちにESDとなっているのです。



ものづくり

- ライフスタイルをエコにする環境配慮PB商品「ecolon」の開発。(P17)
- リデザインプロジェクトの実施。次世代と障がい者による商品の開発・生産・販売事業。(P46)

コミュニティづくり

- 持続可能な社会づくりのための参加型イベントエコ博。(P47)
- 認知症の方へのお買い物サポート。(P45)

ひとづくり

- EPOC講座の出前講座の実施。「環境にやさしいお買い物」をテーマにユネスコスクールの小学校をはじめ市役所や地域の児童館などで出前講座を開催。身近なお買い物での賢い選択が持続可能な社会につながることを伝えていきます。(P33)
- ながや環境大学の市民講座でインタープリターを養成。小学生から大人まで多様な世代がお買い物を通じて環境について知り、共に「伝える」ことを学びます。人と人、人と自然が共生する持続可能な社会について「伝える」人材を育成しています。(P35)
- 自然環境の素晴らしさや資源の大切さに気付く多様な体験学習を実施。エコロお店探検隊(P34)、夏休み自然探検隊(P35)、モンキーサマースクール(P36)、リサイクル工場見学(P36)、循環型農業体験(P34)、企業連携講座(P36)など。

EPOC出前講座

EPOCは中部地区を活動拠点とする環境パートナーシップクラブで、業種や規模の垣根を越えた企業が集まり地域社会で活動しています。ユニーが所属する「次世代交流分科会」では子ども達がわかりやすく学び、体験する講座を担当しています。ユニーは「環境にやさしいお買い物」をテーマにユネスコスクールをはじめとする小学校や地域の児童館で出前講座を開催。文房具などに付いている環境ラベルを探すゲームや、再生資源を使ったリサイクル工作を通じ、身近なスーパーマーケットでのお買い物に環境にやさしいお買い物になることを伝えました。



子ども達と取り組むこれからのESD

「私たちは本気です。大人の皆さんも、本気になってESDに取り組んでください。ESDは、この世界の未来にとって一番大切なものではないでしょうか。」

2014年11月「ESDユネスコ世界会議」が開催されました。その閉会会合での子ども達のスピーチの一部です。子ども達、というのは「ESDあい・ながやこども会議」のメンバーであり、愛知県内の小学5年生から中学3年生までの121名です。彼らが約4カ月の間、学び、体験し、話し合いを重ねました。子ども達の変化は素晴らしいものでした。現実を見て、話を聞き、話し合いを重ね、自分にできること、大人に提案することを整理していく。初めて会った子ども達が、同じ問題意識を持ち、一緒に悩み、解決のための方法を考える。このスピーチは子ども達の「こぼし」です。

大人は本気になっているのでしょうか。子ども達の思いや願いに応える活動をしているのでしょうか。大人がすべきことは、子ども達が出会い、学ぶ場をつくること、学び方や学ぶ方向性を示すこと、子ども達の可能性を十分に引き出すこと、ではないでしょうか。

貴社は私達の暮らしに必要なものの、生産、流通、消費を担っています。この流れを持続可能にすること、地球の自然や資源が有限であるからこそ、うまく循環させて上手に使い未来に残していく方法を、子ども達と楽しく学び合いたい、伝え合いたい。もっともっと子ども達が魅力を感じる活動を生み出すことができる。貴社のもつポテンシャルを存分に活かし、子ども達とともに、地域とともに「本気」になって活動を生み出していく。そこには計り知れない面白味や醍醐味があるはずですよ。



環境省中部環境パートナーシップオフィス チーフプロデューサー 新海 洋子さん



ユニーは、持続可能な社会をつかっていくために環境学習を実施しています。

ユニーは、持続可能な社会を担う子ども達がお店探検や農業体験・自然探検などを通じて、環境、社会貢献、食糧問題、命の大切さなどを学び、美しい自然の中で生きていくための「力」を育むことを願い活動しています。

リサイクル工場見学

- 廃棄物がリサイクルされる現場を見学

地元NPOや地元企業とのコラボレーション

- 地域のいろいろな方から学ぶ

循環型農業体験

- 食品廃棄物が再生資源になる過程の見学
- 循環型農業で収穫体験
- いろいろな生き物と一緒に生きていることを学ぶ
- 畑の恵みをいただく

低炭素社会
CO₂など温室効果ガス発生抑制を目指す社会

循環型社会
限りある資源を大切に、3Rを実践する社会

自然共生社会
生物多様性を実現する社会

持続可能な社会

エコロお店探検隊

- 地球に優しいお買い物
- 廃棄物をリサイクルする仕組みの見学
- ゴミを減らす取り組みの見学
- 廃棄物を使ったエコ工作

夏休み自然探検隊

- 白川郷の自然の中で体験学習

モンキーサマースクール

- サルの生態について体験学習

インタープリター養成

- お店探検隊やエコ博で案内役（インタープリター）を行ってくれる人材を育成

エコロお店探検隊

私達の生活になくてはならないスーパーマーケット。そこではどんな環境への工夫があるのでしょうか？

2001年にたった1店舗からスタートした「エコロお店探検隊」は、2015年には106回実施し850名が参加しました。持続可能な社会を構築するための体験を通じて、これからの未来を担う子ども達が地球環境を守り続けてくれることを願っています。

リサイクルの秘密を知ろう

● リサイクルボックス

お客様が使い終わった容器をリサイクルボックスに持ってきてくれると新しいものに生まれ変わるよ。



● バイオマスプラスチック

植物生まれのバイオマスプラスチックを野菜や果物、卵の容器として使用しているよ。



環境にやさしいお買い物をしよう

● eco:lon商品

ユニーオリジナル開発商品eco:lonの環境にやさしい秘密を知ろう。



● 環境ラベル

普段何気なく使っている文房具にも実は環境にやさしい商品があることを知ったよ。



お店の裏側を探検しよう

● ゴミの計量体験！

いつもは入れないお店の裏側では、ゴミを分別して計量しているんだ！



● オリコン組み立て体験

折たたためて何度でも使える「オリコン」をダンボール代わりに使っているよ。



エコ工作にチャレンジしよう

● リサイクル工作

捨てればゴミになる物を材料にしてリサイクル工作で生まれ変わるよ。



任務完了！



● ピアゴエコクイズラリー

食料品をメインに日常のお買い物に便利な「ピアゴ」のお店では、子ども達自身がお店を回りラリー形式でクイズに答えていくことでユニーの環境への取り組みや環境にやさしい商品を知ることができる「ピアゴエコクイズラリー」を実施しました。2015年には121店舗2,558名が参加しました。



● 自由研究応援隊

「私たちの生活と水」をテーマに夏休みの自由研究のヒントになる展示や実験、環境配慮商品eco:lonを紹介しました。



農業体験

店舗から出るキャベツの葉や魚のアラなどの未利用食品をたい肥にしてできた野菜（エコ野菜）の収穫を通じて循環型農業を知り、いろいろな生き物と一緒に生きていること（生物多様性）を体感するとともに、自然の大切さを学びました。



福刈り（JAあいち中央）



エコ野菜の収穫（JAあいち海部）



エコ野菜のジャンポビーマン収穫（JAあいち海部）



地域で子ども達に伝える

地域に密着したスーパーマーケットのユニーは、地域の方々と一緒に活動を行っています。学生から大人までたくさんの方の「地域の力」で行われている環境や防災について学びました。

インタープリター養成講座

ユニーでは2007年から市民講座を提供するなごや環境大学で「お店探検隊インタープリター」を養成しています。地球にやさしいお買い物を中心に講座の中で買い物を通して環境について知ってもらい、子どもから大人が自分が伝えたいことや思いを家族や友人に伝えることを目的としています。この講座を卒業し「お店探検隊インタープリター」となった受講者は、ユニーの環境学習やイベントでインタープリターとして活躍しています。



森の中で講座



イベントで作業やアンケートを実施しました

環境紙芝居

環境活動を身近に感じていただくため、2004年より名古屋学芸大学の学生と一緒に環境紙芝居を制作しています。肉声でお話を読むことで大人も子どもも家族で楽しみ、共感いただけるよう取り組んでいます。



「トちゃんとの約束」作者 向城さんの感想
この紙芝居を通じて自分にできる小さな行動も環境を変える大きな一歩であることが伝わると嬉しいです。

「水ってすごい」作者 市川さんの感想
子どもには難しい内容かもしれませんが、理解できなくとも心に留めてくれることが環境保護の一歩になると感じました。

あそぼうさい

地域のコミュニティーセンターを目指すヒルズウォーク徳重では、災害時に自分の命を守るための準備を、ゲームや遊びの中で体験し身につける防災イベントを開催しました。



地震の揺れには机の下に隠れて身を守ることを学びました

地球と仲良くなる

私達の生活の源である山地を舞台に自然体験学習を行いました。都市化が進み自然の中に身を置くことが少なくなっている子ども達に、自然の恵み、自然の力、そして仲間とのつながりなどを体験しながら学んでもらうことで、これからの地球環境について考えるきっかけになりました。

夏休み自然探検隊

子ども達に地球環境や人を思いやる気持ち、地球の自然を守って生きていくことの大切さを伝えていく活動をしています。「持続可能な社会」を担う子どもたちに、自然環境の大切さを感じてもらい、地球環境の中で強く生きていくための力を身につけてもらいたいと考え、2005年からアピタ・ピアゴ夏休み自然探検隊を開催しています。2015年は小学4年生～6年生24名が「つながろう 自然と仲間と」をテーマに世界遺産白川郷で自然体験をしました。

先人とのつながり

白川郷の合掌集落で先人の知恵を学ぶ

白川郷合掌集落ガイドウォーク



展望台からの白川郷の景色…ずっと続くといいな



クギを1本も使わずに建てられた合掌造りの家



自然とのつながり

資源やエネルギー、生き物たちからの恵みを学ぶ

水力発電に挑戦。川の水流を利用して電球を点灯させよう(再生可能エネルギー)



水を水素と酸素に分解してクリーンな燃料エネルギーを作りCO2を出さない燃料電池でミニカーを動かす(未来のエネルギー)



早朝の森の中、インタープリターから森の生き物や植物について学んだよ



今年のテーマ「つながろう 自然と仲間と」を体感できました!



仲間とのつながり

全国から来た仲間とチカラを合わせる

自分たちで火をおこし、火の扱い方を学ぶ



テーブルマナーの学習。フレンチハーフコースをいただきます!



森の葉っぱや花でテーブルをコーディネート、お世話になった方をおもてなし



竹に切り込みを入れてパンプドラムづくり!



リサイクルって素敵な合言葉

ユニーでは関連する事業者とともに食品リサイクルや容器包装リサイクルなどのさまざまなリサイクル活動を行っています。循環型農業を行っている農場やリサイクル工場などに出向いて、体験学習を行いました。

丸富製紙工場見学

丸富製紙では、アピタ・ピアゴの店頭で回収した牛乳パックを原料にしたリサイクルトイレットペーパーの工場見学を行いました。牛乳パックをリサイクルすることで森の木を切らずにすみ、森林を守ることに繋がります。



リサイクルトイレットペーパーの原反ロールの大きさに驚きました

中央化学リサイクル工場見学

中央化学では食品トレイがどのようにリサイクルされているかを見学しました。トレイを高熱で溶かし、パレット等の原料にすることで、石油資源の削減につながります。



プラスチックの化学実験を行いました



店舗から集められた食品トレイのリサイクルの仕組みを学びました

三功リサイクル農場見学

三功、酵素の里で食品廃棄物リサイクル工場の見学と、リサイクル堆肥でできたさつまいもの収穫体験を行いました。質の良い野菜は良い土がなければ育ちません。土に触れて収穫体験を行うことで土の良さを実感しました。



リサイクル堆肥で育った野菜の収穫（三重県）

不二産業リサイクル農場体験

不二産業では食べられなかった食物が堆肥になることを見学し、その堆肥を使って生産された芋や大根を収穫し、地域循環型農業を学びました。良い土から美味しい野菜が作られることを、自分たちで見て、触って収穫の喜びを感じました。



循環型農業でできた野菜を収穫（新潟県）

D.I.Dリサイクル堆肥工場見学

店舗の食品売り場から排出される食品残さを原料にリサイクル堆肥を製造する工場を見学し、微生物の働きで食品が発酵する強烈な臭いと熱さを体感しました。完成した堆肥は無臭で土のようでした。



リサイクル堆肥は発酵中で温かい（愛知県）

モンキーサマースクール

2011年より公益財団法人日本モンキーセンターでサマースクールを開催しています。2015年度は「ぼくの私の好きな生き物」をテーマに応募した24名の小学生が愛知県犬山市の日本モンキーセンターで生き物を思いやる心、自然や未来について考え、人間に一番近い生き物であるサルを通じて命の大切さを学びました。



いろいろなサルの生態を見学して、霊長類の多様性を学んだよ



飼育係のお仕事体験。サルの種類によって食べるものが違うことを知ったよ



サルたちが仲間と一緒に食事している様子を観察したよ



磨製石器作りに挑戦。道具を作る大変さを体験したよ



サルは手を上手にを使って食べていたよ



サルを通じて人間に一番近い生き物のことを学んだ2日間でした！

「富士山の不思議」を学びました

静岡県にある常葉大学の先生や学生と親子環境学習を開催しました。地元の世界遺産である富士山の自然から「水の大切さ」を学びました。



常葉大学の山田辰美教授による水のワークショップ

日本ハム親子環境体験イベント

愛知県犬山市の自然の中で、日本ハムと共同で「自然と食を学ぶ」体験イベントを開催しました。川遊びや日本ハム製品のバーベキューを楽しみながら、環境について学びました。



沢登りで山の水の勢いと冷たさを感じました

エンリッチメント※を考えよう

※飼育されている動物たちの福祉と健康のために、飼育環境に変化を与えること



チンパンジーの家族がそれぞれゆっくり食事ができるように、段ボールやタイヤを使って興味をもたせました



アヌビスヒヒのために、七夕飾りのような笹に果物をつけたり竹筒におやつを詰めました

環境教育

エコ・ファーストの約束²

エコ・ファースト企業であるユニーの環境方針には小売業としての企業活動を通して「持続可能な社会」を、お客様や自治体、お取引先様と一緒に作り上げていくことが明記してあります。

それらを実現していくために必要な知識や技術を得得させるための講習や実習を現場教育・集合教育で行っています。また、ユニーと一緒に活動していただく消費者・行政・取引先や同業者、その他の店舗見学や講習も行っています。

従業員教育

●新入社員教育

新入社員オリエンテーションのカリキュラムに、環境方針の理解や店舗・事業所での環境保全活動、地域社会貢献活動を入れた教育を行っています。



新入社員オリエンテーション

●テナント・その他の従業員教育

店舗に出店しているテナントやそこで働く人達に、環境保全活動を理解し協力してもらうための教育を実施しています。特に廃棄物の分別計量システムや排水に関する教育は、店舗ごとにマニュアルやDVDを使って行っています。



店舗テナント教育

●管理職教育

管理職に登用された社員には、それぞれの職制に必要な環境保全・社会貢献に関する教育を実施しています。特に店舗に関する法令の内容や遵守について講習を行っています。



新任店長・部長室教育で環境教育を実施

●関係会社従業員教育

グループ企業や店舗で働いている社外の人達にも、環境保全や認知症支援の教育を行っています。



グループ企業従業員教育

●ISO14001集合教育

環境マネジメントの適正な運用と、それぞれの業務から環境側面を抽出し、環境実施計画を策定、目的目標を達成するための教育を行っています。



ISO14001本社従業員集合教育

●各地区環境担当者教育

関東・山静・北陸と中京地区の環境担当者には、環境教育や省エネ、廃棄物管理などの教育や情報交換を実施しています。



省エネに関する教育受け入れ

ユニーと一緒に環境学習

●環境関連事業者連絡会

ユニーと取引のある一般廃棄物や産業廃棄物、リサイクルなどに関する事業者を集めて、年2回情報交換と法令などの勉強会を開催しています。ユニーの目指す環境保全活動を同じ価値観で実施してもらうために行っています。



環境省より「廃棄物の適正処理」についての講演



2015年度は延べ329人が参加

●店舗見学の受け入れ

店舗の環境施設見学や環境活動の見学に、消費者団体、行政、同業他社などを受け入れています。特に廃棄物の分別計量や食品リサイクルループに関心が持たれています。



日本ショッピングセンター協会店舗視察



弥富リサイクルセンター

●海外からの見学者

JICA (独立行政法人国際協力機構) の課題研修「生物多様性を活かした地域開発」として、アジアやアフリカ、南米からの見学を受け入れています。未利用食品を再生利活用した、循環型農業の取り組みは、生産地の土壌や生態系に影響を与えない、生物多様性を大切にされた農業です。



食品リサイクルに必要な廃棄物分別を見学



リサイクルループで生産した野菜売場

環境コミュニケーションツール

社内コミュニケーション

●従業員教育マニュアル

社内規程をまとめたポケットガイドに環境のページを設け、廃棄物分別などのマニュアルを記載しています。



●新入社員教育

新入社員に対して基礎教育に使用するテキストに、環境の基本的な事項や遵守すべき法令などを記載しています。



●社内報での情報の共有化

社内報に「環境」「社会貢献」のスペースを設け、会社や各店舗での取り組み、成果などの情報を全従業員が共有し、従業員の環境意識を高めています。



社外コミュニケーション

●ホームページ

環境社会貢献のページには、活動の最新情報や環境配慮商品の紹介、環境イベントなどを掲載しています。



●環境壁新聞

店舗の環境掲示板には、ユニーの環境活動や生活に役立つ情報などを掲載した「やさしくらしPress」を掲示しています。ホームページからも見ることができます。



●環境教育用DVD

環境活動を紹介するDVD「食品リサイクル」「容器包装のリサイクル」「生物多様性」を作成、環境学習やイベントで上映し、消費者や関係者に理解と協力を促しています。



ピック・アップ・エコストア

社会・地域に
イイこと、プラス。

エコ・ファーストの約束 **3**

ユニーでは地球温暖化防止のため「エコストア」を建設しています。省エネルギー設備を導入し、さらに従業員をはじめお客様やお取引先様など関係する方々と共に環境活動を推進しています。



レイクウォーク岡谷

地域の文化と歴史を取り入れた、皆が集うコミュニケーションスペースを目指して

2016年7月にオープンしたレイクウォーク岡谷は、1985年から29年間営業を続けてきた「アピタ岡谷」から生まれ変わった店舗です。省エネルギー設備を導入して循環型社会の推進に取り組むとともに、大規模災害時は避難拠点としてご利用いただけるよう防災設備も導入しました。地域の文化と歴史を取り入れ、地域の方々が集うコミュニケーションスペースを目指します。

地域に親しまれる店づくり

レイクウォーク岡谷は地域の皆様に末永く愛顧いただきたいという想いを込めて、地元の諏訪大社の御柱をモールのシンボルとして展示したほか、シルクが有名な岡谷の町にちなんでレストスペースにアートオブジェ「ダイヤモンドコクーン」をディスプレイしました。



レイクウォーク岡谷
支配人 山口 明

また、大規模災害時に避難拠点としてご利用いただけるよう、店舗の緑地帯に非常時の炊き出し用「かまどベンチ」を配置し、店舗外周には「災害用トイレ」を導入しています。（※p40に記載）

地域の文化と歴史を取り入れ、災害時にも頼りにされる、そんな店づくりに従業員一同精一杯取り組んでまいります。

① 太陽光発電

屋根の上や外壁に太陽光パネルを導入。太陽光で電気をつくり、得られたエネルギーを館内でも使用しています。現在の発電量をモニターで確認することができます。



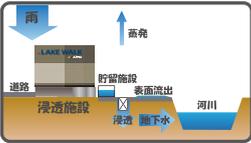
② 空調

電気とガスを使用したハイブリット空調を採用し、最適運転を実現。また、インバーター制御により消費電力を削減した効率的な運転を行い、省エネを図っています。



③ 雨水浸透施設

敷地外に放出される雨水量を25%削減しています。地下水の保全、平常時の河川流量の確保、洪水の防止を図っています。



④ 壁面緑化

外壁に壁面緑化を導入。ヒートアイランド対策と断熱効果があり建物の温度上昇を抑え、空調使用量の削減にもつながります。



⑤ ECO材

床材などにリサイクル資源を使用、環境負荷の軽減に配慮しています。また、屋外ベンチには廃プラスチックや廃木粉を利用した製品を導入、再利用活動に努めています。



⑦ 資材再利用

建物の解体工事等から発生するコンクリートがらや合板、アスファルトなどを利用し、資源の再利用に努めます。



⑥ 自然採光

フードコートにあるカーテンウォールには結露防止・断熱効果のある複層ガラスを使用し、空調負荷を下げています。また、外光を積極的に取り入れ、照明負荷を軽減しています。



ダイヤモンドコクーン

養蚕・絹産業により近代日本の発展に貢献した岡谷市を象徴する「繭(コクーン)」をモチーフに、「リパースプロジェクト」によって製作されたアートオブジェ「ダイヤモンドコクーン」を設置しています。



諏訪大社の「御柱」

地域のシンボルとして地域の皆様にご愛顧いただけるよう、天下の奇祭として全国的に有名な信州諏訪「御柱祭」にて使用された「御柱」を、モールの1Fにシンボルモニュメントとして展示しています。



店舗での取り組み

ユニーの店舗では赤ちゃんから年配の方まで、全てのお客様が快適にお買い物を楽しんでいただけるように、店内のいろいろな所を工夫しています。また、「環境にやさしいお買い物」をお客様と一緒に進め、持続可能な社会を目指して、環境にやさしいプライベートブランド商品の販売、包装資材の削減や廃棄物の削減、分別、リサイクルなどを実施しています。

環境に配慮した設備や工夫

“環境に配慮した店づくり”を目指しているユニーの店内では、ゴミの減量、リサイクルや省エネを推進するため、さまざまな設備を用意するとともに、販売方法にも工夫をしています。特にお客様とともに進めるゴミの減量に関しては、お客様が利用しやすいように、リサイクルステーションのほか、各所に分別ゴミ箱を設置しています。

1 リサイクルステーション

牛乳パックをはじめ、アルミ缶・トレイ・ペットボトル・バイオマスプラスチック製卵パックなどお客様のお買い上げ後にゴミになるものを回収し、リサイクルしています。



2 分別ゴミ箱

店内各所に「燃やせるゴミ」や「燃やせないゴミ」など分別するためのゴミ箱を置き、ゴミを分別回収しています。



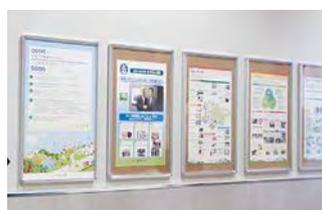
3 環境配慮商品

原料・製造工程・使用時・容器包装廃棄時などの環境負荷を低減した環境配慮商品を開発・販売しています。



4 情報の開示

ユニーの取り組みをポスターなどで紹介・報告しています。



5 廃棄物計量システム

各売場やテナントから排出される廃棄物を分別し、計量することにより、減量やリサイクルの促進を図ります。



お子様連れの方への配慮

6 小さなお子様の遊び場

小さなお子様に安全に遊んでいただけるように、床や遊具にノブな素材を使用した遊びのスペースを設けています。



7 ベビー休憩室 (赤ちゃんルーム)

お子様の授乳やおむつ替えにご利用いただけるベビー休憩室 (赤ちゃんルーム) を設けました。



8 子ども用トイレ設備の設置

男性用トイレにもベビーシートを設置したり、子ども専用トイレを設置しました。



よりよく利用していただくためのサービス・工夫

9 アピタの美味しい水

飲料やお料理に使用していただける水を提供する浄水機を設置しました。



10 危険防止の工夫

危険防止のために、店内の階段には手すりを付け、足元に誘導ブロックを設置しました。



11 電気自動車充電スタンドの設置

地球温暖化防止の取り組みとして、電気自動車用充電スタンドを設置しました。お買い物をしながら充電ができます。



バリアフリー新法

ユニーはすべてのお客様に快適にご利用いただける店づくりに取り組んでおります。バリアフリー新法とは、「高齢者、障がい者等の移動等の円滑化の促進に関する法律」で、平成18年12月20日に施行されました。



大規模災害への備え

大規模地震や災害が発生した時に地域の避難拠点として利用いただける設備を設置しています。(レイクウォーク岡谷)

●かまどベンチ



非常時の炊き出しに利用できるベンチです。

●災害用トイレ



スツールの中に便器が収納されているので組み立てて使用します。

ユニバーサルデザイン

12 多目的トイレの設置

車椅子でご利用いただけるトイレです。また、妊婦の方やお年を召した方もご利用いただけます。



15 車椅子の無料貸し出し

店内でご利用いただける車椅子をご用意しています。



13 段差のない入り口

駐車場と店内の段差にはスロープをつけ、公道入り口から各玄関まで誘導ブロックを設置しました。



16 優先エレベーター

混雑時などに車椅子の方が優先的にご利用いただけます。音声案内・点字表示をし、低い位置に操作ボタンを付けました。



14 おもいやり駐車場

入り口の近くに、おもいやり駐車場を設置しました。体の不自由な方、高齢者の方、妊産婦の方など優先の駐車場です。



17 介添えサービスの実施

1階各出入り口にインターホンを設置し、呼び出しによって介添えサービスのご要望にお応えします。



18 AED (自動体外式除細動器)

不測の事態に備えてAEDを設置しました。



お客様の声のポスト

▶ お客様の声がユニーを変えます

ユニーでは各店舗に「お客様の声のポスト」を設置しています。ポストには店舗施設や商品・サービスに対するさまざまなご意見・ご要望、お問い合わせ、またご指摘やお叱りの声が寄せられています。これらの「お客様の声」には店長が必ず回答し、店舗や商品、サービスなどに反映させております。ポストに寄せていただいた「お客様の声」は地域のお客様のより良い生活を築いていくためのメッセージであり、ユニーの羅針盤でもあります。

これからも、お客様からのメッセージを真摯に受け止め、お客様に支持され期待される店づくりに努めてまいります。

環境、社会貢献に対してのご提案、ご要望など貴重なご意見もいただいております。今後の取り組みの参考とさせていただきます。また、最近はお客様より心温まるお褒めの言葉をいただく機会が増えており、従業員一同の更なる励みとしてありがとうございます。



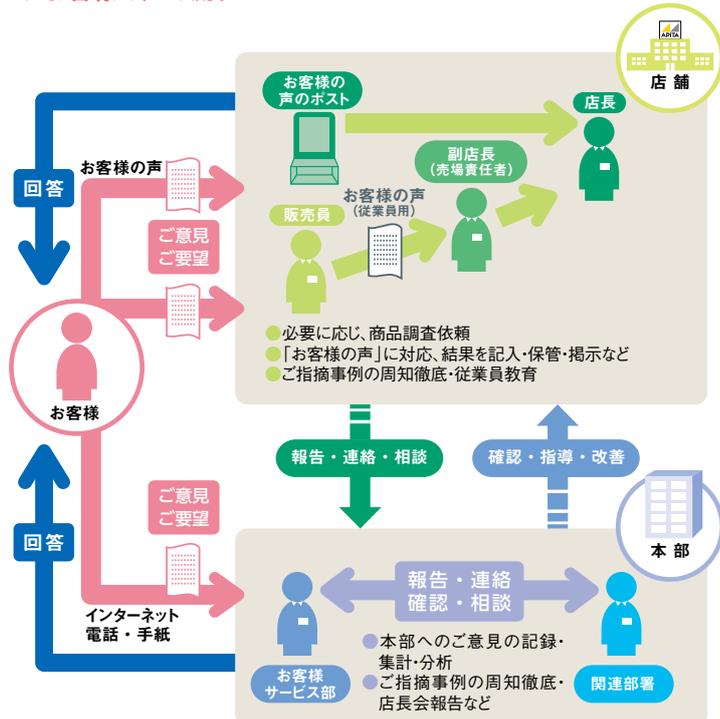
営業統括本部
お客様サービス部長
黒田 洋司



内容	件数	構成比率	前年比
ご意見・ご指摘	2,149件	53.0%	89%
お問い合わせ・ご要望	1,811件	44.6%	95%
お褒め	98件	2.4%	104%

※データは、2015年3月～2016年2月（ユニー本部 受付分4,058件）のものです。

▶ お客様の声の流れ



社会貢献・地域貢献

ユニーの目指す持続可能な社会は、地球環境を守るだけでなく「みんなが幸せに暮らすことができる社会」です。その実現のために、地域の皆様やNPO、企業、自治体と一緒に社会貢献・地域貢献活動を推進しています。そしてユニーの店舗は地域社会の頼りになる「コミュニティセンター」でありたいと努めています。

社会貢献活動

お買い物で環境貢献・社会貢献

日頃よく行くお店でお買い物をしたら社会貢献ができる……。そんなエシカルなお買い物の仕組みをユニーは実践しています。ユニーとメーカーが協働でお買い上げに応じた寄付をする「ドネーション企画」は、お客様の思いを自然保護や社会貢献に役立てるものです。

▶ 日本ハム 自然体験ツアーを実施

日本ハム商品をキャンペーン期間中にお買い上げいただいたお客様を招待し、親子で楽しむ夏休み自然探検イベントを開催しました。大自然の中で参加者は「火おこし」や「森の溪流探検」を体験しました。



火おこし体験 川遊び体験 みんなで協力して川を上りました

▶ 盲導犬育成キャンペーン「ワンステップ」

たくさんのお客さんの善意が集まり、2015年11月1日から12月31日の2カ月間で323,448円を寄付することができました。また店頭ではパトラッシュ募金箱を設置し、お客様から301万2,143円の寄付が集まりました。



パトラッシュ募金箱 感謝状を受ける佐古社長 ワンステップのポスター

▶ 羽毛布回りサイクルで「熊野古道の保全」

家庭で不要になった羽毛布団を店頭で下取り回収し、羽毛をリサイクルする取り組みを実施しました。この下取り収益金と、下取り枚数に応じて配布した割引券のご利用で1枚につき5円を積み立て、世界遺産熊野古道保全のために「和歌山県世界遺産協議会」に100万円を寄付しました。また、熊野古道保全活動「道普請」に応募したお客様18組の親子と一緒に保全活動を行いました。



感謝状を受ける百瀬CSR部長 熊野古道の保全活動（道普請） 「タコ」と呼ばれる専用の道具で道をならしました

▶ 「エコとくお買物券」プレゼント企画

家庭で不要になった衣料品を回収し、自動車の内装材としてリサイクルしています。衣料品をお持ちいただいたお客様に割引券として使用できる「エコとくお買物券」を差し上げています。1枚の使用で割引金額の1%をユニーから被災地支援や緑化活動に寄付しています。

◆ エコとくお買物券使用実績と寄付金額

	使用枚数合計(枚)	寄付単位(円)	寄付金(円)	寄付先
2015年4・5月	274,380	3	860,000	東日本大震災復興応援企画実行委員会
	28,409	1		
2015年9・10月	239,275	3	740,000	公益財団法人Save Earth Foundation
	14,503	1		



エコとくお買物券

地域のNPO・企業とのコラボレーション

▶ 難民衣料救援

ユニーはNPOや地元企業のボランティアと、お客様の家庭で不要になった衣料品を回収しています。回収した衣料品はNPO法人日本救援衣料センターを通じて、アジア・アフリカ・南米に送りました。この事業には日本通運にも協力していただきました。

◆ 衣料回収実績

実施日	衣料回収店舗	協力機関	衣料回収量(t)	衣料提供者人数(名)
2015年10月17日	アビタ刈谷店	デンソーグループハートフルクラブ	5.5	233
2016年5月11日	アビタ千代田橋店	名古屋を明るくする会 NPO法人日本救援衣料センター	10	127
2016年6月4日	アビタ安城南店	デンソーグループハートフルクラブ	6	170
2016年6月18日	アビタ刈谷店	デンソーグループハートフルクラブ	5.5	187
2016年6月25日	アビタ豊田元町店	トヨタ紡織ボランティアセンター	5	118



デンソーグループハートフルクラブ



トヨタ紡織ボランティアセンター



名古屋を明るくする会

▶ WAFCA (ワフカ) 車椅子支援活動

車椅子の修理ボランティアを行っているWAFCAとあいおいニッセイ同和損保が協働でアピタ安城南店で障がい者支援のイベントを開催しました。



WAFCA (ワフカ) 車椅子支援活動

買い物が社会を変える

▶ フェアトレード

ユニーの店舗では、「フェアトレードマーク」の付いた商品と取り扱っています。フェアトレードとは直訳すると「公正な貿易」。開発途上国などで生産された商品を適正な価格で取り引きすることです。また、このマークは立場の弱い生産者の生活改善や自立、生産地の環境保全なども確認され保証されたマークです。ユニーではフェアトレード商品を販売し、支援しています。

▶ フェアトレードフェスティバルを開催

2013年から毎年、名古屋市内の店舗を舞台にフェアトレード名古屋ネットワークと学生ボランティアとの協働でフェアトレードフェスティバルを開催しています。2015年はヒルズウォーク徳重ガーデンズを会場にイベントを行いました。ユニーはフェアトレード商品を品揃え・販売することで、お客様はその商品を選んで購入することで、生産地の子ども達を助けるフェアトレードを支援できることを伝えました。こうしたイベントを今後も開催していきます。



参加団体の皆様

●参加団体

NPO法人 フェアトレード名古屋ネットワーク
FTNN・学生チーム、名古屋外国語大学ボランティアサークルLinks、名古屋高校生国際ボランティア団体どえりゃあwings、日本福祉大学付属高校



責任あるお買い物でフェアトレードを

2015年に名古屋市がフェアトレードタウンに認定されて9月で1年になります。今年5月のフェアトレード推進月間に名古屋市教育委員会は市内のすべての小学校給食で「フェアトレード認証の白ごま」を導入したメニュー12万食を提供しました。子ども達は栄養教師からフェアトレードについて学び、お家の方々にもフェアトレードが伝わる機会となりました。教育の現場から、家庭の消費につなげたい！子ども達が給食で食べたフェアトレード商品をぜひ近くのスーパーで買えるようにしてほしいと、5月から名古屋市内のユニー一部店舗でフェアトレード認証白ごまの取り扱いを始めていただきました。買って使って消費してこそフェアトレード。責任あるお買い物で生産者に繋がることが理想です。



NPO法人フェアトレード名古屋ネットワーク
FTNN代表
原田 さとみさん

▶ 10月1日「コーヒーの日」イベント（リーフウォーク稲沢）

日頃親しんでいるコーヒーは、日本ではほとんど栽培されず、海外から輸入している作物です。コーヒーはどのような環境で栽培され、加工・輸送されて私達のもとに届くのかをほとんどの消費者は知りません。ただ、生産国は途上国が多く、消費は先進国であるということ。また生産地は「生物多様性ホットスポット」（絶滅が心配される生き物が多く生息する地域）と重なっています。

リーフウォーク稲沢では、店内でコーヒーを提供している専門店が協働で、美味しいコーヒーと地球環境のつながりをお客様に伝えるイベントを開催しました。



スターバックスのコーヒーのリサイクル堆肥を使った苗植え



珈琲工房ひぐちのサスティナブルコーヒーの試飲

▶ AJU自立の家・車いすセンター、小牧ワイナリーの支援

1982年より支援を続けている「AJU自立の家・車いすセンター」に、2015年度は従業員からの募金61万5,931円を寄付しました。また、障がい者就労支援施設小牧ワイナリーが栽培したブドウを醸造したワインを店舗で販売しています。また、2015年に小牧市に「小牧ワイナリー」を設立、収穫したブドウでワインを醸造しました。ユニーはこれからもワインの販売店舗を拡大し、消費者に購入していただくことで支援を続けます。



小牧ワイナリーで作業

スターバックスのリサイクルループ



スターバックスの食品廃棄物の多くを占めているのが、毎日店舗でお客様に提供するコーヒーを抽出した後に残る豆かすです。この豆かすを有効活用できるコーヒー豆かすのリサイクルループを多くの関係者との連携により実現しました。世界中のコーヒー生産者に大切に育てられ、日本に届けられたコーヒー豆は、お客様にお楽しみいただいた後、新たなジャーニーへ出かけます。コーヒー豆かすから牛のえさや野菜のたい肥が作られ、そのえさやたい肥で育てられた牛のミルクや野菜が、また店舗でサンドイッチやドリンク類の原材料に用いられます。持続可能なより良い未来につながると信じて、これからもこの資源循環の取り組みを拡大していきたいと考えています。



スターバックス コーヒージャーナ
関根 久仁子さん



初醸造「ななつぼし」をリリース

「小牧ワイナリー」は2015年5月1日にオープン。障がいのある方が、自分らしく地域で暮らすために就労を支援するワイナリーです。暑い日も寒い日も畑で働き、できることをコツコツと真面目に、日々の努力が報われるように、障がいがある人もない人も、楽しく関わることのできる事業としてまいります。2016年春にリリースの初醸造「ななつぼし」は大好評、今後は生産の安定を目指し、ブドウの栽培と品質の向上を目指します。



小牧ワイナリー
川原 克博さん

募金活動

▶ WFP(世界食糧計画) 支援活動

ユニーは食品を扱う企業として国連WFP協会に加盟し、従業員を対象にワンコイン募金活動を実施しています。本社や店舗では毎月第一日・月曜日のランチタイムにポケットのワンコインを募金してもらい、開発途上国の子ども達の給食プログラムに贈っています。2015年度は100万円寄付しました。



本社食堂前 ワンコイン募金

▶ 世界の医療団～スマイル作戦キャンペーン～

世界の子ども達に笑顔を贈る活動は、先天性の病気やけが、戦争などで顔に傷を負った発展途上国の子ども達に、医療支援をするための活動です。2015年度には18店舗で開催し、902名が参加して、子ども達にメッセージを贈り、415万1,277円の寄付金振込みの手続きをしていただきました。



スマイル作戦キャンペーン

▶ UNHCR(国連難民高等弁務官事務所) 支援活動

2015年から2016年にかけて、世界は難民問題で揺れています。宗教や人種、政治的な立場が異なるという理由で迫害を受け、内戦や生命さえ脅かされて故郷から逃げ、他国に避難した難民、また国内の別の地域に避難した避難民になってしまった人々が安心して暮らすに帰れるように支援活動を行っています。2015年度は3店、60名が9万9,500円の寄付振込みの手続きをしてくださりました。



UNHCRの活動

▶ 愛の1円玉募金

店頭に「愛の募金箱」を設置し、お客様・取引先様・従業員から善意のお金を募っています。集まった募金は地域の社会福祉協議会や福祉団体へ寄付しています。



愛の1円玉 募金箱

中京地区	8,122,848円
関東地区	1,918,101円
山静地区	731,306円
北陸地区	834,581円
合計	11,606,836円

被災地支援・防災活動

近年日本を襲う天災、大地震や津波、大雨による河川の氾濫などは、各地で甚大な被害をもたらしました。ユニーは被災地の方々への支援として、お客様の善意を届ける活動をしました。

鬼怒川氾濫 災害時の緊急避難

2015年9月11日、茨城県常総市周辺は鬼怒川の堤防が決壊するほどの大雨に見舞われ、アピタ石下店も濁流に飲み込まれました。午前10時過ぎから浸水が始まり、15分ほどで1階フロアが大人の腰ほどまで水位が上がり、お客様・従業員合わせて100名ほどが店内に取り残されました。従業員はお客様を2階へ避難誘導し、浸水している場所に取り残されている人がいないか確認し、2階まで浸水した場合の避難の準備などを行いました。この夜を明かすための食料や布団の手配、簡易トイレの設置など、緊急避難所の役割を果たし、翌朝、自衛隊のヘリコプターで救出されました。被災4日目には仮設テントでの販売、20日目からは2階部分で仮営業を始めることができました。



アピタ石下店

東日本大震災被災地の子ども達に笑顔を贈る

▶ ユニーグループのドネーション企画

東日本大震災の被災地には、まだまだ復興が進んでいない地域があります。厳しい状況の中でも子ども達は未来に向かって夢をかなえようとしています。そんな子ども達を応援するために、メーカーとユニー・サークルKサックスが協働で、お買い上げに応じて寄付金を拠出するドネーション企画を2014年から実施しています。

2015年度は、宮城県七ヶ浜町の子供達によるミュージカル公演を支援しました。この劇団は震災前の2001年から町が子ども達の課外活動として取り組んできました。演目は「ゴーへ!」という震災に負けない思いをテーマにしたものです。公演の開催には、名古屋のNPOや企業、団体が上演委員会を立ち上げ、地元の高校生ボランティアも協力しました。

協賛企業

アサヒ飲料(株)、旭化成ホームプロダクツ(株)、(株)伊藤園、エステー(株)、キリンビバレッジ(株)、コカ・コーラボトラーズ、サントリーフーズ(株)、ショーワグループ(株)、(株)日本香堂、(株)バスクリン、ユニ・チャーム(株)



七ヶ浜国際村ミュージカル劇団NaNa5931



ドネーション企画ポスター



ミュージカル「ゴーへ!」



花束を渡す佐古社長

▶ 子ども達の夢をかなえる「みちのく未来基金」

ユニーとサークルKサックスは、東日本大震災で親を亡くした子ども達の進学を、2012年より10年間支援することを決め、みちのく未来基金に参加しています。2015年度には92人の子ども達が希望の道に進学できました。奨学金給付人数は述べ526人になりました。



みちのく未来基金 門出の会

▶ ベルマークを集めて文房具を贈る

ユニーは東日本大震災被災地の子ども達を支援するために、お客様と従業員と一緒にベルマークを集めて文房具を贈る活動をしています。2015年度はユニーとグループ会社13社が協働で取り組みました。2016年1月9日から2月16日の期間で96万1,742点が集まり寄贈しました。



ベルマーク寄贈するキリンビバレッジの皆さんとユニー

▶ ハーゲンダッツアイスクリームで楽器をプレゼント

ハーゲンダッツと協働で、アイスクリームお買い上げ1点につき1円を寄付することとし、宮城県の幼稚園、保育園2施設に楽器を贈りました。12月1カ月間で46万3,671個のアイスクリームをお買い上げいただき、46万3,671円の寄付金で楽器を寄贈しました。寄贈式ではアイスクリームもプレゼントしました。



宮城県山元町保育園

▶ 未来に心がつながる! 絵本プロジェクト

2012年から花王との協働で、東日本大震災被災地の子ども達に「本棚いっぱい絵本」を贈っています。2015年3月17日から4月20日までの期間にアピタ・ピアゴ・ユーホーム・サークルKサックスの店舗で花王の対象商品1点お買い上げにつき1円の寄付金を積み立てた115万3,759円で、福島県・宮城県・岩手県の小学校・幼稚園・保育園13施設に794冊の絵本を寄贈しました。



福島県広野町幼稚園

防災を子ども達と楽しく学ぶしかけづくり

「いつ来てもおかしくない地震に向けて備えよう」と、いたるところで叫ばれています。特に次代を担う子ども達への防災教育は重要ですが、まずはどう関心を持ってもらうかが難問です。そこで取り組んだのが、「あそぼうさい・まなぼうさい」です。しっけは2つ。1つは「開催場所」。特別に防災を意識せず、普段買い物に立ち寄る大型ショッピングセンターをターゲットに、今回ヒルズウォーク徳重ガーデンが快くお引き受けくださいました。2つ目は「楽しく学ぶ」こと。暗室で危ないものを踏まずに懐中電灯で笛を見つけて吹くという「まっくら体験」など。こうした取り組みを今後もユニーのご協力により推進していきたいと思っています。



認定NPO法人レスキューストックヤード 代表理事 栗田 暢之さん

熊本地震への対応

▶ 熊本地震災害義援金募金

ユニーグループの従業員とお客様からの義援金、計1億3,318万4,894円を日本赤十字社に寄託しました。



熊本地震災害義援金募金箱

▶ ユニー従業員の被災地支援活動

義援金だけではなく、被災地の障害のある方たちへの支援活動として、ユニー従業員のそれぞれの家庭からタオル約18,000枚、パスタ約4,500枚、毛布約250枚を被災地障害者センターへまとりに届けました。



従業員の支援活動

従業員の間持ちとタオルを被災地へ



5年前、東日本大震災の救援物資発送の時に作業と一緒にした仲間達と「こんな悲しい作業はもう嫌だね…」と語り合ったにも関わらず、再び熊本で大地震が発生しました。悲しくも5年前の経験が役に立ち、救援物資の発送も滞りなく終わり、ユニー従業員の善意(温かい気持ち)とタオルをお届けすることのお手伝いできましたと思います。今は熊本の一日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。



弥富物流センター 大山 尚代

災害訓練イベント

▶ 楽しく体験する防災イベント

近年、東北大地震や熊本地震などの大災害が、各地に甚大な被害を及ぼしています。そこで地震が襲ってきたときに、自分の命を守るための行動を子ども達に遊びを通して体験してもらうイベントを、店頭や公園で開催しました。

▶ あそぼうさい

名古屋市緑区のヒルズウォーク徳重を会場に、名古屋市に本部のある災害支援NPOレスキューストックヤードの主催で、体験型防災イベント「あそぼうさい」を開催しました。地元で防災活動に取り組んでいるNPO・団体によるこのイベントには、震度7を体験できる「ぐらっときたゾウ」や、暗闇で笛を探し出して吹く「まっくらだゾウ」などで、子ども達は命を守る行動を楽しみながら学びました。



あそぼうさい

▶ レッドベア 防災キャンプ

名古屋市港区の戸田川緑地で、神戸市に本部のあるNPOプラス・アーツの指導による親子対象の防災キャンプに参加しました。



レッドベア防災キャンプ



災害時には店の段ボールで寝具をつくる

地域貢献活動

ユニーは「地域のコミュニティーセンター」として、公職選挙の投票所の設置など、さまざまな地域貢献活動を行っています。いつもお買い物に来ていただく店舗や地域の公園・公共施設などで、自治体やNPO・地域の皆様と一緒に地域活動を推進しています。

地域で環境啓発活動

▶ 全店一斉クリーンキャンペーン

ユニーでは毎日、店舗や事業所周辺の清掃や除草を行っています。また6月の環境月間、10月の3R推進月間には清掃活動の範囲を近くの公園や子ども達の通学路などで広げた全店一斉クリーンキャンペーンを実施しています。そして本社ではグループ企業と一緒に清掃活動を行い、地域の美化に努めています。



クリーンアップ活動

▶ 能登の里山里海スタディツアー

ユニーと石川県、能登4市5町、関係団体で構成する世界農業遺産活用実行委員会では、2011年度から世界農業遺産に認定された「能登の里山里海」の魅力体験して学ぶ、親子スタディツアーを実施しています。毎年2回ずつで、今までに輪島市・穴水町・志賀町・七尾市・珠洲市・羽咋市、中能登町・宝達志水町・能登町で実施し、能登4市5町が一巡しました。今後も石川県と連携しながら親子さんとともに活動していきます。



スタディツアー



ブルーベリージャム作り体験

▶ Mie子どもエコフェア

三重県鈴鹿山麓リサーチパークで、子ども達が楽しくエコライフを学ぶイベントMie子どもエコフェアが開催され、ユニーは環境展示とエコ工作を出展しました。夏休みの一日を環境について学ぶ楽しい催しでした。



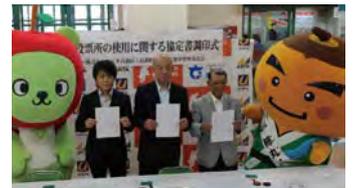
エコ工作「鉛筆の削りかす粘土でオリジナル鉛筆づくり」

▶ メッセナゴヤ2015 環境展示会

名古屋商工会議所主催のメッセナゴヤ2015に、ユニーグループ・ホールディングスとして、サークルKサンクスと共同出展しました。「環境にやさしいお買い物…命につながる水を大切に」をテーマに、消費者に水を汚さない暮らしを提案しました。特にマイクロプラスチックが海洋汚染の原因であり、海洋生物に深刻なダメージを与えていることを説明する展示やエコ工作には、たくさんのお客様に関心をもっていただきました。

▶ 全国初の「共通投票所」設置

長野県高森町にあるアピタ高森店は、町と町の選挙管理委員会と「共通投票所の使用に関する協定」を締結し、2016年7月の参議院議員選挙から共通投票所を設置することを決めました。この店は2015年4月の長野県議会議員一般選挙で期日前投票所を設置しています。いつものお買い物に訪れるスーパーで投票ができることで投票率の向上が図られるとともに、お客様に利便性や若い世代が政治に参加しやすくなるよう努めています。



アピタ高森店での調印式の様子

▶ 大垣市環境市民フェスティバル

ユニーは大垣市環境市民会議に参加し、市民や大垣市、企業・団体と一緒に環境保全活動を行っています。大垣市は水都といわれ、古くから自然環境に恵まれた地域です。その自然を未来に残そうと市民会議が毎年開催しているイベントに、環境展示とエコ工作、紙芝居を出展しました。



環境展示を出展

▶ 環境デーなごや

名古屋の中心部、久屋大通で開催された環境デーなごやに、日本チェーンストア協会中部支部の一員として出展しました。ユニーは大学生と協働で制作した「環境紙芝居」の新作をたくさんの子どもの前で発表しました。作者の大学生が一生懸命読み聞かせ、とても共感を得ました。



新作環境紙芝居を発表



ユニーグループ・ホールディングスのブース



プラスチック容器でエコ工作

地域貢献活動

▶ 認知症お買い物セーフティーネット

高齢化社会が進みつつある中で、ユニーでは認知症の方にも安心してお買い物を楽しんでいただけるようサポートに努めています。従業員には認知症への理解と見守りの役割を担うための教育を行い、店内での困りごと対応やお手伝いで支援しています。また一般のお客様にもご理解・協力をさせていただくために店内で認知症支援のボランティアや市の職員、支援している大学と一緒に認知症サポート啓発イベントを開催しています。



従業員への認知症サポーター教育を実施



店舗で認知症アンケートを実施



店舗での啓発イベント

▶ 高齢者見守りネットワーク事業に協力

桑名市のアピタ、ピアゴが市の高齢者見守りネットワーク事業に協力し、店舗での認知症のお客様の対応や、ネットスーパーの商品を配達時に異変に気付いた場合は包括支援センターに連絡するなど、地域の高齢者の見守りに協力します。



桑名市との協定書締結式

▶ お買い物セーフティーネット店舗

店長はじめ従業員が認知症サポーター教育を受け、地域と連携し認知症のお客様でも安心してお買い物ができる店舗を「認知症お買い物セーフティーネット店舗」として認証しています。お店では認知症サポーターバッジを付けた従業員がお客様の対応をします。



認知症お買い物セーフティーネットマーク



認知症お買い物サポートを支援

各地のアピタ店舗での「認知症啓発イベント」も、早いもので6年目を迎えるまでになりました。また、認知症サポーター養成講座には店長さんはじめ沢山の従業員の方に受講していただいています。先日ある介護家族から「アピタで妻が迷子になり従業員の皆さんに助けもらった。本当にありがとうございました」という嬉しいお話を聞きました。これからも認知症になっても安心して買い物ができるようご支援よろしくお願ひいたします。



NPO HEART TO HEART 代表 尾之内直美さん

▶ ネットスーパー

店舗に行かなくても買い物ができる「ネットスーパー」は、高齢者など買い物が困難なお客様や時間がないお客様の強い味方です。

またお客様の使用済み容器包装を商品納品の時に回収するなどリサイクルも推進しており、お客様に便利で環境にも配慮した取り組みを進めていきます。こども虐待防止オレンジリング運動に協力し高齢者だけでなく地域のこどもの見守りの啓発に取り組んでいます。



ネットスーパーの紹介



ネットスーパー配達車

▶ サービス介助士の養成

ユニーでは2007年からサービス介助士の資格取得を進めています。高齢化社会が進み、高齢者や障がいをお持ちの方にも安心してお買い物をしていただくために、サービスレベルの向上を目指し、店長、副店長から資格の取得を進めてきました。現在サービス介助士の資格取得者人数は1,657名です。今後も高齢者や障がいをお持ちのお客様のお買い物サポートに取り組んでいきます。



車椅子の介助訓練



高齢者体験

地域に緑を増やす

▶ 地域の緑化活動を支援

地球温暖化を防ぎ、ますます気温が高くなる夏の暑さを緩和するためには、地域に緑を増やすことが有効です。植樹や花壇など地域の緑化活動を支援し、地球温暖化防止と緑地の生物多様性に貢献しています。

▶ 大垣市「レジ袋 市民の森」活動

岐阜県大垣市のアクアウォーク大垣には、大垣市環境市民会議との協働で作り上げ、環境大臣賞受賞の「レジ袋 市民の森」があり、市民のボランティア「グリーンサポーター」が木や花の管理に活躍しています。



レジ袋 市民の森 グリーンサポーター活動



サポーターへ感謝状を贈る

▶ 名古屋市名城公園 花の山プロジェクト

名古屋市の名城公園の花のエリアにある「ユニーの花壇」を、市民ボランティアと一緒に花を植えたり雑草を駆除したりする活動をしています。小さな子ども達も家族と一緒に参加してくれました。



市民ボランティア



ユニーの花壇の花植え

Re DESIGN PROJECT(リ デザイン プロジェクト)



世界をお買い物でハッピーに！

「地球」「若者」「障がい者」、そして買ってくださるお客様がつながるリデザインプロジェクトは、規格外製品や端材などの循環資源を繊維商社や企業などからご提供いただき、それらを使ってデザイン学校の生徒達がデザインします。商品は地域の障がい者支援施設の方々に生産していただき、冬の時期にユニーの限定店舗で販売します。生産に携わる人々も、商品を選ぶお客様も、お買い物を通してつながりあい、地域貢献・社会貢献をすることができます。

循環資材の活用

ユニーの本社がある愛知県尾張地方は繊維業が盛んで、多くのテキスタイルメーカーがあります。ご提供いただくものは倉庫に眠っているサンプル生地や少しの傷のために廃棄される生地ですが、この地方に古くから伝わる伝統技術で織られた貴重なものばかりでした。2015年は、尾州産地を代表するテキスタイルメーカーのタキヒヨーが初めて参加しました。



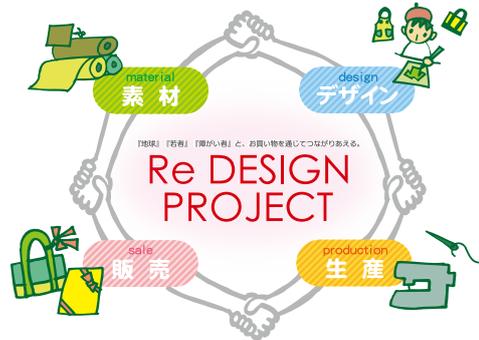
審査をするタキヒヨー 滝社長



津島毛織工業組合 安達様

24社5組合協力 (今まで協力していただいた企業・団体)

(株)板倉産業、(株)イノアックコーポレーション、(株)イノアックリビング、(株)ウエストボックス、オパレックス(株)、音部(株)、CANTON、かきもと(株)、陸山(株)、清原(株)、興和(株)、タキヒヨー(株)、(株)高正商店、田宮服飾(株)、(有)テクスワン、(株)テクノフォームジャパン、(有)東新化工、豊島(株)、パール金属(株)、丸安ニット(株)、三ヶ日工業(株)、和呑毛織(株)、日本毛織物等工業組合連合会：岐阜県毛織工業組合、津島毛織工業組合、尾西毛織工業組合、尾北毛織工業組合、名古屋毛織工業組合、一般財団法人カケンテストセンター、(有)パンサー



ファッション性を取り入れたエコ商品の開発

検査機関で検査を行い、ユニーの販売品質基準をクリアしたものをアピタの限定店舗で販売しました。協力企業・若者・障がい者、そして買ってくださるお客様が、お買い物を通してつながりました。



- アピタ稲沢東店
- アピタ静岡店
- アピタ安城南店
- アピタ千代田橋店
- アピタ東海荒尾店
- アピタ長津田店
- アピタ名古屋南店
- アピタ長久手店

学生への「環境・社会貢献」の啓発

デザインを専門に学ぶ学生達は、発想力豊かで魅力あふれる商品をデザインします。センスとアイデアを活かしながらも、限られた素材と障がい者支援施設で生産可能な縫製についても考え、デザインの力でプロジェクトを支えました。



- 愛知文化服装専門学校
 - 名古屋コミュニケーションアート専門学校
 - 成安造形大学
 - 名古屋モード学園
 - 中部ファッション専門学校
 - 名古屋ファッション専門学校
 - 名古屋学芸大学
- 7校310名参加 (2015年度)

障がい者支援施設とのコラボレーション

ファッション性のある商品の生産は障がい者の仕事へのやりがいと楽しさにつながります。毎年縫製技術が磨かれ、一つひとつ丁寧に作っていただいています。ユニーは障がい者の働く機会を創出し、公正な対価を支払うことで、障がい者の自立を支援しました。



- 社会福祉法人 名古屋身体障害者福祉連合会 名身連第一ワークス・第一デイサービス
 - 社会福祉法人すぎな 作業所えがお
 - 社会福祉法人あさひ会 守山作業所
 - 障害者就労継続支援B型事業所 chord
- 4施設参加 (2015年度)

チャリティ販売を実施

リーフウォーク稲沢で2015年12月13日に開催された「あったかいクリスマスチャリティイベント」で音楽を専門に学ぶ学生達によるゴスペルライブとRe DESIGN PROJECTのチャリティ販売をしました。収益金は東北の子供達へプレゼントを贈る資金としました。



商品化に向けて

リデザインプロジェクトにはプロジェクト立ち上げ当初から関わっていますが、企業の皆さまや学生の皆さまから「あったかい気持ち」をいただき本当にありがたく思っています。製作は障がい者支援施設の方々の力をお借りして商品化しており、皆さまの繋がりを大切にしています。今年もリデザインプロジェクトの商品をたくさんの方へお届けできるように進めてまいります。



衣料・住関本部
ホームファインディング担当
チーフバイヤー
墨 康秀

ユニーでは、全国のモールや大型ショッピングセンターでエコライフを体験できる「エコ博」「エコフェスタ」を開催しています。お買い物をきっかけにして環境に興味を持っていただけるよう、展示やエコ工作、ステージイベントで「未来に地球をまるごととっておく」ために一人ひとりができることを伝えています。

環境に興味のある方も、そうでない方も、大人も子どもも楽しみながらエコライフを知り、体験していただけます。

エコ博って何!?

「エコ博」は、モール型店舗やアピタで開催する、地球にやさしいライフスタイルの体験ができるイベントの総称です。

環境活動を積極的に推進している地域に根ざした企業様、団体様と一緒に進めることで、「未来の子ども達に美しい自然を残す」というメッセージをより強く発信できることになると考えています。



2016年

COOL CHOICE

未来のために、いま選ぼう。

エコ博のテーマは、「お買い物でCOOL CHOICE」。私たち消費者が日々行っている選択に「CO₂を抑えるモノ・コトであるか?」という視点を加えて、未来のために「賢い選択=COOL CHOICE」をすることで、普段の生活をエコライフにするお手伝いをします。



ユニーの環境展ブース



ユニーブース前でエコロキッズツアー



環境紙芝居で子どもにも大人にもわかりやすい「賢い選択」を学びました。



おがくず粘土で世界に1つだけの鉛筆をつくりました。

地球温暖化防止やCO₂を減らす取り組みを展示・紹介いただきました。



ECO FIRST
キリングループの容器包装3Rの取り組み (キリン)



ECO FIRST
環境にやさしい商品や環境社会貢献活動を紹介 (ライオン)



ECO FIRST
ゼロエネルギー住宅・省エネルギー相談会 (積水ハウス)



リターナブルピンの使用 (明治)



「いっしょにeco」を伝える (花王)



ボトルキャップ運動で植木鉢プレゼント (いその)



ヤマザキのエコプロダクツ減装ショッピング (山崎製パン)



CO₂CO₂ 減装パッケージ (日本ハム)



未来のあたりまえを作るエコ工作 (大日本印刷)



サステナブルコーヒーの試飲 (珈琲工房ひぐち)



段ボールコンポストの紹介 (大垣市環境市民会議)



動物たちとの触れ合い (日本モンキーセンター)



グリーンダウンプロジェクトの活動紹介 (GreenDownProject)



白川郷の動物と自然の紹介 (トヨタ白川郷自然学校)



自然と共に生きるをテーマにしたミュージカル (劇団シンデレラ)

ステージ

◆2015年～2016年エコ博、エコフェスタ一覧

年	期間	名称	開催店
2015年	10月3日～4日	アビタ松任エコ博	アビタ松任店(石川県)
	10月3日～4日	東海三県一市グリーン購入キャンペーン	ヴェルサウォーク西尾(愛知県)
	10月10日～11日	東海三県一市グリーン購入キャンペーン	ヒルズウォーク徳重ガーデンズ(愛知県)
	10月17日～18日	アビタ長津田エコ博	アビタ長津田店(神奈川県)
	10月17日～18日	東海三県一市グリーン購入キャンペーン	アビタ美濃加茂店(岐阜県)
	10月24日～25日	アビタ伊東エコ博	アビタ伊東店(静岡県)
	10月24日～25日	アビタ長岡エコ博	アビタ長岡店(新潟県)
	10月24日～25日	東海三県一市グリーン購入キャンペーン	アビタ松阪三雲店(三重県)
	11月7日～8日	ラザエコ博	ラザウォーク甲斐双葉(山梨県)
	11月22日～23日	アビタ福井大和田エコ博	アビタ福井大和田店(福井県)
2016年	4月2日～3日	ラスパ御嵩エコフェスタ	ラスパ御嵩(岐阜県)
	5月14日～15日	アビタ富山東エコ博	アビタ富山東店(富山県)
	6月4日～5日	けやきエコ博	けやきウォーク前橋(群馬県)
	6月4日～5日	リーフエコ博	リーフウォーク稲沢(愛知県)
	6月25日～26日	アクアエコ博	アクアウォーク大垣(岐阜県)



84社の行政・企業・団体・NPOと協働で実施しました

富山県/公益財団法人環日本海環境協力センター/公益財団法人とやま環境財団/高岡市衛生公社・クリーン産業/雪印メグミルク 特約店サンライト/丸越/日産プリンス群馬販売/キリンビバレッジ/バックタケヤマ/AJU自立の家小牧ワイナリー/UCS/リサイクル楽団/大垣市環境市民会議/岐阜県園芸福祉協会西濃支部/竹竹パンパー隊/いまいせ心療センター/ミニ天井/もりの学舎自然学校/東海子どもの本ネットワーク/東海三県一市グリーン購入キャンペーン実行委員会/エコマーク事務局/西尾市/EXPOエコマネー事務局/北陸電力/名古屋市環境局/生ごみ出さないプロジェクト/名古屋商業高校/三重県環境生活部地球温暖化対策課/神奈川県/テレビ神奈川/九都県市廃棄物問題検討委員会/岐阜県環境生活部廃棄物対策課/美濃加茂市環境課/坂井商事/静岡県 くらし・環境部環境局/伊東市 市民部 環境課/伊豆半島ジオパーク推進協議会/NPO法人伊豆の風/太陽光発電所ネットワーク/NPO法人全国指導犬施設連合会/静岡油化工業/富士サファリパーク/山梨県エネルギー局/甲斐市環境課/公益財団法人やまなし環境財団/エコ環境練楽甲斐/幼児緑育研究会/認定NPO法人スペースふう/富士川クリーン/アースポーター福井会/福井市/福井テレビ/エコ・ファースト推進協議会 (下記写真に掲載のない参加企業・団体)

2015年 2015年は「地球は水の惑星 命につながる水を大切に」を全体テーマとして展示を行いました。エコ博・エコフェスタを通して、地球にやさしいライフスタイルのきっかけづくりを行っています。



私達が生活し、生きていく中で、最も大切なものの1つである「水」について、一般のお客様にも、生活における水との関わりについて知っていただき、今私達ができることは何かを考えるきっかけにさせていただくことができました。

行政による出展ブース



地元の団体による出展ブース



企業出展ブース



ユニーの食育について

心身ともに健全な社会に向けて、国を挙げて取り組まれている食育。
ユニーでは、皆様の「健康なからだ」と「豊かなこころ」づくりを応援します。
子ども達の「食」への興味・関心を育て、親子や親しい人同士で食の楽しさを発見・実感するきっかけになるよう、「おいしく」「たのしく」をモットーに、さまざまな食育活動に取り組んでいます。

ユニーの食育

心身ともに健全な社会のため、子どもから大人まで食に関心を持ち、正しい知識を身につけ、おいしく楽しい食生活を送っていただけるよう食育活動に取り組んでいます。



たべものがつたひ

食材の旬・生まれ・栄養素・調理方法や昔ながらの伝統食など、親から子へ語り伝えていきたい食の物語を「たべものがつたひ」と名付け、皆様に分かりやすくお伝えしていきます。

ユニーの食育理念

私たちは、食と食に関わる情報の提供を通して、食の大切さや楽しさを地域のお客様と共有化します。

ユニーの食育方針

- 1 新鮮かつおいしい食材を提供することにより味覚を養います。
- 2 食材の持つ栄養素とその働きを理解することにより体を養います。
- 3 食材のルーツをたどることにより食べ物大切にすることを養います。
- 4 食材本来の味や特性を活かした調理や料理ができる技を培います。
- 5 合理的な手法を用いた商品選択により安全・安心な食材提供に努めます。

あいち食育サポート企業団の活動

地元愛知の健全な食生活の実現と豊かで活力ある社会づくりに向けて、「あいち食育サポート企業団」を結成し、愛知県や関係団体等と連携・協働して食育を推進しています。また、「おうちでごはんの日」や「早寝早起き 朝ごはん」運動の普及、日本型食生活の良さ・地産地消の啓発、食の体験活動なども推進しています。

2007年	「あいち食育サポート企業団」の結成
2008年	「地域に根ざした食育コンクール」で最優秀賞
2010年	愛知県とともにドアラを食育大使に任命
2011年	愛知県図書館に食育絵本110冊を寄贈
2012年	愛知県に企業団オリジナル食育絵本1,000冊を寄贈
2012年	名古屋文理大学にて食育講座を開講
2013年	「野菜を食べよう! レシピコンテスト」を開催
2014年	「あいちを食べよう いいともあいちフェア」を実施
2015年	有識者を招いて食育勉強会を開催

▶あいち食育サポート企業団 加盟企業



「地域に根ざした食育コンクール2008」にて農林水産大臣賞（最優秀賞）を受賞



愛知県とともにあいち食育大使にドアラを任命



愛知県にオリジナル絵本を寄贈



愛知農林水産フェアで食育イベントを実施



愛知県と共催で食育講座を実施



毎月加盟企業による店頭イベントを実施



名古屋文理大学にて食育講座を開講



「いいともあいちフェア」を愛知県内全店で実施

あいち食育サポート企業団活動紹介ホームページ <http://aichishokuiku-support.info/>

店舗を中心とした食育活動

日本高血圧学会減塩委員会主催 「JSH減塩食品アワード金賞」を2年連続受賞しました

健康をテーマにしたプライベートブランド「スタイルワンヘルシー」シリーズの開発販売でお客様の健康に寄与すべく努力しています。



企業との食育への取り組み

店舗内外のイベントを通じて、食を大切にする心を育むことを目的に、食品関連企業や各種団体と共同で、食に関するさまざまなイベントを開催しています。



学生との食育への取り組み

大学や専門学校の学生と、食育まんがやイベントなど、子どもにも分かりやすい食育活動に取り組んでいます。食育における学生と子どもの「共育」推進も目的としています。



生産者との食育への取り組み

お客様が農産物の栽培から収穫までを生産者と触れ合いながら体験することにより、売り場の野菜・果物を身近に感じていただくことも大切な食育と考えています。



5ADAY (ファイブ・ア・デイ) 食育体験ツアー

「1日5皿分 (350g) 以上の野菜と200g以上の果物を食べましょう」をスローガンとした活動を推進しています。



ふれあいクッキング

お客様に食材の「おいしさ」「栄養」「使い方」を実感し、よりよく知っていただくために、店舗で料理教室を行っています。



メニュー提案コーナー

栄養士が健康を考え、旬の食材を使ったレシピを提案するライブクッキング (365キッチン、クッキングワゴン) を行っています。



ホームページ

私達にとって、一番身近な「食」に関するさまざまな「こと」を紹介するサイトです。旬の食べ物を食卓に取り入れる方法や栄養士が考える健康&簡単「からだにイイことレシピ」、食物栄養学科の学生と協力して作った「食育まんが」など、さまざまな情報で日々の食生活を応援しています。また、店頭などで行った食育イベントレポートも順次アップしています。



ユニー たべものがたり

検索

<http://www.uny.co.jp/tabemonogatari/>

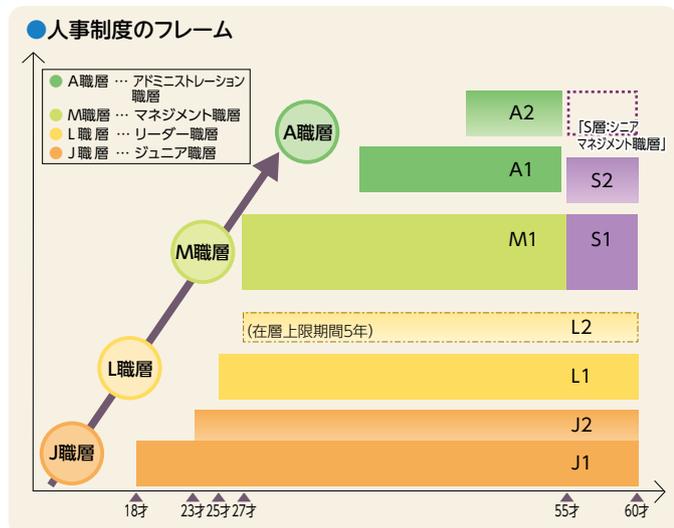
働きやすい職場環境づくり

ユニーでは従業員一人ひとりが、自ら学び、考え、動く「考動」する人材になることを目指しています。
流通小売業に従事するビジネス人としてのスキルアップのみならず、
広く社会に貢献できる人間力を育成するのが、ユニーの人材に対する考え方です。
安定した雇用環境や実力重視の人材登用、充実した福利厚生など、従業員一人ひとりを強力にバックアップしています。

キャリアアップ制度

ユニーを支えているのは「人」。その能力を最大限に発揮させていくことが、会社の成長につながっています。そこでユニーでは、配属においても本人の希望を考慮しています。毎年、全社員を対象に自己申告を実施し、今後のキャリアについて本人の希望を確認しています。配属希望の部署やそのために取り組んでいる自己啓発などを調査することで、その後の配属に活かしています。

営業店舗で店長を目指して仕事している方、商品部でバイヤーとして世界中に商品の買いつけに行く方、スタッフ部署で営業の企画を立案している方など、各人の能力・適性により活躍できるフィールドはたくさん用意されています。



充実の教育体系

キャリアに応じて必要な教育研修を実施。自己啓発を勧め、従業員の成長をサポートしています。

●研修

新入社員から管理職まで各職層別に研修を実施。2015年度の研修参加者数は述べ3,512名超えになります。



●従業員キャリアアップ

従業員のキャリアアップを手伝うため、148講座におよぶ通信教育講座を案内。会社推薦講座受講者には会社からの補助があります。2015年度は995名が受講しました。



●サービス介助士資格

高齢者の方や障がいを持つ方にも安心して買い物に来ていただけるよう、店舗の店長や副店長などの管理職を中心にサービス介助士資格の取得を勧めています。現在までに、1,600名以上が取得しています。



●技能研修

特別勤務者(パートタイム)の方には、生鮮部門担当者を中心に商品加工技術のある方に技能給を、福祉用具専門相談員やグリーンアドバイザー、自転車安全整備士、ホームヘルパーなどの資格を取得し、仕事に活かしている方にライセンス給を支給しています。



障がい者雇用

ノーマライゼーションの理念に基づき、障がいを持つ人も生き生きと働ける職場環境をつくるため、障がい者雇用に取り組んでいます。毎年、特別支援学校や施設から職場体験の受け入れも実施しています。

◆障がい者雇用率

2013年	2.05%	2015年	2.29%
2014年	2.15%	2016年	2.27%

ワークライフバランスへの取り組み

●半日休制度

付与された年次有給休暇のうち6日間を半日に分割して年間12回取得可能。年次有給休暇をより取得しやすくするため、2006年より導入しました。

●育児休暇

本人、または配偶者の出産日から2年以内に有給の休暇を5日取得可能。2016年より導入しました。

●65歳までの再雇用制度

定年を迎えた従業員がその後の生活の安定を図るため、再雇用されることを希望した場合、65歳までをキャリア社員として再雇用し、長年培った知識・経験・専門能力・技能を活用できるようにしています。

●自社商品割引購買制度

自社商品を割引で購入可能。同居家族も同条件で利用できる「家族証」を発行しています。

●アニバーサリー休暇

本人および家族の誕生日を対象の記念日として、記念日を含む月度にアニバーサリー休暇として、1年間に2日の年次有給休暇を取得することができる制度です。ここでいう家族とは、配偶者、父母、子、配偶者の父母、孫を対象とします。

次世代法に基づく基準適合一般事業主認定企業

仕事と子育ての両立を図るために必要な、雇用環境の整備などを進めるための「一般事業主行動計画」を策定し、基準に適合した一般事業主として2008年に認定されました。



愛知県ファミリー・フレンドリー企業に登録

労働者が男女ともに仕事と家庭を両立させながら働くことができる職場環境づくりに取り組んでいる企業として認められ、2003年に愛知県ファミリー・フレンドリー企業に登録しました。



ユニグループ総合福祉センター

ユニグループ各社の従業員と家族を含めた生涯にわたる総合福祉確立のために、会社と労働組合の共同事業として設立されています。主な福利厚生事業として、お祝い金やお見舞金の慶弔活動、社内セーフティネットとしての共済保険制度の提供、健康支援活動や各種セミナーの開催、宿泊・レジャー関連施設の斡旋などを行っています。

▶ 従業員同士が仲良く交流し、心と体の健康を増進するために

行楽・レクリエーション

従業員同士の親睦や交流を深めることを目的とするレクリエーション活動として、店舗や事業所ごとに、行楽等を行っています。また、心と体の健康づくりとして日頃のストレスを発散できるように、スポーツ・レクリエーションや地域ごとに中日ドラゴンズの応援会を行っています。



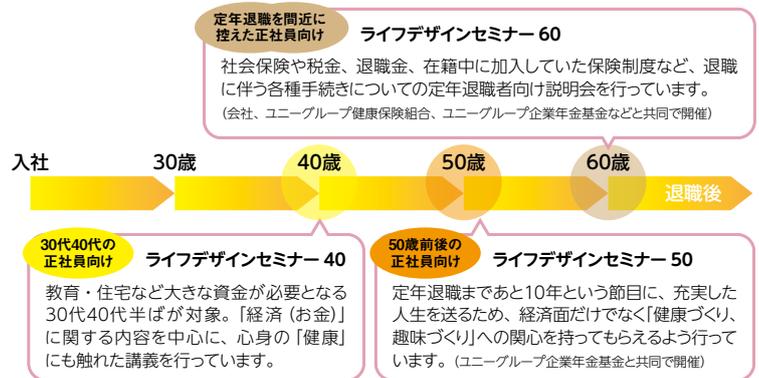
サークル活動

共通の趣味を持つ仲間と同好会をつくり活動することで、活発な職場づくりに活かしています。内容は、フットサル・ボウリング・ゴルフなどのスポーツ、写真・華道・茶道・手話・将棋など文化的なものなど多岐にわたっています。

▶ 従業員が充実した人生を送るために

ライフデザインセミナー

正社員を対象に、定年退職後も充実した生き方・暮らし方ができるよう、先を見据えた人生設計を支援するセミナーを、社外から専門講師を招いて、年代別に開催しています。



▶ 従業員の健康な身体づくりのために

健康セミナー

夫婦でも参加できる体験型セミナーです。食習慣・運動習慣を見直すきっかけづくりを目的とし、管理栄養士等の資格を持った社外講師によるストレッチやウォーキングを取り入れた講義を行っています。
 (ユニグループ健康保険組合と共同で開催)



健康ウォーキング

家族やOBも参加できるウォーキング大会を各地域で開催しています。仕事を離れ、自然の中やテーマパークを歩くことで、運動の楽しさを実感するとともに、従業員同士の交流を図る場にもなっています。
 (ユニグループ健康保険組合と共同で開催)



▶ 従業員が安心して働くために

保険制度・貯蓄制度

従業員本人はもちろん、家族まで対象としてスケールメリットを活かした団体保険を提供しています。正社員やパートタイマーなどそれぞれのニーズに合わせたコースを設定しています。また、財形貯蓄や拠出型企業年金保険など、有利な貯蓄制度を提供しています。



▶ 従業員と家族の充実した余暇生活のために

宿泊施設、レジャー施設

従業員がより充実して働くためには余暇の充実も重要なポイントです。従業員と家族の皆さんに旅行やレジャーを通して楽しんでいただくため、全国各地にあるリゾートホテル、シティホテル、アミューズメントパークなどと法人契約しています。各宿泊施設、各レジャー施設の最新情報を、従業員向けに定期的に発行している冊子や、専用ホームページで案内・紹介しています。



ダイバーシティ

ダイバーシティの取り組み

ダイバーシティとは、多様な人材を積極的に活用しようという考え方のことです。多様性（性別や年齢、国籍や人種、病気や障がいの有無、妊娠や育児、介護など）を大切に1人ひとりが活躍できるようにすることで、最大の能力を活かし充実した働き方ができます。

▶ 女性が輝き活躍できる職場を目指して

世界経済フォーラム(WEF)が発表したThe Global Gender Gap Report 2015によると、ランキング1位(もともと男女の格差が少ない国)はアイスランドでした。日本は101位で先進国では最下位です。経済産業省は経済のグローバル化や少子高齢化が進む中で日本の企業競争力の強化を図っていくためには、女性や高齢者など、一人ひとりが能力を最大限発揮して価値創造に参画していくことが必要だと考えています。

小売業では女性従業員比率が高く、仕事と家庭の両立支援や女性の活躍推進に積極的に取り組んできた企業が多い業界です。お買い物にいらっしゃるお客様も女性が多いことから、女性の能力発揮の推進を積極的に受け入れる風土があるはずですが、まだまだ十分に能力が発揮できていないとは言えない状況です。

ユニーで働く従業員の現状

現在ユニーでは215店舗で2万6834人が働いています(アルバイトを除く)。そのうち女性は2万1321名で、79.5%を占めますが、女性の管理職の割合は、管理職全体の5.9%でしかありません。しかしながら、2014年には初の女性執行役員が誕生し、現在、女性管理職は店長3名、部長職2名、副店長39名、チーフバイヤー、チーフFMD、チーフマネジャー8名、その他管理職110名を合わせ162名です。(※2016年7月時点)

ユニーでは男女共に管理職として活躍できる労働環境の整備に向け、2016年4月から3か年計画で女性活躍推進法行動計画を定め、女性管理職の割合を20年をめどに10%以上にする目標を立て、女性の活躍を応援しています。

▶ 育児・介護と仕事の両立のため制度を拡充

小売りの現場では長時間労働の問題が実在するのが現状です。そこでユニーでは人的生産性を向上させるレイバースケジュールリングプログラム(LSP※)を導入し、作業の無駄や無理を省く店舗運営を進めています。子育て支援の制度はもちろんですが、介護休業は従来の93日から365日まで延長し、複数回の取得もできるようにしました。介護休業は社員3名、非正規社員23名が取得しています。

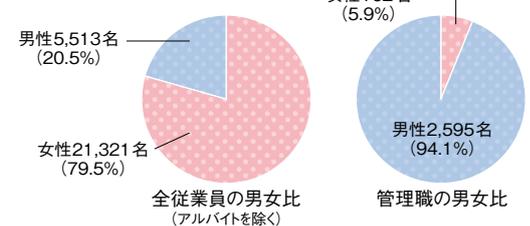
また、今まで結婚、出産、育児、介護、配偶者の転勤などの理由でやむを得ず退職した正社員については、退職後5年以内に正社員として受け入れる再雇用制度も導入しました。退職時に管理職資格を持っていた場合はその資格をもったまま復職することができます。子育て社員や介護に関わる社員も諦めることなく能力を生かして活躍できるよう、ユニーでは働き方や制度を拡充しながら、男女が共に働きやすい職場環境を整え、ワークライフバランスを推し進める取り組みを続けていきます。

※LSP:達成したい売場目標を決め、それを実現するために必要な作業・手順、時間等を設定し、誰がいつどんな作業をどのくらいの時間で行うか計画し管理すること。

◆ 出産休暇・育児休業・介護休業取得者

		2012年度		2013年度		2014年度		2015年度	
		男	女	男	女	男	女	男	女
出産休暇	正社員	0	36	0	28	0	28	0	35
	パートナース社員・キャリア社員・パートタイマー	0	46	0	47	0	44	0	57
育児休業	正社員	0	27	1	22	0	20	0	39
	パートナース社員・キャリア社員・パートタイマー	0	30	0	34	0	28	0	38
介護休業	正社員	2	1	0	1	0	1	0	3
	パートナース社員・キャリア社員・パートタイマー	2	22	0	18	1	22	0	23

◆ 社員概要



働きがいのある職場づくり

育児に対する制度がクローズアップされていますが、同時に介護に関する制度の充実についても従業員のニーズは高まっています。そこでユニーでは介護に関わる制度の充実にも力を注いでいます。例えば、2016年5月には介護を必要とするもの1名につき、要介護状態ごとに取得できる介護休業の期間・回数について拡大しました。

今後も、ユニーでは育児や介護による離職を減らし、従業員の状況にあった制度の導入を行い、経営理念の一つである「働きがいのある職場」をつくることで、皆が輝きながら働き続けることができるよう努めていきます。



業務サポート本部
人事部長
葛山 浩之

ダイバーシティ推進に向けて

ダイバーシティを推進するということは、性別や生活環境などに関わらず、様々な人が十分に力を発揮できる職場環境を整えることです。そのため、2016年5月に育児休業と介護休業期間の延長や正社員再雇用制度の導入、育児休暇の新設など、制度面の改定を進めてきました。しかし、制度は実際に利用されなければ意味がありません。制度を利用しやすい風土作りを進めることも同時に考えながら、働き方の改善に取り組んでいきたいと考えています。



業務サポート本部 人事
マネジャー 中村 真由美

輝く女性のキモチ研究所「デジラボ」

このプロジェクトは仕事・家庭に忙しい女性の気持ちに寄り添って、毎日をもっと楽しく、もっとうれしくするアイテム・企画をバラエティ豊かに提案するもので、ユニーグループで働く女性社員が部門の垣根を越えて結成しています。2015年12月には豊田自動織機の女性社員が女性向け車両アイテムを企画する「Vitz女子力向上委員会」とコラボレーションを行い、オリジナルVitzを発売しました。

今後も働く女性、忙しい主婦の皆さんの満足できる商品・サービスの開発に取り組んでまいります。



デジラボEDITIONの限定Vitz車両アイテム紹介



記者会見に臨む吉田本部長(左端)と大澤マネジャー(左から2番目)

スタイルワン研究所

ユニーグループの女性従業員(社員・パートタイマー)約260名で結成されたスタイルワン研究所はプライベートブランド「Style ONE」「Prime ONE」のブランド力向上を図るため、女性ならではのきめ細かい感性を取り入れたり、働く女性や経験豊富な主婦の意見を商品開発に反映させています。

また、現状商品からリニューアルに向けてのポイントを探しバイヤーに提言するなど、男性中心の商品開発バイヤーを縁の下で支える活動を行っています。



スタイルワン研究所でのミーティング

ユニーグループ・ホールディングスでのダイバーシティの取り組み

ユニーグループ・ホールディングスでは、2014年に発足したグループダイバーシティ推進委員会のもと、誰もが能力を発揮できる職場環境を整えようと努めてきました。

2015年11月には、女性の人材育成の一環として、ユニー、サークルKサンクス、さが美、パレモ、UCSの5社合同で初めて「キャリアデザインフォーラム」と「女性管理職フォーラム」を実施しました。

キャリアデザインフォーラムでは、一般職の女性社員26名が各本部、店舗から集まり、自分の強みや課題、価値観を見つめなおすことで今後管理職を目指すためのキャリア形成について考えを深めました。また、女性管理職フォーラムでは、管理職やそれに準ずる層の女性社員29名が活発な議論を交わし、管理職として周囲への影響力を拡大するための行動を探りました。



キャリアデザインフォーラム

特集「働くママはキラキラ輝いています」

ユニーには育児短時間勤務という制度がありますがこの制度を利用しているワーキングマザーであり、子どもを育てるママでもある4名に働くことの目的、意味、子どもを育てることの喜びなどを語ってもらいました。

育児休業・育児短時間勤務制度

2016年5月には、育児や介護による退職を防ぎ、仕事との両立支援に関する制度をより利用しやすくするために拡充を図りました。育児休業は今までは原則1年間、保育所へ入所できない場合などは1年半でしたが、子どもが1歳6か月を経過した直後の4月末日まで期間を延長可能となりました。なお、父母がともに育児休業を取得する場合は、1歳2か月までの間に1年間取得できます。

また、ユニーでは子育て中は、正社員で最大2時間30分、パートは2時間短縮できる育児短時間勤務制度を導入し、子どもが小学校3年生の終期になるまで利用できます。また、半日単位で取得できる子の看護、介護休暇などの制度があります。昨年度は、育児休業は正社員で36名、非正規社員で31名が取得をし、全員が仕事に復職しました。



営業統括本部 管理部
マネジャー
庄司 佳織

アピタ稲沢店
業務課
鈴木 貴子

IT物流本部 ECビジネス部
マネジャー
岡田 真理

業務サポート本部 CSR部
マネジャー
土井 万寿美

大変な出産を経て、職場のことや自分の仕事が気になって仕方なかった休業中

- 私は自宅に近いこともあり、育児休暇中も2カ月に1度職場に向向っていました。上司からメールをもらおうと復帰を待っているような気がして嬉しかったです。
- 上司とメールで連絡を取ったり、ランチに誘ったりしてもらいコミュニケーションを取っていました。育児をしていると社会から取り残されたように感じることもあるので、外出する機会をもてることは情報収集やリフレッシュにも繋がりとてありがたく思いました。また、所属する部署が出展する社内外でのイベントに子どもと一緒に顔を出したりなど、仕事の事を考える時間は結構あった気がします。

どうして育児をしながら働きたいと思ったのでしょうか？

- 復帰して3カ月なのでまだまだ休業中との生活の変化へ対応しきれななく戸惑う事も多いのが現状です。ただ、復帰後自身が担当している環境学習の運営で久しぶりに店舗へ出向いた際、自分が休業中も変わらず取り組みが続いていて地域の子も達が笑顔で参加しているのを見て、自分の取り組みが定着し地域社会に役立つ事ができたと感じ、嬉しく思いました。
- 仕事に使命感をもっているため職場のメンバーから頼りにされていると感じること。また、先輩に子どもがいても働き続けられるという姿を見せ、「先輩みたいに頑張りたいです」と言われることが嬉しいです。ユニーの中に働きながら子どもを育てる方が増えたらいいと思います。また、先の話ですが働く私の姿を見て育った娘が大人になった時、出産しても働き続けられると思ってくれたらいいと思います。
- 子どもが生まれてから安心・安全への関心が高まり、栄養価の高い商品や簡単に作れる料理への興味も深まりました。将来的には子育ての経験を生かして子ども用品の開発などにも関わってみたいとも考えています。
- 同僚が育児をしながら働いている人が多かったので、元々復職することがあたり前という感覚を持っていました。今後機会があればベビーカーママでもお買い物しやすいお店づくりなど、母親目線を生かした店舗開発にもチャレンジしたいと思っています。また子どもも小学生になりこれからの教育のためにも安定収入が得られる事も大事ですね。

職場に復帰です。その時サポートしてくれたのは家族でした

- 基本的には決まった時間に帰宅できますが、事前に予定がわかっていたりする場合は実家の母親にサポートしてもらうこともあります。主人は復帰直後は家で子どもをみればいいんじゃない、などと言っていましたが、今では「働いてくれてありがとう」と言葉をかけてくれます。
- 主人が家事、子育てなど家庭全般を積極的に取り組んでくれています。社内結婚なのですが、買い物店舗で勤務している主人が担当で時間短縮を図っています。我が家の合言葉は“フィフティフィフティ”です。

これからワーキングマザーになろうとしている後輩たちへのメッセージ

- あまり堅苦しく考えることはないと思います。私は普通に働いて普通に出産しています。子どもにとっても働いているお母さんが普通になっているみたいですね。土曜日も仕事ですが、子どもは「仕事頑張ってるね」と送り出してくれますよ。
- 私は働くことには覚悟と信念があると思います。入社したらまずは勉強して昇格してから出産することが、復職後働き続けるうえで働きやすい環境となると思います。
- 先のことはまだ見えないことはありますが、安易に辞めるべきではないと思います。制度をよく勉強して活用すれば仕事を続けていくことはできます。そして可能な限り前向きに、毎日楽しく仕事に取り組みたいです。
- 子育てをしながら仕事をする事は確かに忙しくて大変です。しかし、仕事をしていくうえでいろいろな人と知り合い、学びながら子育てでも仕事も楽しむ。そして、自分の取り組みが地域貢献や会社の価値が上がることに繋がるといことは、本当に素晴らしいことだと思います。

さあ、働きながら輝くワーキングマザーになりましょう!





「未来の子ども達に美しい自然を残したい」

ユニーは環境に優しい生活をお客様と一緒に進めていきます。



未来のために、いま選ぼう。



ユニー株式会社

愛知県稲沢市天池五反田町1番地

TEL.0587-24-8093 FAX.0587-24-8034

http://www.uny.co.jp



この印刷物に使用している用紙は、森を元気にするための間伐と間伐材の有効活用に役立ちます。



この報告書の印刷・製本工程で使用した電力量300kWhはグリーン電力でまかなわれています。



2016年9月発行②